

平成30年度

県南地区「学校と地域の連携・協働」活動事例一覧

1 小学校

(1) 大仙市

学校名	大仙市立大曲小学校		
活動名	学校支援地域本部事業主催によるサタデースクール	活動内容	①
活動の概要	<p>大曲小学校支援地域本部が実施しているサタデースクールは、子どもたちの「やってみたい」という要望に応えるとともに、地域の方々から学び、共に活動するという貴重な体験の場を子どもたちに提供するという目的で進められてきた。今年度も、駅前商店街の空き店舗を活用した大曲交流プラザ「のびのびらんど」を会場に、四つの講座、計9回開催した。</p> <p>【サタデースクールの実際】</p> <p>1 「将棋」(12月1日、8日、15日、22日の4回実施) …学校の将棋クラブでお世話になっている、将棋協会4名の方々から指導していただいた。将棋初体験の1・2年生の子どもたちも見る間に上達し、もっと続けてやりたいという声が多く聞かれた。</p> <p>2 「おやつ作り」(1月12日、19日、26日の3回実施) …1回目と3回目は、大曲婦人会・老人会の方々から、子どもたちでも作ることのできるヘルシーなおやつ作りを教えてくださいました。おばあさんたちと会話をしながら、楽しいひとときを過ごした。2回目は、初めてを試みとして、菓子司「つじや」さんの指導のもと、「花火男焼き(どら焼き)作り」に挑戦した。本格的な和菓子作りを体験し、作った花火男焼きをお土産として持ち帰ることもでき、大好評であった。</p> <p>3 「大曲納豆汁作り」(2月2日実施) …今年は、親子での参加も呼びかけた。大曲旨めもの研究会の方々から、B級グルメとしても有名な「大曲納豆汁」の作り方を伝授していただき、子どもたちだけでなく親子での参加もあり、みんなで地域の伝統料理を作って味わうことができた。</p> <p>4 「大曲の花火～おもてなし講座～」(2月9日実施) …来年度の大曲の花火で活動を予定している、「おもてなし隊(仮称)」の設立に向けての勉強会を行った。この講座は、新年度になってからも開かれる予定である。</p>		
○成果と課題	<p>○今年から、新しい試みも取り入れての実施となど。一度参加した子どもたちが、他の講座にも参加する。地域のアイディアも高まる。活動に参加できない子どもたちも、活動の計画を立てるよう地域から</p> <p>●活動に参加できない子どもたちも、活動の計画を立てるよう地域から</p>		



学校名	大仙市立東大曲小学校		
活動名	職場体験学習(6年 総合的な学習の時間)	活動内容	①
活動の概要	<p>6年：総合的な学習の時間「もっとすばらしい自分へ」～職場体験学習～</p> <p>1 ねらい ○職業体験やインタビューを通して、仕事の内容や仕事への思いが分かり、自分の夢の実現を目指して努力しようとする気持ちをもつ。</p> <p>2 職場体験学習 ○グループごとに四つの職場へ行き、職場体験を実施した。</p> <p>〈三浦生花店〉 生花店の仕事内容や花の種類を教えてくださいました。一人一人がフラワーアレンジメントを体験した。飾る場所や贈る相手を考えて生けることの大切さを学んだ。</p> <p>〈埋蔵文化財センター〉 仕事の内容を教えてくださいました。土器の組み立て体験をした。実際は発掘した土器に一つ一つ番号を付けて組み立てることを知り、根気のいる作業にびっくりしていた。</p> <p>〈高畑保育園〉 学校のすぐ近くの保育園で、何回か交流しているものの、立場を変えての職場体験であり、仕事の楽しさや大変さを実感していた。</p> <p>〈日の出ベビー保育園〉 お遊戯会の練習の見学、遊びの補助体験をした。保育は、特に安全や命を大切にすることを聞き、人と関わる仕事で重要なことが理解できた。</p>		
○成果と課題	<p>○仕事の内容や仕事への思いを、働いているの方々から直接伺うことができた上、その仕事的一端を体験でき、子どもたちは、仕事や働くことに対する思いをより深めることができた。</p> <p>○自分の職業観や進路、学習する意味などについて真剣に考える機会となった。</p> <p>●校外での活動だったため、一つの職場しか体験できなかった。様々な職種の体験ができるような機会をもてれば、子どもたちにとってキャリア発達を促すよい体験ができると思う。</p>		



学校名	大 仙 市 立 花 館 小 学 校		
活動名	「さけのふるさと 花館」(3年 総合的な学習の時間)	活動内容	①
活動の概要	<p>花館地区を流れる玉川は、古くからさけが遡上し、その漁により地域の経済や文化が発展してきた。現在も学区内には、漁のためのウライ(抵抗板式魚止め装置)が秋に設置される。これは、全国有数の規模を誇る施設である。また、資源を守るための市営の水産ふ化場もある。</p> <p>本校では、3年生が、4月の放流式で稚魚を放流する。それをきっかけとして、総合的な学習の時間に、さけの体の仕組みや、回遊の様子等についての調べ学習を行う。そして、11月のフィールドワークで、ウライや水産ふ化場を見学し、さけの遡上の様子や採卵・受精について学習するとともに、それまでの校内での学習で知りたいと思ったことや疑問に思ったことについて質問をする。</p> <p>これらの学習を支援して下さるのは、地元にある「雄物川鮭増殖漁業生産組合」や「大仙市鮭ふ化放流事業組合」の方々である。子どもたちのためになるならと学習のための準備をしっかりと行ってくださり、楽しい講話もして下さる。また、子どもたちの質問にも丁寧に答えてくださる。</p> <p>地区では、さけに関する行事も盛んである。花館公民館を窓口、地区の団体が主催する「花館さけ祭り」は、全校の児童が参加可能でありさけのつかみ取りや料理の試食が行われている。さらに、花館小学校の保護者向けにさけの料理教室も行われており、好評である。</p>		
○成果と ●課題	<p>○子どもたちは、さけが世界を旅することに驚き、その資源を守っている施設が身近にあることに感動する。それらの仕事を行っているのが地区の方々であることを知り、確実に郷土愛を育んでいる。</p> <p>●さけという天然資源を守るために、児童会では何ができるか、また、家庭で行えることはないかなど、学年を超えた発展的・主体的な取組を検討したい。</p>		



学校名	大 仙 市 立 内 小 友 小 学 校		
活動名	地域人材の活用 図書ボランティア「ポケットさん」の活動	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では「平成30年度みんなの目標」の一つに「たくさん本を読もう(全校7,000冊)一人69冊読めばいいね!全校昼読書の時間だけでなく、家でもたくさん本を読もう!図書室からいっぱい借りよう!」を目標に掲げて、本貯金カードや代本板の活用、ワクワクブック委員会による呼びかけ、貸し出し活動等を行って読書活動への取組強化を図っている。しかし、実際はこれから紹介する「ポケットさん」の協力が児童の読書活動の意欲向上に役立っていることが大きいといえる。</p> <p>1 平成30年度「ポケットさん」活動人数 7名(PTA会員4名, PTAのOGの方3名)</p> <p>2 主な活動内容</p> <p>(1) 読み聞かせ 年18回(各学年3回)</p> <p>(2) 季節に応じた図書室及び廊下の飾り付け</p> <p>(3) ラベル貼り, カバー掛け</p> <p>(4) 図書の整理</p> <p>以上のように、出勤前の時間に学校へ来て、ポケットさん仕様のエプロンを身にまとい児童に読み聞かせなどを行ってくれている。季節に応じた飾り付けも、写真のように児童の心躍る素晴らしい飾り付けをしてくれる。先日、1年生を引き連れて図書室に行ったところ、靴下にプレゼントが入っていないかと、目を輝かせて中をのぞき込む姿が見られた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○ポケットさんには御難儀をおかけしているが、読み聞かせや図書室の環境づくり等の活動を通じて、本好きな児童の育成に大きな役割を果たしている。</p> <p>●全校でよろしくの会やありがとうの会を実施して、感謝の気持ちを表しているが、学年ごとに年度最終の読み聞かせの日に感謝の気持ちをお届けしたい。</p>		





【ポケットさんよろしくの会】




【図書室X'masの飾り付け】



【6年生への読み聞かせ】

学校名	大 仙 市 立 大 川 西 根 小 学 校		
活動名	地域と共に WESTフェスタへの参加	活動内容	②
活動の概要	<p>1 日 時 平成30年10月6日(土)</p> <p>2 場 所 大川西根公民館</p> <p>3 内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年で11回目の秋祭り行事である。公民館の体育館では地域サークルの作品が展示され、総合センター駐車場では様々な催し物が開催されるなど、地域コミュニティの活性化による地域各世代間の交流の場になっている。 1部・2部…演奏・演舞 夕方…仮装カラオケ大会、福引き抽選会 夜…フィナーレ花火の打ち上げ <p>4 地域貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校児童の書写作品展示・出し物 (1) はじまりの歌(歌とダンス) (2) ふるさと(歌) (3) インспекター(6年生)のあいさつ 学校で収穫したサツマイモを使って、PTA母親委員の皆さんから協力をいただき、200食分のさつま豚汁を作り、会場で地域の皆さんに振る舞った。サツマイモ作りには公民館の支援をいただいている。 		 
○成果と課題	<p>○地域の方々に楽しんでいただくとともに、本校の音楽活動を広くアピールすることができた。また、子どもたちの歌とダンスを優しく見守る眼差しや、たくさんの拍手を送ってくださる姿などから、地域が本校に寄せる期待を強く感じた。子どもたちも、自分たちの活動に誇りをもつことができ、地域活性化の一助となる活動であった。</p> <p>●スポ少の大会で参加できない児童がいた。公民館事業への参加であるため、期日の調整は難しい。団員が参加できない時のためのプログラムも準備するなどして対応している。</p>		

学校名	大 仙 市 立 藤 木 小 学 校		
活動名	全校のり巻きづくり&収穫祭	活動内容	①
活動の概要	<p>1 実施の概要</p> <p>5月に全校で田植えに取り組み、9月には全校で稲刈りを実施した。11月には実習田で収穫した白米を使って、全校児童及び保護者やJAの方が一同にそろって、ジャンボのり巻きを作り、体育館で食べた。午後からは、各学年で取り組んだ栽培活動について発表をしたり、協力していただいた方々への感謝の気持ちを伝えたりして収穫祭を実施した。</p> <p>2 活動の内容</p> <p>(1) のり巻きづくりについて</p> <p>全校児童と保護者等を合わせて総勢160名で、長さ13mののり巻きを2本作った。完成したところで食べやすい大きさに切って、その後地区ごとに昼食会を行った。</p> <p>(2) 収穫祭について</p> <p>午後からは、田んぼの学習や農園活動に協力していただいた、JAあきたおばこ大曲南支店長、稲作指導者、大曲農業高等学校の先生を招いて収穫祭を実施。各学年で取り組んだ栽培活動について映像を交えながら発表した。</p> <p>収穫した白米は、5年生が中心となって小分けして各家庭に配布した。</p>		
○成果と課題	<p>○5年生を中心として、春の田植え、秋の稲刈り、のり巻きづくり、収穫祭を実施し、年間を通して児童と保護者、地域の方々が一緒になって活動したり、会食したりすることによって、地域への愛着心や地域との一体感が育まれている。</p> <p>●地域の方々の協力やJA等の協力なしでは取り組めない活動となっているので、引き継ぎ等、継続するための取組をしっかりと行っていく必要がある。</p>		

学校名	大仙市立四ツ屋小学校		
活動名	自動車学校での交通安全教室	活動内容	①
活動の概要	<p>1 趣旨 (1) 自動車学校や地域の協力を得て、自動車学校内の諸施設を活用し、実践的な交通安全教室（歩行練習・自転車実技）を行う。</p> <p>2 協力団体・関係機関 ・大曲中央自動車学校 ・四ツ屋地区交通安全会 ・大仙警察署</p> <p>3 活動内容 (1) 実施日 平成30年4月27日（金） (2) 場所 大曲中央自動車学校研修室及び教習コース (3) 対象 全校児童（171名） (4) 準備 ①自動車学校との日程・研修内容の打合せ ②大仙警察署への協力要請（指導補助） ③地区交通安全会への協力要請（自転車運搬・指導補助） ④市バスの手配 (5) 実際 ①自動車学校の校長先生からのお話の後、学年ごとに研修に移る。 ②低学年は、教習コースで歩行練習を行い、歩行の際の四つの大切なポイントについて教官や交通安全員の指導を受ける。中学年以上は、自転車実技を行い、自転車乗りの際の五つの大切なポイントについて指導を受ける。 （例：交差点、車の陰、見通しの悪い場所、踏切等） ③学年ごとに、学習したことの感想発表や感謝の言葉を述べる。 ※低学年のみ、6月22日に2回目として自転車実技を同じ場所で開催</p>		
○成果と課題	<p>○自動車学校の教習コースを利用させていただくことで、子どもたちは実際の道路をイメージして、より実践的な学習を行うことができた。さらに、交通安全指導のプロである自動車学校の教官の方々や大仙警察署の方から指導していただくことで、効果的に、しかも安全に交通安全教室を行うことができた。学区内には、交通量の多い国道、狭い旧道、新幹線の踏切等がある中、地域の関係機関と連携した、成果のある取組ができています。</p> <p>●時々地域住民の方から、道路の歩き方や自転車乗りの危ない場面を見かけたとの声をいただくことがある。子どもたちの交通安全に対する意識を高揚させ、一人一人が交通安全教室で学習したことを、実生活に生かし続けるために、どのような継続的な取組をしていったらよいかを思案中である。</p>		



学校名	大仙市立角間川小学校		
活動名	地域の伝統行事や歴史的建造物と関わって	活動内容	①・②
活動の概要	<p>1 角間川盆踊りへの参加 本校では、市無形民俗文化財に指定されている角間川盆踊りの参加に長年取り組んできた。今年も7月に2回、角間川盆踊り保存会の協力で、1年～4年までは踊り、5・6年はお囃子の練習を行った。今年、踊り手を増やして盆踊り継承を進めるため、藤木小学校の児童も参加することとなった。公民館を会場に4回の講習会が行われ、中学生も参加して合同練習を行った。また、7月のPTA学習参観の折には、保護者と子どもと一緒に踊る練習会も初めて行った。残念ながら本番当日は豪雨に見舞われ中止となったが、残念に思った子どもたちが学習発表会での披露を希望し、プログラム構成を変更して披露することができた。</p> <p>2 歴史的建造物との関わり 平成28年から、角間川地区では「角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業」が市の事業として行われている。本校では、「この事業を支えるのは子どもたち」との認識を基に、事業と関連付けた学習を教育課程の中に位置付ける作業をスタートさせたところである。</p> <p>(1) 旧本郷家住宅の見学・調査（4年） 旧本郷家住宅の一般公開に合わせて見学に行き、後日、疑問に思ったことを地域の詳しい方に聞いたり、説明を受けたりして新聞にまとめる学習を行った。</p> <p>(2) 旧本郷家清掃ボランティア活動（5・6年） 旧本郷家住宅のお盆の一般公開に向けて、清掃ボランティアを行った。秋には落ち葉掃きボランティアも行った。</p>		
○成果と課題	<p>○地域の伝統行事や歴史的建造物への関わりを通して、地域の人々とふれあい、自分たちの学校生活が地域の人々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちを醸成する機会となった。</p> <p>○角間川盆踊りの練習や旧本郷家住宅の見学・奉仕活動を通して、自分たちの地域への愛着や誇りが高まっていることが、活動の振り返りなどに見られた。</p> <p>●伝統行事への参加や歴史的建造物でのボランティア活動にとどまらず、歴史等の学習によって理解を深め、さらに地域への愛着や誇りが高められるようにしたい。</p>		



[親子盆踊り練習会]



[清掃ボランティア]

学校名	大 仙 市 立 神 岡 小 学 校		
活動名	地域の施設や人材の活用	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、地域の施設や人材を活用した学習が盛んである。今年度実施した学習は、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生 ①サツマイモの苗植えと収穫、収穫パーティー（地域の方の畑） ②まち探検：畜産試験場、宝蔵寺、(株)セーコン ・ 2年生 ①まち探検：刈穂酒造、笹倉公園、八幡神社、かみおか嶽雄館、道の駅かみおか、和火屋（花火会社）、カブト虫採り名人宅 ②ふるさと村（電車でGO） ・ 3年生 ①鮭の稚魚放流 ②東北醤油工場見学 ・ 4年生 ③まち探検：嶽雄館、唐松神社、嶽の湯、道の駅協和 ①桜の追肥（神岡さくら会） ②消防署・クリーンセンター見学 ③秋田空港・種苗交換会見学 ④ふるさと村（伝統工芸体験） ⑤鮭の産卵・オジロワシ・サギのコロニーの見学（地域の先生） ・ 5年生 ①田植え・稲刈り（JAほか） ②田んぼの生き物調査（JA） ③食育推進事業「郷土料理だまこ鍋」に挑戦 ④国際教養大学生との交流 ・ 6年生 ①菜の花タイム（社会福祉協議会）＝バリアフリー体験 ②秋田大学での理科実験体験 ③地域の高齢者とのコサージュ共同製作（卒業式で使用） ④修学旅行朝市体験（仙台市） <p>このほか、全校的な活動では、①花壇の苗植えへの協力、②夏休み学習会の先生、③地域の先生による神岡地元学（太鼓、梵天唄等）、④縄ないや遊び、製作等の体験活動を通して地域の高齢者とふれあう「ニコニコ広場」、⑤PTA親子研修会の「道徳心を育む偉人伝教育」等がある。また、今年度は、複数学年による合同活動として、①いのちの大切さ講座（赤ちゃん・母親体験；5・6年）、②愛幸園訪問（高齢者施設；3～5年）、③500歳野球への協力（のぼり旗作り）等もあった。総じて、比較的長期的で継続的な地域連携の取組がなされており、本校の特色になっている。</p>		
○成果と課題	<p>○本校には、学校支援地域本部が設置されているので、地域との連携が図りやすい。また、専門的な見識をもった地域の先生を積極的に招き入れ、その指導や授業を「神岡地元学」と称して、地域の教育力をフルに活用することができた。よって、子どもたちにとって魅力ある体験活動を提供しながら、ふるさとを愛し、ふるさとに貢献しようとする人材の育成を推進することができた。</p> <p>●地域と学校双方にメリットのある活動や、より地域貢献にシフトした連携の姿を追求する必要がある。</p> <p>●体験活動等の指導者の高齢化への対応、新たな地域人材の発掘・確保が必要になってきている。</p>		




学校名	大 仙 市 立 西 仙 北 小 学 校		
活動名	タイ王国のアップル先生から学ぶ（外国語活動・外国語を中心に）	活動内容	①
活動の概要	<p>ここ数年、西仙北地域在住の佐々木さんのコーディネートにより、タイ王国のバンコク地区中学高等学校日本語センター長を務めておられる、ウィダーラット・パーントーン（通称アップル）さんが来日されています。</p> <p>今回アップルさんは、西仙北小学校、西仙北中学校、西仙北高等学校の各校において、1か月ずつ研修されました。秋田県の教育管理及び運営のシステムを学ぶことにより、青少年の更なる成長に貢献する文化大使のような役割を担えるようにと、長期研修となったようです。せっかくの滞在中の貴重な人材ですので、職務を遂行されながら1か月ごとのお約束の中ではありましたが、中学校・高等学校から協力依頼への快諾いただき、午後に外国語活動がある場合、小学校でALTのサポート並びに英語指導をお願いしました。</p> <p>初めの1か月（9月）は、小学校の全ての学級・学年において交流授業をしていただきました。アップルさんは、タイ王国の言語や生活についていろいろと教えてくださり、毎日違う素敵な民族衣装を披露してくださいました。そして、身に付けている色にも意味があることを教えてくださいました。アップルさんは、特別支援教育にも興味を示され、特別支援学級にも多くの時間、足を運んでくださいました。朝のフラワータイムでは、英語での簡単な会話、それにタイ語でのあいさつや数を教わるなど、たくさん交流することができました。</p> <p>どの子どもたちにも、優しく丁寧にタイ王国について教えていただきありがたかったです。</p>		
○成果と課題	<p>○今年度、9月に新しいALTの先生（ルーク先生）が赴任されました。大学を卒業されたばかりという若い先生で、日本語は得意ではありません。授業の打合せや授業を進める際に、アップル先生が通訳をしてくれたのでたいへん助かりました。おかげで子どもたちにとって、分かりやすく楽しい授業となりました。</p> <p>●毎年、研修される先生が来られるといいのですが、タイとの友好が繋がってほしいと願います。</p>		



学校名	大仙市立中仙小学校		
活動名	八乙女学習 ～守ろう 伝えよう 地域の宝 八乙女山～	活動内容	②
活動の概要	<p>平成21年（2009年）から、八乙女山を守る会のみなさんが行っている桜守の仕事を、本校6年生がお手伝いしている。今年度で10年目となる活動である。</p> <p>今年度は学習のスタートに当たり、樹木医の黒坂登氏から桜の話を伺い、守り育てていく難しさや大切さを学んだ。5月中旬の八乙女山自然観察会では、小グループに分かれて、八乙女山の桜だけではなくその周りの植物の豊かさに気付かせていただいた。下旬には、桜の木への肥料やり体験を行い、6月末には植樹・育樹体験として八乙女山の頂上付近にみんなで力を合わせて植樹をすることができた。7月の初めには、八乙女山を守る会の事務局の皆川貢さんから八乙女山の歴史を学び、八乙女山を取り巻く自然と人々の暮らしが脈々と続いていることに気付いた。さらには、来年度八乙女山の桜100年記念に向けて、守る会及び中仙支所農林建設課の皆さんと共に、5・6年生によるポスター及び標語づくりを計画している。大仙市中仙をアピールするとともに、地域の宝を受け継ぐ活動と意欲を大切に、キャリア教育を進めている。</p>		
			
	【5月】樹木医の黒坂先生の講義と自然観察会	【6月】桜の植樹	【7月】八乙女山の歴史を学ぶ
○成果と課題	<p>○専門的な知識のある方々に学び、地域の八乙女山を大切に思う先輩の熱い心にふれ、一緒に桜のお世話の手伝いをする中で、ふるさと八乙女山の桜に対する思いが醸成された。</p> <p>○全校八乙女山ハイキングでは、6年生が体験したことを生かし、八乙女山をステージにオリエンテーリングを運営し、全校児童を楽しませるとともに、その魅力を伝えることができた。</p> <p>●今後も、桜を守る活動を通して与えられた活動だけではなく、「ふるさと中仙を大切にしたいとはどういうことか」を主体的に考えながら、自分たちにできることに取り組み、地域に貢献する活動を増やしていくことが課題である。</p>		

学校名	大仙市立清水小学校		
活動名	学ぼう！深めよう！ふるさと清水から	活動内容	②
活動の概要	<p>本校は、児童数82名の小規模校であるが、明るくパワーあふれる子どもの多い学校である。また、保護者や地域の方々は、清水の子どもたちをみんなで育てていこうという意識が強く、学校に対して協力的である。子どもたちは、様々な場面で地域の方々と交わり、関わる中で多くのことを学ぶとともに、地域に大きく貢献している。その一部を紹介する。</p>		
	<p>1 清水地区住民体育祭 6月17日（日）に第55回清水地区住民体育祭が開催された。この体育祭は、幼児から大人まで、地域住民が多数参加する歴史と伝統のある一大イベントである。子どもたちは、競技に参加したり、伝統の水小太鼓を演奏したり、運営に関わったりしながら、地域の一員としてこの行事に貢献している。この行事は、小学生がいなければ成り立たないものとなっている。</p>		【地区が一体となった入場行進】
	<p>2 黒土神楽 昭和63年、300年の歴史をもつ黒土神楽が、当時の小学生と町の人たちの熱意によって復活した。それ以来、本校では黒土神楽を地域貢献の一つと考え、代々6年生が下級生を指導する形で、児童の間で継承している。復活後30年になる神楽に誇りをもつとともに、地域の一員としての自覚を高めることができる行事である。毎年、ドンパン祭りの際に披露しているが、今年は雨で中止となったため、大曲仙北小中音楽祭で上演した。</p>		【黒土神楽】
	<p>3 イバラトミヨ保護活動 環境省レッドリストにおいて絶滅危惧種1A指定されている「イバラトミヨ雄物型」の保護活動を行っている。定期的な水質調査と生息池の清掃活動を通して、生態系を守ることで地域の自然環境保全に貢献している。</p>		【イバラトミヨ保全活動】
○成果と課題	<p>○地域行事に参加し地域の方々とふれあう中で、自分も地域の一員であるという意識を高めるとともに、自分が地域に貢献しているという自己有用感を実感できるようになった。</p> <p>●地域行事や地域そのものを持続可能にするために、学校と地域の「協働」が必要である。そのためには、公民館のリーダーシップに期待したい。</p> <p>●地域行事参加等の教育課程への位置付け、カリキュラム・マネジメントが課題である。</p>		

学校名	大仙市立豊川小学校		
活動名	地域のよさを学び、発信する豊川っ子	活動内容	②
活動の概要	<p>1 水神社清掃（5・6年） 5・6年生が総合的な学習の時間に、学区にある「水神社」の清掃を行っている。ここには県内唯一の国宝である「鏡」が奉られており、本校の校章にもなっている。活動としては、神社の総代長さんや氏子さんたちから、地域に伝わる国宝の由来等を伺い、地域の財産を学ぶ一方、地域の一員としてそれを大切にしようとする気持ちを育むため、毎年春と秋の2回、地域の方々と一緒に境内の清掃を続けている。活動を喜ぶ地域の声に励まされ、子どもたちの充実感と意欲は継続されている。</p> <p>2 「円満造（えまぞう）甚句」の踊りを継承し披露（全校児童） 豊川地域生誕の宮大工「円満造」さん由来の「円満造甚句」は、ドンパン節の元唄といわれる。その踊りの継承を通して、全校児童が地域の先生方から学び、地域へ発信する活動を30年以上続けている。年度初めに全校で踊りをマスターし、春の地区民運動会から夏のドンパン祭り、秋の学習発表会や分館祭り、豊成中学校の学校祭への出演等、発表の機会をいただいて地域の皆さんに踊りを披露している。紺の半纏に赤い脚絆、黄色の帯を装ったしなやかな手つきの児童たちは、伝統の踊りを通して、学校と地域をつないでいる。</p>		 
○成果と●課題	<p>○地域教材を地域講師から体験を通して学ぶことは、自分たちの近くにある大切なもののよさを、より身近に感じることが出来る活動である。先輩から受け継ぐ誇りや、喜んでくださる地域の方々の笑顔が、子どもたちの自主性を育んでいる。児童の感想等からは、自己有用感につながる言葉や地域の一員としての意識の高まりが見られた。</p> <p>●児童数の減少で、踊り全体のボリュームや、水神社清掃の範囲等、活動の幅を縮小せざるを得なくなっている。今後、参加態勢や内容の見直しなど、工夫や改善が必要であろうと考える。</p>		

学校名	大仙市立豊岡小学校		
活動名	地域と共に歩む「学校田活動」	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、平成19年度より「学校田活動」として「田植え」や「稲刈り」活動を行い、現在では、「水土里ネット田沢疎水」を始め、JA・老人クラブ他、地域の多数の方々の協力を得て実施している。その締めくくりとして、協力をいただいた方々を御招待し、「収穫感謝祭」を実施している。</p> <p>1 全校田植え（5月29日） (1) 協力者…20名、その他見学者多数。 (2) 内容…5年生による「型付け」作業から始まり、縦割り班ごとに田植え作業。高学年がリードし、低学年も意欲的に作業を進めた。泥んこまみれの児童が続出した。</p> <p>2 全校稲刈り（10月3日） (1) 協力者…22名、その他見学者多数。 (2) 内容…前日までの雨のためぬかるんだ田んぼに突入。上学年は足を取られながらも、がんばって刈り取り作業。東ね方は協力してくださった方へ依頼。下学年は上学年が刈り取った稲をはさ掛けするために、はさ場へ運搬。数日の天日干しの後、5年生が脱穀作業と籾摺り作業をして、収穫作業完了。</p> <p>3 収穫感謝祭（11月16日） (1) 招待者…30名（内協力者18名）、その他見学者3名 (2) 内容…昨年度実施できなかったが、保護者や地域の方々の要望もあり、内容を変更して復活。JAおばこ女性部豊岡支部11名の皆さんの協力を得て、5年生による「海苔巻き」作りの後、全校児童が縦割り班に分かれて「だまこ」作り。協力してくださった地域の方々と特製の「だまこ汁」に舌鼓。途中でクイズやパフォーマンスありで、大いに盛り上がった。</p>		 
○成果と●課題	<p>○地域住民とのふれあいは、子どもたちにとって貴重な体験であり、地域の一員としての意識が高まっている。</p> <p>○地域住民は子どもたちとの交流をとっても楽しみにしている。実践を通して信頼関係を築くことができたし、学校へ寄せる期待の大きさを感じることができた。</p> <p>●5年の総合的な学習の時間を発展させた活動であるため、5年生への負担が大きくなっている。総合的な学習の時間との関連を整理し、各学年の負担を平準化していきたい。</p>		

学校名	大仙市立協和小学校		
活動名	図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせ	活動内容	①
活動の概要	<p>平成20年の開校以来，国や県，大仙市の支援をいただき，「学校支援本部事業」を実施してきました。この事業の中心は，図書ボランティアの皆さんによる読み聞かせです。特に，図書ボランティアとして今年度は20名の方が登録し，毎月2回ほどの読み聞かせをしてくださっております。男性の読み聞かせは低音の魅力がありますし，朗読+ピアノの演奏での読み聞かせは，子どもも大人も引き込まれます。</p> <p>11月1日の「だいせん読書の日」に合わせて実施された読書集会は，図書委員会と図書ボランティアの皆さんによるコラボ集会。特に，ボランティアの皆さんは，巻物を使って「へびのしっぽ」というお話を読み聞かせてくださいました。役になりきり，声優さん？と思われるくらい上手な語り口で子どもたちを見事に引き込んでいました。おかげで，図書室の本の貸出冊数（11月）がいつもの月の1.5倍に増えたとか。</p> <p>集会後の職員室では，「作家が選んで使っている大事な言葉，きれいな言葉が耳から入っていく。聞く楽しさを味わうことで，もちろん聞く力もついていくし，言葉そのものの力がついてくるんだよな。」という読み聞かせの効果についての話題になりました。いずれ，子どもたちが「おもしろい」と思ったものに夢中になる特性をうまく利用して，「聞く力」を育てていきたいものです。そういった意味においても，「読み聞かせの継続を」と願っています。</p>		
○成果と●課題	<p>○職員が読み聞かせの有効性を再認識したことで，普段の授業づくりに生かそうという前向きな姿勢になっています。</p> <p>○読み聞かせの効果により，子どもたちの読書量が増えています。</p> <p>●毎回，2名の方が読み聞かせに来校してくれますが，単純にクラスを半分に分けて2か所で実施しています。子どもたちの希望をとって聞きたい方に参加できればいいのですが，そういった調整面での課題があります。</p>		



学校名	大仙市立南外小学校		
活動名	こめこめ大作戦 「地域の協力をいただいた米づくり」	活動内容	①
活動の概要	<p>この活動は，地域の主要産業である米づくりを，地域や老人クラブ，保護者の皆さんに御協力いただき，田植えや稲刈りを行うことにより，農家の仕事や働くことの大切さ，苦労等を知るとともに，米づくりについての興味・関心を高めることをねらいとしている。さらに，お世話になった皆さんを招待して，収穫した米を使っておにぎりパーティーを開き，感謝の気持ちを表現する活動である。</p> <p>1 こめこめ大作戦 田植えの巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時 平成30年5月30日（水）10：10～12：00 場所 学校田 内容 老人クラブの方（こめこめ先生），地域の方，保護者・祖父母から協力をいただき，縦割りグループで学校田の田植えを行った。 <p>2 こめこめ大作戦 稲刈りの巻</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時 平成30年9月28日（金）10：10～12：00 場所 学校田 内容 老人クラブの方（こめこめ先生），地域の方，保護者・祖父母から協力をいただき，縦割りグループで学校田の稲刈りを行った。 <p>3 こめこめライスパーティー</p> <ul style="list-style-type: none"> 日時 平成30年11月14日（水）10：10～12：50 場所 本校体育館，家庭科室 内容 これまでお世話になった老人クラブの方（こめこめ先生），地域の方，保護者・祖父母を招待して，収穫した米でおにぎりを，学校農園から収穫した野菜で豚汁を作り，収穫を感謝するパーティーを開いた。調理には，西部健康増進センターと食生活推進会議南外支部の皆さんからも御協力いただき，食の大切さについても学ぶ機会とした。 		
○成果と●課題	<p>○こめこめ大作戦は，縦割りグループで協力しながら，土に触れ，汗を流し，一生懸命に働く貴重な体験活動となっている。地域の皆さんの温かい支援に，児童は感謝の気持ちをもつことができた。</p> <p>●今年度から学校田の場所が校門前となり，稲の成長の様子は観察しやすくなったものの，田んぼの管理を学校支援コーディネーターの方をお願いしている。しかし，負担が大きく，田んぼの管理をどのようにしていくかが課題となっている。</p>		





学校名	大 仙 市 立 高 梨 小 学 校		
活動名	「米米探検隊」地域の“お米の先生”から学ぶ	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、5年生が総合的な学習の時間に、地域の基幹産業である農業の稲作を取り上げて学習している。「米米探検隊」と名付けられたこの学習は、地元のJAを窓口として、地域の営農集団の“お米の先生”たちの協力をいただきながら実践されている。</p> <p>1 種まき見学 営農集団の代表の方から米づくりの流れについて話を聞いた後、播種プラントの見学をする。</p> <p>2 田植え 昔の田植えの様子や、その際小学生も立派な労働力だったこと、また、日本人の食生活の変化と稲作について講義を聞く。子どもたちの質問に答えてもらった後、実習田に移動して農家の方々に手ほどきを受け、補助していただきながら田植えを体験する。</p> <p>3 田んぼの生き物調査 夏の田んぼに入り、ヤゴやオタマジャクシ等の生き物を観察し、水田が環境を守る働きをしていることを学ぶ。</p> <p>4 稲刈り 昔の稲わらの活用方法や稲の運搬に用いた入れ物の変化、今後の農業と食糧問題についての講義を聞く。昔の人の生活が稲作を中心に営まれていたことを学ぶ。その後、田んぼに移動して稲刈りを体験する。</p> <p>5 米料理 JA生活指導員の皆さんの指導で、収穫した米を使った料理「韓国風海苔巻き」を作り、味わう。</p>		
○成果と ●課題	<p>○穀倉地帯に住んでいながら、子どもたちが農作業を体験することはほとんどない。また、機会がなければ、昔の稲作や農家の暮らしについての話を聞くことも少ないと思われる。“お米の先生”から、話を聞くことで、子どもたちは啓発され稲作に関する問題意識が高まり、子どもたちの課題づくりにつながった。また、実際に農作業を体験することで、その楽しさや農家の方の苦勞を知り、農業への関心や生産者への感謝の心が育ってきた。</p> <p>●体験活動の内容は営農集団側が企画しているので、子どもたちの課題解決につながらない場合がある。課題解決のために必要な活動を検討し、学校側の希望を取り入れてもらうようにしたい。</p>		



学校名	大 仙 市 立 横 堀 小 学 校		
活動名	日本の伝統文化や地域の歴史・文化に触れよう（6年）	活動内容	①
活動の概要	<p>本校のある仙北地区には国指定名勝「旧池田氏庭園」があり、学術上、そして鑑賞する上でもたいへん価値のあるものとして評価されている。本校では、社会科や総合的な学習の時間等の見学で、機会あるごとに活用している。</p> <p>6年生は、地域の貴重な文化財である「旧池田氏庭園」の見学を通してふるさとに対する愛着を深めたり、施設内での日本画鑑賞や茶の湯体験を通して、日本の歴史・文化への理解及び関心を高めたりすることをねらいとして、この活動を行っている。</p> <p>1 日本画鑑賞 ・MOA美術館担当者の協力を得て、「東海道五十三次」等の浮世絵の鑑賞をした。自分の好きな絵を選び、選んだ理由を話し合うなどして興味を深めた。</p> <p>2 庭園見学 ・案内ボランティアの方から、庭園内の施設について、特徴や文化財としての価値について詳しく解説していただいた。</p> <p>3 茶の湯体験 ・本校の「茶の湯・生け花クラブ」の講師（地域講師）を引き受けてくださっている方から指導を受け、庭園内の一室を借りて、茶の湯体験をした。</p>		
○成果と ●課題	<p>○様々な機会に、繰り返し地域の文化財を訪れることで、その価値を理解し、ふるさとに対する愛着を深めることにつながっている。</p> <p>○単なる見学ではなく、体験と組み合わせることで、より豊かな学びの機会となっている。</p> <p>●様々な方の協力を得てこの活動を行うことができているが、施設、講師、案内ボランティア、児童の移動のためのバス手配など、各方面への連絡調整が必要である。一元的に連絡調整ができると、より気軽に体験活動を実施することができるのではないかと思います。</p>		



学校名	大仙市立太田東小学校		
活動名	地域名人がゲストティーチャー！「クラブ活動」	活動内容	①
活動の概要	<p>◇太田東小学校のクラブ活動</p> <p>○ねらい ・異年齢の同好の児童（4～6年）が，協力して活動計画を立て，運営する。 ・自主的・実践的に活動に取り組むことを通して，個性の伸張を図る。</p> <p>○担当 教師が専門教科や特技を生かして活動の補助をする。 (ふるさと，サイエンス，ものづくり，スポーツ，デジフォト・PC)</p> <p>【ふるさとクラブの紹介】 地域名人が，地域の自然や素材を生かして子どもたちの笑顔もつくってくれた。 ・フラワーアレンジメント（6月） ・ジャムづくり（7月） ・ピザづくり（9月） ・きりたんぽづくり（11月） 講師の高橋広之さんは，学校評議員でもあり，お米ピザづくりやポン菓子づくりの指導に加え，川遊び，また，かまくらづくりや紙風船などの伝承行事にも詳しい，地域名人である。</p>  <p>○活動計画 1 全体オリエンテーションのあと，活動計画を作成する。 2 子どもたちの関心を一層高めるために，地域名人からのお話を交えながら，立案した計画にアドバイスをもらう。</p> <p>○名人の声&児童の声 名人；「子どもたちの歓声に達成感がありますが，もっと深めてみたい気持ちもあります」 ※地域にはたくさんの方がいて，もっと学校と接点があればという声も聞かれた。 児童；「名人のおかげで楽しく遊ぶことができました。簡単にできそうなことが多く，家族でやってみたいです。」</p>  <p>[ジャムづくり]</p>		
○成果と課題	<p>○地域名人の熱意いっぱいの指導とアイデアで，地域を知り地域に学ぶ機会を得ることができた。</p> <p>●クラブ活動に限らず，名人への継続した依頼はもちろん，関係機関とも連携しながらより多くの地域人材のリストアップが必要になる。</p>		

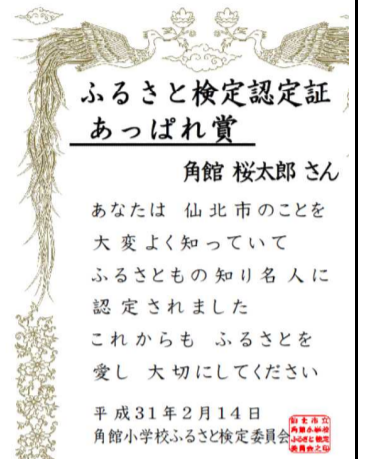
学校名	大仙市立太田南小学校		
活動名	地域の方々と楽しんだグラウンドゴルフ交流会	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では，「コラボ・スクール」として，近隣の幼・小・中・高の教育機関や保護者，地域住民，関係機関と連携・協働した教育活動を推進している。今回はその中から，5・6年生が地域の方々と楽しんだグラウンドゴルフ交流会について紹介したい。</p> <p>1 活動のねらい ・地域の方々とグラウンドゴルフを楽しみ，交流を深める。 ・学校の活動が地域に支えられていることを知り，感謝の気持ちをもつ。</p> <p>2 活動の流れ (1) 開会式 協会会長さんのお話，他 (2) ゲーム グループに分かれて8コースを回る。 打数の少ない順番に順位を決める。 (3) 閉会式 結果発表，表彰</p> <p>3 活動の様子 当日は，協会から12名の会員が参加し，一緒にプレーしながら児童の活動を支援して下さった。長いコースでは思うように球が飛ばずに悪戦苦闘している児童もいたが，協会の方々の手ほどきもあり，だんだん上達していった。空振りなどの珍プレーに笑いがこぼれる場面もあった。最後は，全員が全コースをクリアすることができ，みんなで喜び合った。 閉会式では児童全員に豪華賞品が贈られ，とてもうれしそうであった。協会の方々から「元気な子どもたちとプレーして楽しかった。また参加したい。」という声が聞かれ，大成功であった。</p>  		
○成果と課題	<p>○地域の方々と一緒にチームを組むことで，楽しく語り合いながらプレーする様子が見られ，交流を深めることができた。</p> <p>○グラウンドゴルフは，世代を越えて楽しめるスポーツであることを知るとともに，生涯にわたって様々なスポーツに親しもうという気持ちをもつことができた。</p> <p>●グラウンドゴルフ協会の方々から賞品を準備してもらったり，コースを設定してもらったりと開催に向けて多大な協力を得て実施している活動である。今後は，学校から，協会の方々へ感謝を伝えたり，地域に貢献したりする活動を計画していきたい。</p>		

学校名	大 仙 市 立 太 田 北 小 学 校		
活動名	第12回全校音楽劇「あの空に虹を！」	活動内容	①・②
活動の概要	<p>本校では、平成19年度から全校音楽劇に取り組んできた。今年度も地域と保護者、関係機関との連携のもと、その力を最大限に発揮した全校音楽劇を公演することができた。</p> <p>1 地域・保護者との連携 保護者が舞台、照明、着替え、受付、駐車場の各係を担当。PTA研修会では、音楽劇の脚本担当の方を講師に「音楽劇で育む力」を共通理解した。また、材料費などの資金は年2回の資源回収と通年のアルミ缶回収で得た収益であり、地域の方々の全面的な協力を得た。</p> <p>2 関係機関・外部スタッフとの連携 舞台監督、演出、脚本、音響、照明は、専門的な技能をもつ方々に依頼。その方々とボランティアのバンドメンバー、本校職員がチームとなり、役割を分担して公演を支えた。</p> <p>3 児童から地域へ 音楽劇のポスターを、児童が自らの手で近所の御家庭や親戚の方に配り、公演へ招待した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>地域へのポスター作戦</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大成功のステージ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>来場された方とのふれあい</p> </div> </div>		
○成果と ●課題	<p>○来場された方からは、「音楽劇を通して地域の一体感が生まれる」という声が寄せられた。全校音楽劇は、学校と地域・保護者を結ぶ架け橋である。公演の成功は、子どもたちのがんばりに加え、公演を支える強固な連携があつてのことだと捉えている。</p> <p>●準備・練習の時間と資金は限られている。連携によるメリットとよりよい連携の在り方を考え、学校と地域の財産となる全校音楽劇を継続させていく必要がある。</p>		



(2) 仙北市

学校名	仙 北 市 立 角 館 小 学 校		
活動名	「ふるさと検定」	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、「生まれ育ったふるさとのよさを発見し、愛する町を誇りに思い、ふるさとを大切に育てる」「角館町から仙北市全体への興味・関心をもち、ふるさとの歴史と文化、豊かな自然への知識を広く深めて、今ある住みよいふるさとに感謝する心を育てる」ということをねらいとして、毎年3年以上の全児童を対象に、「ふるさと検定」を実施している。</p> <p>出題数25問、88点以上合格となり、3年・4年は「さすが賞」、5年・6年は「あっぱれ賞」を目指して、全員が取り組むこととしている。問題は、仙北市ふるさと検定問題等を参考に自校で作成している。冬休み前に問題を渡して、ふるさとに関する問題の答えを親子で見付けてもらうことを各家庭にお願いしている。冬休み明けは、調べて見付けた答えを確認し、どうしても分からなかった問題については、担任から答えを教えもらい、1月末に一斉に検定を実施している。採点は地域のボランティアの方々をお願いし、合格者には認定証を配布している。</p> <p>【3・4年 問題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土手の桜並木の長さは何kmでしょうか？（2km） ・9月8日に曳山はどこにお参りしますか？（御薬師堂） <p>【5・6年 問題例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戊辰戦争で長崎大村藩より官軍の少年鼓手として参戦し、15歳で戦死した少年の名前は何でしょうか？（浜田謹吾） ・明治時代に角館で生まれ、新潮社創設初代社長となって、今なお仙北市に本をプレゼントしてくれる取組のきっかけとなった人物は誰でしょうか？（佐藤義亮） <p>各家庭の保護者と児童が一緒になって問題に取り組むことで、親子で仙北市のことに学ぶことができている。</p>		
○成果と課題	<p>○冬休み前に答え無しの問題を渡し、各家庭で答えを探しながら仙北市のことを調べることで、自分のふるさとに興味・関心をもちあせることができている。また、検定用の問題を解くことにより、仙北市の自然や歴史などについて、より広く、深く学ぶよい機会となっている。</p> <p>○地域のボランティアの方々との協力により、教員に負担をかけることなく、ふるさと学習を推進することができた。</p> <p>●準備は学校で進めているものの、答えを見付ける活動については各家庭に任せているので、取り組み方に個人差が生じている。答えを全部教えてもらい、それをただ暗記する活動をしている児童や、検定に合格しようとする意欲が不足している児童に関しては、取り組んでみて楽しかった、もっと調べてみたい、と思えるような魅力的な取組にしていく必要がある。</p>		






学校名	仙 北 市 立 中 川 小 学 校		
活動名	地域伝統文化伝承「三省タイム」	活動内容	①
活動の概要	<p>本校で学校支援地域本部（地域学校協働本部）を立ち上げて9年になります。当初から推進・継続してきているものの一つが標記活動で、地域ボランティアの方々から民謡と手踊りの指導を受けています。指導者は民謡が3名（男性1名、女性2名）、手踊りが2名（共に女性）の計5名です。教育課程においてはクラブ活動として位置付けていることから、参加者は4年生以上となります。5月から9月まで10回の活動回数を数え、学習発表会「三省まつり」がその成果を披露する大きな機会となります。</p> <p>今年の演目は、「角館音頭」「ドンパン節」「おやまこ三里」「組音頭」でした。笛や太鼓お囃子に合わせた歌と踊りに、地域の方々から拍手喝采をいただきました。</p>		
○成果と課題	<p>○地域の伝統文化や伝承活動に親しみ、その素晴らしさに気付くことができた。</p> <p>○活動を通して表現力を高めるとともに、発表体験によって地域との交流を図ることができた。</p> <p>○地域の方々とのふれあいを大切にする態度を育てることができた。</p>		



学校名	仙 北 市 立 白 岩 小 学 校		
活動名	地域行事を生かしたふるさと教育	活動内容	②
活動の概要	<p>1 第54回白岩地区住民運動会への参加 6月末、保育園・小学校・地域住民合同大運動会が行われる。小学校は、全校縦割りによる三色色別対抗戦、地域住民は、三地区別の対抗戦で真剣に、また和気あいあいとした雰囲気の中で、競技を行い親睦を深め合う。各地区の区長が輪番制で大会委員長を務め、白岩地区コミュニティ会長や地域運営体の方々も大会運営に関わる。来賓として市長や教育長など多数お招きする、地域をあげての一大行事である。運営は、ほとんど地域の方々が行っている。年代別競技もあり、幼児から高齢者まで参加する運動会として地域に根付いている。地域とのつながりの深さを実感させられるイベントである。</p>  <p>2 白岩城址燈火祭への参加 毎年2月の第1土曜日に中世白岩城址で行われる。地域住民・小学生、国際教養大学に短期留学中のオーストラリア国立大学生も参加し、小正月行事を楽しむ。17回目を迎えた昨年度は、参加者全員で記念撮影をし、県民歌を歌い、ゴム風船を上げた。また、オーストラリア国立大学生と1週間前の交流会で練習した「元気ひでこ節」も踊った。6年生は城址参道の篝火に点火、5年生は雲巖寺で鐘撞き、3・4年生はミニかまくらに点火、1・2年生はカウントダウン。そのほか綱引きや火振りかまくらに挑戦など、雪国ならではの行事を行った。今年度も、昨年度の反省を基に、実行委員会の方々と協議し、よりよい行事にしたいと考えている。</p> 		
○成果と●課題	<p>○子どもたちは、地域行事に参加することで地域の方々とふれあい、それぞれの活動の中で役割をもって活動することで、地域の一員としての意識が高まり、自己有用感をもつことができる。地域行事を通して、ふるさとのよさを再認識している。また、地域と学校、保護者が連携しながら行事に取り組み、子どもたちをよりよく育もうと協力し合っている。</p> <p>●白岩地区の男子児童の減少により、長年続いてきた「白岩子どもささら」の希望者が1名で休止せざるを得なかった。来年度は、ぜひ再開できるように方策を検討したい。</p> <p>●今後は、地域行事に参加するだけでなく、様々な機会を捉えて地域と連携し、学校や児童の活動がこの地域に活力を与えるようにしていきたいと考えている。</p>		

学校名	仙 北 市 立 生 保 内 小 学 校		
活動名	生小応援団と共に深めるふるさと学習	活動内容	①
活動の概要	<p>平成29・30年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業（生活科）の指定を受け、総合的な学習の時間を含め、全校体制で研究推進に取り組んだ2年間であった。本事業を進めるに当たり、昨年度よりボランティアとして子どもたちの学びを手伝っていただく団体を地域から募り、「生小応援団」として組織した。参加者からは、「ボランティアやお手伝いではなく、自分たち大人も子どもたちと共に学びたい、成長したい」「地域を愛し、将来地域に根を下ろす子どもたちが一人でも多くなれば嬉しい」など、熱い思いがたくさん出され、地域と一体となったふるさと学習を展開することができた。</p> <p><主な活動> 生活科の町探検から総合的な学習の時間のグループ別活動、本校の卒業生である起業家を招いてのキャリア教育など、たくさんの活動を行うことができた。</p> <p>4年生は、岩手県盛岡市肴町商店街で、仙北市をPRする活動や本校児童が商品開発したチャーハンやクッキーの販売体験活動を行った。また、盛岡市から三陸方面につながるトンネル工事の現場を見学した。本校では、4年前から東日本大震災で被災した岩手県山田町の小学校に、販売体験活動などの収益から義援金を送る活動を続けている。子どもたちは、トンネル工事現場の見学を通して、今なお復興に努力している山田町の小学校に思いをはせることができた。3年生は、自分たちで調べた仙北市の魅力を、仙北市のご当地キャラクター「オモテナシ3兄弟」に伝える学習を設定し、小グループに分かれて活動を行った。全国的に知られている秘湯鶴の湯温泉に出かけたり、山に入って山菜採りをしたりと、それぞれのグループが独自の活動を行うことができた。</p>  <p>盛岡市でのPR活動</p>  <p>ご当地キャラクターに報告</p>		
○成果と●課題	<p>○地域の協力を得て多くのスタッフで活動を展開することにより、より細分化されたグループでの活動が可能となり、児童一人一人の思いや願いを十分に生かすことができた。</p> <p>○学校評価における保護者アンケートや児童アンケートの結果から、地域の特色や人材を生かした学習への取組について好意的な評価が多く、また、地域への関心の高まりが見られた。</p> <p>●研究指定校としての取組の中で組織した「生小応援団」であるが、地域と学校相互のメリットが多く、今後も継続した取組を展開できるよう体制を整備していく必要がある。</p>		

学校名	仙北市立神代小学校		
活動名	防犯教室（クマ被害防止のための安全教室）	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、防犯への意識を高め、自分の身を危険から守ろうとする態度を養うことをねらいとして、例年7月に防犯教室を開催している。</p> <p>今年度は、昨年度本県において頻繁に発生したことにより、保護者からの要望が多かった、クマの危険から身を守る術を身に付けることをねらいとして実施した。</p> <p>主な内容は、仙北警察署職員から夏休み中の防犯に関する講話と、田沢湖地方猟友会の方から「クマの習性や遭遇したときの対処法」について指導していただいた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目は可愛らしいが、爪は鋭く、大人よりも速く走ることができることから、消して近づいてはいけないこと ・クマも人が怖いので、離れたところに見かけたら、大声で叫んで追い払うこと ・突然遭遇したら、クマと目を合わせないようにして、ランドセルで頭を防御しながら少しずつ逃げること 等 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>		
○成果と●課題	<p>○クマの剥製で子どもたちの興味・関心を高めながら、分かりやすく講話していただいた。</p> <p>○事前に、あきた県庁出前講座（No.108「クマの生態と対策について」）を活用して、保護者を対象としたPTA講演会を実施していたので、家庭でも「クマ」を話題にして一緒に考える機会とすることができた。</p> <p>●市教育委員会に、関係機関との連絡・調整を引き受けてもらったが、詳細については直前まで分からなかった。</p>		

学校名	仙北市立西明寺小学校		
活動名	稲作体験活動（田植えと稲刈り）と収穫感謝祭	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、子どもたちに地域を大切にしていこうという思いをもたせるために、ふるさと学習に力を入れた教育活動を展開している。その活動の一つとして、毎年5年生を対象にして、稲作体験活動と収穫感謝祭を行っている。</p> <p>1 田植え体験（5月29日） 今年度は地域の農家の佐藤さんの田んぼをお借りして、田植えを行った。当日は、地域の指導者の方々や保護者のみなさんの協力をいただきながら、活動を行った。初めて体験する子どもたちも多く、泥にまみれながらも喜んで活動することができた。</p> <p>その後の田んぼの除草等の作業は、佐藤さんにやっていただいた。子どもたちは、稲の生長の様子を登下校の際に間近で観察し、大きく育っていく様子を楽しみにしながら見守った。</p> <p>2 稲刈り体験（9月28日） 稲の収穫を行った。昔ながらの手作業で鎌を使っての稲刈り体験は、子どもたちにとって初めての体験であった。苦勞しながらも収穫できたことは、貴重な体験になり、それぞれが満足感、達成感を味わうことができたようだ。</p> <p>3 収穫感謝祭（12月2日） PTA授業参観の日に、収穫したお米を使って調理実習を行い、指導者や保護者の方々と交えて収穫感謝祭（昼食会）を行った。自分たちで長い時間をかけて育てたお米の味は、格別だったようだ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div>		
○成果と●課題	<p>○本校では農業体験的な学習を多く取り入れ、地域の指導者の方や保護者の方々の協力を得ながら、栽培、収穫の活動を行っている。子どもたちは、地域の産業が自分たちの生活に密接に結び付いているということを知り、地域に対する関心が一層高まると同時に、自分たちの住むこの地域を大切にしていこうとする思いを、更に深めることができるようになった。</p> <p>●年々農家の数も減少してきており、田畑の確保が簡単ではない状況になってきている。毎年このことながら、地域の人材や田畑等を確保するために、リストの整理が必要であると感じた。</p>		

学校名	仙 北 市 立 桧 木 内 小 学 校		
活動名	桧木内プラン①	活動内容	①
活動の概要	<p>今年度より、本校では全学年で、地域や地域素材を生活科と総合的な学習の時間に取り入れる「桧木内プラン」を実践している。そこでは、地域の方々との関わりや協力により、より地域を知り、ふるさとを愛する子どもたちを育てることができると思う。</p> <p>○1年（生活科）「むかしあそびはっぴょうかいをしよう」 天寿老人クラブの皆さんの協力により、お手玉やこま回し、あやとりなどを1年生が教えていただいた。昔の遊びを体験した児童は、教えてもらう中で地域の方々との関わりを深めることができた。</p> <p>○3年（総合的な学習の時間）「見たい！知りたいたい！桧木内探検隊」 地域にある施設等に興味をもち、ふるさとのよさを感じ取ることをねらいとした学習である。高橋鉄工所の見学では、普段見ることのできない作業現場を見学し、それらが地域を支える仕事をしていることに気付くことができた。</p> <p>○6年（総合的な学習の時間）「働くってどんなこと？」 6年生は、特別養護老人施設「清流苑」と「ひのきないこども園」を訪問した。「清流苑」では、職員の指導を受けながら入所者の方と会話をしたり、お茶を出したりして、職場体験ができた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○「桧木内プラン」は、地域の方々との関わりをもちながら、ふるさとを見つめ新たな発見ができる機会となる学習であった。地域と共にある学校を目指すために、核となる人的ネットワークづくりを進めることができたと思う。</p> <p>●学校行事との関係から実施時期が遅くなってしまい、急ぎ足の学習となった。次年度は、年間指導計画に明確に位置付けながら実施できるよう調整したい。</p>		



(3) 美郷町

学校名	美 郷 町 立 六 郷 小 学 校		
活動名	地域と連携した総合的な学習の時間のスタート	活動内容	①・②
活動の概要	<p>本校の恵まれた特色の一つとして、地域の活性化を図る人々が力強い働きかけを行っていることが挙げられる。</p> <p>そこで、昨年度からコミュニティ・スクールの考え方を推進する組織として「学校を楽しくする会」を立ち上げ、多様な分野で活躍する方々と共に、地域に生きる学校、学校に協力する地域という、双方向による動きがスタートした。</p> <p>中でも、総合的な学習の時間を中核としたカリキュラム・マネジメントは、今年度の学校経営の大きな柱として十分にその成果を内外で感じ取っているところである。</p> <p>特に、6年生は夏の地域の祭りである「夜市」に自分たちのイベントを企画・運営したり、ボランティアとして観光客をもてなす体験をしたりして、地域に喜ばれ、自分たちでもその楽しさを存分に味わっている。何よりも、自分のふるさとで実際に、地域のことを一生懸命に考えて課題解決に当たっている人たちとの課題の共有が、この学びの貴重なスタートとなり、貫くモチベーションにもなっている。これから冬にかけては、高学年を中心としたカマクラ行事や竹うち行事への関わりも考えている。</p> <p>地域と学校との協働活動は、お互いにとってよい成果が求められる。まずは、学校が地域の人とつながり、地域の人と子どもたちとをつなげていくこと、話すことから顔と顔との連携を大切にしていきたい。</p> <p>これからも、六郷を楽しみ、六郷を動かす子どもたちに期待したい。</p>		
○成果と ●課題	<p>○子どもたちが地域で活動する姿が報道される機会も増え、地域の方々からも、子どもたちの取組に対する激励や喜びの声がたくさん聞かれた。</p> <p>○地域の方が実際に学校にお越しくださる機会がとて多くなり、地域に開かれた学校の営みが当たり前に行われるようになったことで、学校教育目標の具現化を図る営みが、よりオープンになった。</p> <p>●今後とも、教科等の学習や学校行事等で交流の場を意図的に設定し、学校と地域とが協働で子どもを育てる営みを継続していきたい。</p>		



学校名	美郷町立千畑小学校		
活動名	清水の環境保全活動	活動内容	①
活動の概要	<p>渾々と湧き出ずる湧水は、美郷町の誇りである。当千畑地区にもいくつかの湧水が湧き出ており、その清水には絶滅危惧種であるイバラトミヨが生息している。</p> <p>旧千屋小学校時代である平成3年。校地内にイバラトミヨの保護や生態系の学習を目的にビオトープが作られ、子どもたちが「ドリームトープ」の愛称をつけた。ビオトープは、様々な生き物とふれあえるため、子どもたちの恰好の遊び場になっている。また、遊びだけではなく、自分たちのふるさとの環境のよさについて考えることをねらいとして、生き物を観察し、生き物について知る活動にも活用している。</p> <p>今年度も昨年度に引き続き、5年生が総合的な学習の時間で「えがお にこにこ WATER」と題して、清水の保全活動に取り組んだ。地域の方に案内していただきながら千畑地域のいくつかの清水を見学したり、地域自治会の方々の協力を得てビオトープの清掃に取り組んだりすることができた。さらに、イバラトミヨの天敵であるアメリカザリガニの駆除にも、昨年度に引き続き取り組んだ。</p> <p>また、今年度から男鹿水族館G A Oと連携し、イバラトミヨの生態について詳しく教えていただくとともに、G A Oに見学に出かけて、自分たちが調べたことをまとめた新聞を館内に展示した。</p>		
○成果と ●課題	<p>○活動を通して、子どもたちは、イバラトミヨが快適に暮らせる千畑地区の環境の素晴らしさを身をもって感じる事ができた。また、今年度から男鹿水族館G A Oとの連携がスタートしたことで、イバラトミヨや水環境について、今まで以上に詳しく知ることができたとともに、活動の成果を展示したことで、児童は意欲をもって活動を継続することができた。</p> <p>●今後は、地域や男鹿水族館との連携を進める中で、地域に根ざした児童のキャリア意識を高めていきたい。</p>		



学校名	美郷町立仙南小学校		
活動名	共に生きる（6年 総合的な学習の時間）	活動内容	①・②
活動の概要	<p>6年生の子どもたちと下級生、保育園児、高齢者との交流を通して、共によりよく生活できる社会にしようとする態度を育てることができるよう、大単元「共に生きる」を計画した。今の自分に何ができるのかを考え、実行させることで、これまで培ってきた力を更に伸ばせるのではないかと、試行錯誤しながらも人との関わりを考えていけるのではないかと考えた。</p> <p>第1小単元 校内編「1年生とのふれあい」 …1年生の朝スキルの時間に何をするか考え、交流する。</p> <p>第2小単元 校外編「すこやか園を訪問しよう（幼稚園児とのふれあい）」 …すこやか園で園児と一緒に活動する計画を立て、交流する。（2回）</p> <p>第3小単元 校外編「福祉の心・優しさという力（六郷高等学校福祉体験学習）」 …六郷高等学校福祉科を訪問し、生徒の指導により「介護・支援」「車いす体験」「ベッドメイキング」「特殊入浴介護」を学ぶ。</p> <p>第4小単元 校外編「ロートピア仙南を訪問しよう（お年寄りとのふれあい）」 …特別養護老人ホーム「ロートピア仙南」を訪問し、職員の方から、心構えや大切にしている思いを伺った後、お年寄りとお話をしたり、一緒に体を動かしたりして交流を行う。（2回） …2回の訪問の成果、自分にできたことやこれから大事にしたい思いをまとめる。</p>		
○成果と ●課題	<p>○交流前の計画は自分たち目線であったものが、1回目の交流を終えた子どもたちの振り返りや2回目の計画は、幼稚園児やお年寄りの気持ちに寄り添ったものに変容していった。</p> <p>○自分が考えたことが誰かの笑顔になることを実感し、自己有用感を高めることにもつながった。職員の方などの大人が促してもやろうとしないお年寄りも、子どもの声かけによって、体操したり、文字を書いたりする様子が見られた。子どものもつ力を感じた。</p> <p>○就職が目の前に迫っている高校生の本気を目の当たりにしたとき、6年生の子どもたちの真摯に学ぼうとする姿を見ることができた。「優しさという力」を体験できる機会だった。</p> <p>●今回は滞りなく進んだが、保育施設や老人ホーム、高等学校での活動は、互いの健康状態がよいときでないとい入れないので、行事の調整も含めて、期日の設定の難しさを感じている。</p>		



(4) 横手市

学校名	横手市立横手南小学校		
活動名	みなみんなまつり～なべっこ活動～	活動内容	①
活動の概要	<p>今年度、本校では初めての試みとなる「なべっこ活動」を学校行事の一つに位置付け、取り組んだ。上学年は下学年を思いやり、下学年は上学年の姿に学びながら、仲間意識をもって活動することを通して、自尊感情や自己有用感を高めていくことをねらったの全校縦割り活動である。</p> <p>地域からの支援①【竈（ガンガン）作り】 県立横手清陵学院高等学校総合技術科に、なべっこ活動で使う竈の製作を依頼した。製作者である生徒2名は総合技術科「探究・研究課題班」のメンバーで、本校の卒業生でもある。高校で身に付けた技術を生かして、一斗缶80個を加工してくれた。なべっこ活動当日には、生徒2名と指導教員も来校し、竈の使い勝手確かめるとともに、子どもたちとも積極的に交流してくれた。</p> <p>地域からの支援②【安全上の支援】 本校の縦割り班の数は、60以上に上る。そのため、教員一人あたりの担当が3班になり、安全確認や指導について手薄になることが懸念された。そこで、本校PTAのOBや民生児童委員を中心としたボランティア団体「ジョヤサの会」の協力を得て、児童の活動の見取りをしてもらった。薪を燃やしたり、いものこ汁を作ったりする活動はできるだけ児童に任せながら見守り、危険が予測される場面では的確に声を掛けるような支援をしてもらうことができた。</p>		
○成果と課題	<p>○本校は市内で最も児童数の多い小学校であり、班編制や会場についてだけでなく、必要とする道具の準備や活動の見取りについても課題があったが、上記のような地域の支援を受け、開催することができた。</p> <p>○高学年児童にもなべっこ活動の経験がなく、児童にとっては見通しが十分にもてない状況での取組ではあったが、安全に活動をすることができた。</p> <p>●ボランティアの支援を受ける際に、万が一に備えておく必要がある。保険を掛けるなどの手立ても考えられるが、経費をどこから出すかについても考えていかなければならない。</p>		






先輩が製作した竈を使って




「ジョヤサの会」の方々

学校名	横手市立朝倉小学校		
活動名	横手のやさしさ伝え隊～ビハーラ横手を訪問しよう～	活動内容	①
活動の概要	<p>1 はじめに 今年度、4年生の総合的な学習の時間では、「横手のやさしさ伝え隊」と題して、福祉について学んできた。横手市社会福祉協議会にコーディネートをお願いし、ゲストティーチャーを招いての手話体験、点字体験、高齢者・視覚障害者体験、車いす体験と、様々な体験活動を行い、自分にできることは何かを考えてきた。そして、実際に高齢者とふれあったり福祉の現場で働く人の声を聞いたりしたいという思いが高まったため、ビハーラ横手（特養、ケアハウス、デイサービスかがやき、デイサービスふるさと館）の訪問を計画した。</p> <p>2 ねらい ・施設見学を通して、高齢者福祉施設の概要を知る。 ・高齢者福祉施設で働く人々の仕事内容や、仕事への思いを知る。</p> <p>3 活動内容 12名ずつ4グループに分かれての活動 ・特養、ケアハウス…施設見学、職員の方による説明 ・デイサービス……施設見学、高齢者とのふれあい</p>		
○成果と課題	<p>○校内でゲストティーチャーから話を聞いたり、実際に車いす乗車等の体験をしたりすることも、障害をもつ方々の気持ちや障害を補う工夫についてたくさん学ぶことができたが、実際の現場を見ることで、更に支援のための様々な工夫に気付いたり、施設利用の高齢者や職員と話をすることで感じたり、疑問を解決したりすることができ、学びが深まった。</p> <p>○横手市福祉協議会やビハーラ横手に受け入れてもらえたことで、実現できた活動だった。</p> <p>●大人数での活動になるので、十分なふれあいや子どもの側からの働きかけはできなかったことが残念だった。今後、更に連携を深めていくことで、活動の幅も広がるのではないかと考える。</p>		



学校名	横手市立旭小学校		
活動名	わかくさ農園 プロジェクト	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ねらい ふるさと横手を見つめて～米づくりを通して食や環境を考えよう～</p> <p>2 期 日 平成30年5月10日（木）～平成30年12月11日（火）</p> <p>3 場 所 学校付近借用田，他</p> <p>4 参 加 者 第5学年児童（58名）</p> <p>5 協 力 者 J A秋田ふるさと青年部，美土里ネット南旭川，保護者，祖父母</p> <p>6 内 容 ○種まき，代掻きドッジボール，田植え，稲刈り，もち米販売，収穫感謝祭，餅つき，米づくり絵巻作成などの活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代掻きドッジボール，田植え ドッジボールやうなぎのつかみ取りなどを通して，全身泥まみれになりながら土をかき混ぜ，空気を入れて田植えの準備をした。田植えは，地域の方々に教えていただきながら，昔ながらの手植えを行った。 ・稲刈り 一人一人，鎌を使って稲刈りを行った。初めは力加減に戸惑っていたが，次第にコツをつかみ，時間内にすべての稲を刈り取ることができた。 ・収穫感謝祭，餅つき 今まで米づくりでお世話になった方々を招待して，餅をつき，あんこやずんだ，きなこにまぶして食べる収穫の会を行った。感謝祭のセレモニーでは，指導してくださった方々への感謝の気持ちや，食や農業への関心の高まりを伝えることができた。 		  
○成果と課題	<p>○初めて米づくりに関わる子どもたちが多かったが，地域や行政の方々のバックアップで，活動しやすい環境をつくっていただいた。子どもたちの感想等から，農業に対する考え方，自分の生き方についての考え方等に変化がうかがえ，本校におけるキャリア教育として位置付けている本活動の成果が見られた。</p> <p>●農家の方々が，天候や自然条件に合わせ，日々努力や工夫を重ねながら米づくりに取り組んでいることを実感させる必要がある。田植えから稲刈りの間に短時間でも細かな農作業も体験させるべきだった。総合的な学習の時間の学習課題ともなっているので，このような体験によって，自分のよさに気付いたり，自分の変容を自覚したりできる学習のまとめも今後計画していきたい。</p>		

学校名	横手市立栄小学校		
活動名	農作物の栽培と収穫感謝祭「なべっこ会」	活動内容	①・②
活動の概要	<p>1 概要 子どもたちは地域の皆さんの御協力により，様々な農作物の栽培を行っている。そして，その農作物の収穫の喜びをより多くの方々と分かち合うために，お世話になった皆様を招待して「なべっこ会」を開催した。</p> <p>2 主な活動</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 5月28日 5・6年…田植え体験 ・栄地区資源保全隊，外目フォーム，水土里ネットの皆さんの御協力により，稲の苗を一つ一つ丁寧に植え付けた。 (2) 6月5日 1・2年…さつまいもの苗植え体験 ・民生児童委員の御協力により，一人3～4本の苗を植えた。 (3) 6月7日 4・5年…里芋の苗植え体験 ・地域の皆さんの御指導により，校舎近くの畑をお借りして，里芋の苗を一人一株ずつ植えた。 (4) 10月3日 5・6年…稲刈り体験 ・栄地区資源保全隊，外目フォーム，水土里ネットの皆さんの御指導により，鎌による稲刈り体験と脱穀見学を行った。 (5) 10月15日 1・2年…さつまいもの収穫体験 ・民生児童委員の皆さんの御協力で，さつまいも掘りを行った。 (6) 10月16日 3～5年…里芋とネギ掘りの体験 ・地域の皆さんの御協力により，各グループで2株ずつ里芋掘りを行った。 (7) 10月18日 全校で収穫感謝祭「なべっこ会」を開催 ・児童会が中心となり，自分たちで育て，収穫した「栄っ子米」と「さつまいも」を，お世話になった皆さんにプレゼントした。その後，下学年は「大屋梅の梅干しおにぎり」，上学年は「芋の子汁」を作り，来校された皆さんと一緒に会食した。 		 
○成果と課題	<p>○子どもたちは，田植え，さつまいもや里芋の苗植え・収穫・水やりなどを体験することで，生産の喜びと苦労を知るなどの地産地消の意義を学ぶことができた。</p> <p>○農作物の栽培でお世話になった皆さんを招待することで，収穫の喜びを共有するとともに，多くの方々にお世話になっていることに気付き，感謝する心の大切さを学んだ。</p> <p>●一年間を通じた計画的な体験活動を，来年度も継続していきたい。</p>		

学校名	横手市立横手北小学校		
活動名	「だれもが関わり合えるということは…」 ～福祉について考え、人々の思いや願いを知る～（4年）	活動内容	②
活動の概要	<p>総合的な学習の時間に福祉を取り上げて学習した。視覚・聴覚障害の方の講話を聞き、障害の体験をしたり、認知症サポート養成講座を受けて、お年寄りとの関わり方を学んだりした。それらの学習で学んだことを受け、学区内の福祉施設で過ごすお年寄りと楽しく過ごすために、自分たちができることを考えたり、施設で働く人たちの仕事を調べたりした。</p> <p>1 活動期日と施設名（地区） (1) 9月19日 やすらぎ苑（金沢） (2) 11月8日 雁の郷（境町） (3) 11月15日 ビハーラ横手（境町）</p> <p>2 活動内容 (1) 「やすらぎ苑」の敬老会では、金子みすゞの詩の暗唱と手話ソングを発表し、お年寄りに楽しんでいただいた。 (2) 「雁の郷」と「ビハーラ横手」では、お年寄りが楽しめる遊びや交流を考え活動した。 ・風船バレー ・折り紙 ・パズル ・トランプ ・紙しばい ・学校クイズ ・こままわし ・語り合い (3) 施設で働く人がどんなことに気を付けて仕事をしているかたずねたり、施設のお年寄りにどのように過ごしているかを質問したりした。</p>		
○成果と ●課題	<p>○子どもたちは、お年寄りを楽しくさせるための活動を考えて取り組んでいたが、逆にお年寄りから温かく声をかけていただいたり、各所の方々からサポートしていただいたりしたことで、自信をもって活動に取り組むことができた。</p> <p>○児童の祖父母はまだ若いことや核家族が多いため、活動を考えるときに様々なことを想定させた。相手のことを考えて準備したことを、実体験とすることができてよかった。</p> <p>●各施設が55名の児童を一度に受け入れることはできないために、日程調整が難しかった。複数の施設を訪問することになったが、日程が同時期にとれないために、学習進度を調整することが難しくなる。早めに対応できると、より調整しやすいと思う。</p>		



学校名	横手市立増田小学校		
活動名	地域の伝統行事（梵天）への参加	活動内容	②
活動の概要	<p>県内各地で行われている梵天祭りであるが、本町内では、1643年に魚商たちが市場の神を祀って奉納したのが始まりといわれ、梵天を持って演技をするところに特徴がある。本校では、平成12年に旧増田小学校で参加をはじめ、以来地域の方々の協力を得ながら毎年8～12本の梵天を製作して梵天コンクールへ参加し、地域の祭りを盛り上げている。現在では、町内から上げられる梵天の数が減ったこともあり、本校の8本の梵天が、祭りの盛り上がりに一役買っているという状況である。</p> <p><主な活動> 12月 ・梵天スタート集会 ・梵天のめあての設定 ・梵天の頭飾りデザイン募集及び選考、決定 ・「ぼんてん唄」の練習開始 1月 ・梵天本体の手直し ・梵天がんばろう集会（ゲストティーチャーのお話） ・頭飾り製作（地域の方々の協力） 2月 ・梵天演技練習 ・ミニ梵天製作 ・校内発表会 ・梵天コンクールへの参加 ・梵天のめあての振り返り</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の方々に協力していただきながら梵天祭りに参加しているため、地域の伝統行事に携わる人々の思いを感じ取りながら活動を行うことができ、地域への思いを深めるだけでなく、将来につながる地域行事への関わりについて考えることにもつながっている。また、子どもたちが作るミニ梵天をもらえることを楽しみに祭りに訪れる人も多く、地域行事を盛り上げることにもつながっている。</p> <p>●梵天先生として協力してくださる地域の方々が高齢化してきており、新たな人材を紹介していただきながら活動を進めていく必要がある。また、学校としても梵天祭りへの参加に関わる一連の活動について、どのような資質・能力の育成を図っていくのかという観点から見直しをしていく必要がある。</p>		



地域の方々の協力の下、梵天を製作



梵天コンクールでの、子どもたちの演技




学校名	横手市立浅舞小学校		
活動名	ひまわりプロジェクト2018	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ねらい ひまわり栽培や絵画制作、収穫、ひまわり油づくり、他校との連携等、ひまわりを通じて人と関わる体験活動を通して、自然や地域の人々のよさを感じ、ふるさとを大切にできる心を育てる。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) ひまわりの栽培・種取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者のボランティアの方々と全校児童縦割り班による「種まき、栽培、草取り、花の刈り取り」、家族と協力した「乾燥、種取り」 ・地区保育園（所）、小学校、中学校、支援学校、近隣の老人福祉施設に向けた、ひまわりの栽培についての協力依頼 <p>(2) ひまわり絵画コンクール・絵画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校児童と地域の保育園（所）5歳児のひまわり絵画コンクール・ひまわり絵画展 ・審査は、中学校美術部員、担当教員、地域の元教員 <p>(3) 感謝の会「ひまわり集会」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が、ひまわり活動でお世話になった方々を招き、学習成果を盛り込み、これまでの感謝や今後の抱負を伝える児童集会 <p>(4) ひまわり油の販売と収益金の地域への還元</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々の協力を得て、浅舞朝市でひまわり油の販売をし、収益金の一部を地域の老人福祉施設に寄付（2月に実施） 		
○成果と課題	<p>○ひまわりを育てる活動を通して、勤労の大切さを理解し、生命を大切にする気持ちや活動に協力してくださった方々への感謝の気持ちを、全校児童に育むことができた。また、活動を通して、児童と地域の高齢者、協力者との温かいふれあいがあり、互いに理解し合ったり、やりがいを感じたりできた。</p> <p>○児童玄関にひまわりコーナーをつくり、写真や連携施設の情報等を掲示することにより、現在の活動の様子や連携校などの情報を共有し、活動への意欲を高めることができた。</p> <p>●授業時数の制限もある中で、地域や家庭との連携を図りつつ、児童の主体的活動の時間をどう生み出したり確保したりするか、今後検討する必要がある。</p>		






上：種まき／下：ひまわり集会

学校名	横手市立吉田小学校		
活動名	「深間内神楽学習会」と「支援学校との交流」	活動内容	①・②
活動の概要	<p>1 深間内神楽について 吉田小学校区にある深間内町内には、古より伝わる民俗芸能がある。神様をお迎えして舞や演奏を奉納し、村の幸せや暮らしの安全を祈る「深間内神楽」である。これは、関ヶ原の合戦の落人が、深間内住人のもてなしに感謝して伝えた神楽だということだ。横手市指定無形民俗文化財であり、毎年8月23日に深間内伊多子神社のお祭りの際に奉納され、深間内町内の本校児童11名が、地域みなさんに支えられながら舞手として元気に活躍している。</p> <p>【学校の教育活動として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3年 総合的な学習の時間「深間内神楽のひみつを探る」 総合的な学習の時間に、「よこてだいすき『横手を学ぶ郷土学』」の一部を計画の中に位置付け、学習を展開していった。 ・神楽保存会会長の小田嶋さんを招き、神楽の歴史と未来に伝えていく大切さについて講話をしていただいた。 ・神楽の舞の一つを小田嶋さんに御指導いただいた。 <p>2 横手支援学校との交流（5年 総合的な学習の時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年2回、互いの学校を訪問し合い、交流する活動を5年生を中心として行っている。これは、次のようなことをねらいとしている。 ・相手の学校の児童を思いやりながら会話をし、絵本づくりなどの活動に取り組む。 ・互いの学習内容を発表し合い、感想などを通して交流を楽しむ。 ○今年度は、11月15日に支援学校を訪問し、本に親しみながら一緒に絵本づくりをしてふれあいを深めることができた。支援学校の児童は、様々な準備や練習をして、本校児童を温かく迎えてくれた。本校児童も、その気持ちにこたえようと積極的に関わることができていた。2回目は2月に予定しているが、感染症が心配であるため、DVDや模造紙を使って間接的な交流を行う予定である。 		
○成果と課題	<p>【深間内神楽】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の伝統芸能でありながら、一部町内の伝統芸能という意識が強かったものが、この学習を通して、吉田で継承し、伝えていかなければという気持ちが児童に芽生えてきた。 ●人の言葉を通して伝承されているものが多いため、資料が少ない。 <p>【支援学校との交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交流を通して互いを理解することができ、助け合い・思いやりの心が培われている。 ●学校行事の関係で、日程調整が難しい。また、冬はインフルエンザなどの感染症の心配があるため、直接的な交流の場を設定するのが難しい。 		



学校名	横手市立醍醐小学校		
活動名	「りんごたんけんたい」(3年 総合的な学習の時間)	活動内容	①
活動の概要	<p>1 はじめに 経営規模の大小、兼業・専業の違いはあるものの、多くの児童の家庭がりんご栽培に関わっている。りんごの一年を児童に尋ねてみると、興味をもって詳しく知っている児童もいたが、そうではない児童が多数だった。そこで、「醍醐のりんごはね…」と自信をもって紹介ができるように、りんご栽培について体験を通して調べてみることにした。</p> <p>2 活動の実際 児童の祖父が経営しているりんご園に受け入れてもらい、開花から収穫までの仕事の体験や観察をさせてもらうことにした。</p> <p>(1) 5月：摘花・受粉 ・りんごと桜の花の観察と比較、マメコバチやミツバチ、人の手で受粉作業の観察をした。</p> <p>(2) 7月：摘果 ・おいしい立派なりんごを作るため、欠かせない作業であることを知った。</p> <p>(3) 10月：葉摘み ・赤く色付いたりんごにすることは、消費者が好むための作業であることを知り、おいしいだけでなく、消費者のニーズに応じる必要があることを知った。</p> <p>(4) 11月：収穫 ・主力品種ふじのもぎ取りを体験。台風による少しの傷も見逃さない農家の方の神経の配り方に感心した。来年の栽培を考慮して、一個一個枝を傷つけないように収穫していく方法を体験した。</p>		 <p>5月 摘花・受粉</p>  <p>7月 摘果</p>  <p>11月 収穫</p>
○成果と●課題	<p>○実際に作業を見せてもらったり体験したりすることで、りんごの収穫までの農家の方の大変さや、細やかな気配りなどに気付くことができた。また、訪問の回数を重ねるたびに、児童のりんごの木に対する愛着が高まっていることを感じることもできた。台風が近付くたびに、「大丈夫かなあ」と心配する姿を見ることもできた。収穫までの訪問を終え、新たに「りんごの種類」「どうして醍醐でりんご栽培なんだろう」と新たな疑問が湧いてきている。今後、学区内にある果樹試験場への訪問も考えている。</p> <p>●りんご学習の受け入れ先を毎年探している状況なので、保護者でなくても受け入れてくれる農園を確保できればたいへんありがたいと思う。</p>		

学校名	横手市立雄物川小学校		
活動名	むかしの正月行事を体験しよう	活動内容	②
活動の概要	<p>本校では、5年生が横手市子ども会育成連合及び雄物川町文化財保護協会と連携し、地元の民家苑木戸五郎兵衛村の旧石黒家で、地域に伝わる年末年始行事を体験している。</p> <p>1 しめ飾りづくり 昔は冬の間、わらをない、俵やむしろ等を作ることが日常的になっていた。わらに触れる機会も少なくなった今、わらをなう技術をもつ地元の方から、直接手を取り教えてもらいながら、しめ飾りを作る貴重な体験となった。</p> <p>2 若水汲み 「若水汲み」とは、正月の元日の朝、一家の主人や年男、長男が早く起きて、「新玉の年の初めに とる柄杓 よろずの宝 汲むぞ集むる」と唱えながら水を汲み、家内安全と五穀豊穡を祈る年始行事である。行事に込められた地域の人々の願いにふれ、新年に年男となる児童が若水汲みを体験した。</p> <p>3 灸立て 「灸立て」とは、1月20日、乾燥したヨモギを燃やし、身体に煙を当てたり、玄関の敷居に置いたりして、家族の健康や家屋及び農具等の安全を祈願する小正月行事である。児童は、これから迎える新年の家族の健康を祈りながら、地域の方と一緒にヨモギの煙を自分の体に当てていた。</p>		  
○成果と●課題	<p>○3小学校が統合し、開校4年目を迎えた。学校と地域が協働・連携した取組により、自分の町内では経験できないことを体験し、地域理解が深まった。また、地域の方との交流が、自分も地域の一員として地域に残る行事を大切にしていこうとする思いにつながっていた。</p> <p>●地域の行事や古くからの技術を伝える人材が高齢化し、受け継ぐ児童数も減少してきている。年1回の行事的な取組だけではなく、地域のよさを守り、継承していく教育活動を工夫し、児童にも地域の活動に関心をもたせ、積極的に参加しようとする意識を高めていく必要がある。</p>		

学校名	横手市立大森小学校		
活動名	福祉施設等でのボランティア体験活動	活動内容	②
活動の概要	<p>大森町は「福祉の町」として有名であり、様々な老人福祉施設がある。そこで、総合的な学習の時間等で、子どもたちが障害者や高齢者との出会いやふれあい体験などを通じて、生命の尊さや相手を思いやる気持ちを育てている。自分の身近な人たちや、自分の住んでいる地域の人々とのふれあい体験やボランティア活動、福祉体験活動を通して、その人の立場を思いやり、互いに支え合う心を大切にして、自分たちのできることを考えられるようにすることをねらいとしている。</p> <p>今年度も、全ての学年が、学区内の高齢者や福祉施設を訪問して、ボランティア活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 老健「おおもり」のお誕生会への参加 1/23 ・2年生 大森地域いきいきサロン活動へ参加 11/22・26 ・3年生 介護施設「くつろぎの里おおもり」のお誕生会への参加 6/21 ・4年生 介護施設「くつろぎの里おおもり」のお誕生会への参加 9/20 ・5年生 介護施設「森の家」のお誕生会への参加 11/21 ・6年生 老健「おおもり」のお誕生会への参加 <p>それぞれの施設を訪問して、子どもたちは、歌や合奏、詩の暗唱やダンス等を披露した。その後、一人一人の高齢者に声かけをしたり肩たたきをしたりした。</p>		
○成果と課題	<p>○高齢者や施設に入居している方々とふれあう活動をすることで、高齢者に対する優しさや思いやりが育まれている。また、認知症ボランティアの研修も毎年行っているので、高齢者に対する理解の仕方や接し方も身に付けることができている子も増えてきている。</p> <p>●福祉教育の担当者が全校で見通しをもって計画的に進めてはいるものの、各学年が相互にどのような活動をしているかはあまり理解できていない傾向にある。そのため、今年度は校内に福祉コーナーを設置し、写真や子どもの感想を掲示することで、お互いに目にするように工夫した。</p>		



学校名	横手市立十文字第一小学校		
活動名	“J”プロモーション(3～6年)	活動内容	①・②
活動の概要	<p>十文字地区の地域活性を目指し「ぶどう生産者」「ジャム加工業者」「菓子製造販売会社」「地域物産販売者」と本校が連携し、「6次化まんじゅう『十文字物語』」の開発と販売体験活動を行った。</p> <p>○ 主な活動</p> <p>1 「6次化まんじゅう『十文字物語』」の開発</p> <p>3年：農業体験先のぶどうと商業体験先のまんじゅうを合体させた商品で十文字を盛り上げたいと、まんじゅうをデザインし菓子製造販売店に提案する。(前年度)</p> <p>4年：ぶどうジャムを加工する障害者の方とぶどう農園で協働作業をする。また、前年度の提案を進め、まんじゅうの商品化を図る。</p> <p>5年：販売に向け、6個入りの化粧箱のかけ紙をデザインする。</p> <p>6年：販売に向け、6個入りの化粧箱に入れるしおりを作成する。</p>		
○成果と課題	<p>○商品の開発と販売体験活動を通して地域で働く方々と関わり合いながら、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質・能力を向上させることができた。</p> <p>○「まんじゅう販売」という同じゴールを目指すことによって、学年間のつながりが生まれた。また、子どもたちが「自分たちは地域を元気にすることができるんだ」と実感できた。</p> <p>●自分たちの取組を次学年に引き継ぐときに、取り組んだ概要だけでなく、取り組んだ時の思いをいかに自分たちの言葉で引き継ぐことができるかが課題となる。</p>		



開発した十文字物語

2 販売体験活動

10月19日～21日の3日間。道の駅十文字及び菓子店店頭で4～6年生が「6次化まんじゅう『十文字物語』」を販売した。販売日には、長蛇の列ができ、完売した。



学校名	横手市立十文字第二小学校		
活動名	関わり，つなぎ，広げる農園活動	活動内容	①
活動の概要	<p>本校は校地内に学習田（約7a）と学校農園（約4a）を有しており，地域の方々から支援していただきながら農園活動を行っている。地域の方々と共に汗を流し，収穫の喜びを分かち合うことは，児童にとって働くことの意義を考えたり，働く喜びを味わったりすることのできる貴重な体験であり，豊かなキャリア発達に効果があると考えます。</p> <p>1 学習田活動 PTA，二小を語る会（学校後援団体），JA営農センター，地域ボランティアの方々の協力により，社会科や総合的な学習の時間の学習と関連させ，5年生を中心として4～6年生全員でもち米の栽培と販売を行っている。主な作業は，型付け，田植え，稲刈り，脱穀，袋詰めである。また，耕起，水の管理，防鳥網の設置，作業指導，精米等は，前述の協力団体にお手伝いいただいている。収穫した米は，5年生が「みえヒカリ」と名付けて販売したり，地域との合同行事である「孫の教育を語る会」で餅つきに活用したりしている。また，高齢者施設への寄贈も行っている。</p> <p>2 学校農園活動 全校でのさつまいもの栽培，学年部や学団部による様々な野菜の栽培に取り組んでいる。耕起・施肥作業等は，PTAや祖父母等の協力で行っている。低学団部は，隣接する三重保育所の園児を招待し，収穫したトウモロコシを調理してポップコーン・パーティーを開くなど，異年齢交流活動を広げることができた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○農園活動を，米の販売実習や，収穫した作物を調理しての保育所の園児との交流等，キャリア発達を促す活動につなげることで，学年に応じて自己有用感を高めることができた。</p> <p>○学校と連携して子どもたちの指導に直接携わり，その健全な成長の一助になっているという実感を得ることで，地域の方々の自己有用感も高まり，地域の活性化につながった。</p> <p>●米の栽培については，作業の性質上，地域の方々や校務員の力によるところが大きい。子どもたちがより主体的に「関わり」「つなぎ」「広げる」活動となるよう，キャリア教育の視点に基づいて，計画や地域との連携の在り方を探る必要がある。</p>		



学校名	横手市立植田小学校		
活動名	地域に元気を届けようプロジェクト	活動内容	②
活動の概要	<p>1 花とカーブミラーで地域を明るくしよう 7月10日，十文字中学校と合同のPTCA活動で，地域の一人暮らしのお年寄りにプランターの花を届け，町内のカーブミラーの清掃を行った。子どもたちが，町内ごとに民生児童委員と一緒にお年寄りの家庭を訪問して，メッセージを読み，6月から育てた花と一緒にプレゼントした。その後，中学生を中心にカーブミラーや地域の公園の清掃を行った。保護者には，脚立の準備等に協力してもらい，地域ぐるみの活動となった。</p> <p>2 秋のつどいに招待しよう マラソン大会となべっこを組み合わせた行事で，昨年度までは家族を招待していたが，今年度は，地域の一人暮らしのお年寄りも招待した。子どもたちが調理している時間に，社会科や理科の研究発表を聞いてもらったり，卒業アルバムを見てもらったりして，「植田小の昔と今」を披露した。あいにくの雨模様で体育館でのなべっこ会となったが，地域の方々子どもたちとの会話が弾み，大盛況の会となった。</p> <p>3 年賀はがきで元気を届けよう 全校の子どもたちが，一人暮らしのお年寄りに年賀状を届けた。今後の交流につなげたいと考えて，子どもの自宅の住所も記入し，返事をもらった子どももいた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○一連の活動を通して，子どもたちが地域の一員という意識を強くもち，意欲的に活動した。特に，5・6年生は，この活動の様子を横手市社会福祉大会で発表し，参観者から大きな反響があった。このような経験も子どもたちの大きな糧となり，地域との結び付きが深まった。</p> <p>●2年後には，十文字地区の4小学校が統合する。そのため，統合後につながる活動を構築していくことが今後の課題である。</p>		



学校名	横手市立睦合小学校		
活動名	第44回学区一周駅伝大会	活動内容	①
活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> 本校では、今年で44回を数える「学区一周駅伝大会」を10月13日（土）に行った。全校児童85名が4チームに分かれて襷をつなぎ、睦合地区全町内18.4km、21区間を力走する本校の一大行事である。 今年度から、横手警察署十文字交番のポリスマンチームに加え、保護者チームも交通安全を呼びかけながら参加した。 交通指導隊、交通安全協会、学校支援ボランティア、PTA役員など約60名が中継点、伴走、街頭指導などを担当し、児童の安全を確保している。 先導車乗車の校長先生のアナウンスが聞こえると、町内の方々が家族総出で沿道から選手に大きな声援を送ってくださり、児童もそれに応えようと精一杯走る。箱根駅伝さながらの応援風景が見られ、地域に支えられて行われてきた大会であることを改めて感じた。 		
○成果と ●課題	<p>○走ることの苦しさに耐え、次の走者へ襷を渡すことができ、チームが一体となり、協力して取り組むことができた。</p> <p>○地域の方々の応援が途切れることなく続いていた。児童は、みんなに応援され、守られている安心感と地域との一体感を感じることができた。</p> <p>●閉校まで残り2年。保護者の意見は「閉校後も大会を引き続きやってもらいたい」であるが、閉校後は、統合校での実施は難しいと思う。どんな歴史の引き継ぎができるかを、次年度以降検討していきたい。</p>		

学校名	横手市立山内小学校		
活動名	地域の生産活動に関心と意欲を高める活動（ものづくり教育）	活動内容	①
活動の概要	<p>1 いものこ栽培</p> <p>(1) 定植作業…「いものこ品評会」で最優秀賞を受賞している地域の農家照井幸男さんを、いものこ栽培の指導者として依頼し、祖父母の方々に手伝っていただきながら、全校縦割り班の活動で児童1人一株、全校で123株の苗を定植した。</p> <p>(2) 土寄せ体験…いものこ栽培で、「孫芋」の出来具合を左右する土寄せ作業を児童が体験したが、鍬を使って土を根元にかけてもすぐに崩れてきてしまった。その後、照井さんから機械での土寄せを演示してもらい、圧倒的な速さと確実さに歓声があがった。</p> <p>(3) 講話「作物の不思議」…照井さんに、農業経営を含めた農作物の性質などの講話をしていただいた。特に、いものこの葉の形状と雨の関係などについて、児童の関心が高めながら、作物の性質や農業の楽しさなどを紹介していただいた。</p> <p>(4) 収穫…照井さんと祖父母の方々に、シャベルでの掘り起こし方といものこの切り離し方を教えてもらいながら、作業を行った。収量が増えた上に、親芋・子芋・孫芋の分別の仕方も難しく、祖父母の方々に手伝ってもらいながら、コンテナに仕分けした。</p> <p>2 なべっこ会〈調理〉</p> <p>祖父母80名ほどを招待し、「なべっこ会」を行った。当日はあいにくの雨天で、校内での調理、体育館での会食となったが、自分たちが栽培したいものこを使ったいものこ汁を振る舞うことができた。粘りのある「山内いものこ」は、とてもおいしかった。</p> <p>3 いものこ販売体験</p> <p>児童から山内のよさをPRするために、山内小のいものこを「道の駅さんない」で販売したいという希望が出た。販売の許可を得て、袋のラベルと中に入れる手紙を作成し、80袋を袋詰めした。4年生と6年生が、呼び込み班と販売班に別れて市価の半値ほどの価格で販売したところ、1時間ほどで完売した。接客を体験することで、販売の難しさも体験できた。</p> <p>4 秋田県種苗交換会・学校農園展への出品</p> <p>収穫したいものこの最高傑作を、栽培記録・作文と一緒に、第141回県種苗交換会の第36回県学校農園展に出品した。初めての出品だったが、優良賞をいただくことができた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○生産から販売までできたことで、生産活動への関心と意欲が高まり、児童にとっても職員にとっても大きな収穫であった。</p> <p>●今年度に行った生産活動のスタイルを、今後も継続していけるように努めたい。</p>		

学校名	横手市立大雄小学校		
活動名	とびだせ大雄っ子ーホッププロジェクト2018ー	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ねらい 地域の産業である農業（ホップを柱に）に興味をもち、栽培や収穫などの体験、生産・流通に携わる人々との出会いを通して、地域のよさや働くことの喜びに気付くとともに、地域の一員としての自覚やふるさとへの愛着の気持ちを育む。</p> <p>2 取組の概要 (1) 連携する（支援を受ける）主な関係機関等 大雄ホップ農業協同組合、地域の農家の方々、市農林部関係課・大雄地域局、市ホッププロジェクトチーム、キリン（株）本社CSV戦略部・同北東北支社及び同仙台工場 ほか (2) 主な学習・活動内容 ○4月24日（火）「ホッププロジェクト2018スタート学習」 ：4年生、上記支援機関等 ・植物ホップと横手市におけるホップ栽培の現在と生産についての学習 ・ホップ株開き ○4月下旬～7月下旬「ホップの生長観察、除草、水やりなどの作業」 ：主に4年生、ホップ農業協同組合 ○6月～7月「ホップに関わる調べ学習」：4年生、仙台工場へメール等で児童が取材 ○7月11日（水）「ホップ学習の展示と説明（校内）」 ：4年生、キリン（株）や地ビールメーカー等参観・児童による説明 ○8月29日（水）「ホップの収穫」：4年生、支援機関等 ○10月14日（日）「発酵フェスティバルにて活動発表と関係者への感謝状等贈呈」 ：4年生、市Y²ぷらざにて午前・午後の2回の市民向け活動発表 ○2月下旬「大企業の組織や仕事について」：4年生、キリン（株）</p>		
○成果と課題	<p>○2年目の学習活動となり、年間の活動内容について見通しをもって学習を進めることができるようになった。地域のよさを体験や取材を通して実感したり、生産と流通、販売などの実際を知る機会となったりして、「働くこと」の楽しさや難しさにふれる貴重な学習になっている。</p> <p>○ホップ収穫後は児童が関わりにくい部分もあるが、図工科や社会科、国語科の学習素材として、教材化することができるようになってきた。また、地元農家の方々からは、児童の活動や学習発表によって、元気付けられるとの声も聞かれるようになっている。</p>		



(5) 湯沢市

学校名	湯沢市立湯沢東小学校		
活動名	「湯沢ジオパーク」ひろめ隊	活動内容	①
活動の概要	<p>1 活動の目的 ○湯沢市にあるジオパークを訪ね、地域にある自然遺産に対する理解を深めることができる。 ○専門家やボランティア、地域の人々からふるさとのよさを学び、自分自身も学んだことを発信しようとする意識をもつことができる。 ○地域で活躍する大人と直接交流することにより、物事に取り組む姿勢や気概を感じ取り、今後の自分の生き方に生かすことができる。</p> <p>2 活動の概要 (1) 活動の内容 湯沢市内にあるジオパークに関連する「森・山・水」などの自然遺産を訪ねたり、調査活動を行ったりするなどして、探究活動を行う。また、ジオパークに関わる地域の人々との交流を深め、ふるさとのよさにふれる体験をする。 (2) 活動の経緯 ①「湯沢ジオパーク」ひろめ隊の活動について見通しをもつ。 ②専門家やボランティアを招いて、ジオパークについての学習会を行う。 ③市民の森を観察する。（春・秋各1回） ④湯沢の清水や地熱発電所、小安峡大噴湯を見学する。 ⑤コース別学習（泥湯温泉、栗駒フーズ、乾燥野菜、温泉ハウス等） ⑥学習内容をまとめたリーフレット、模造紙、アルバム等を作成する。 ⑦学校の学習発表会や市主催の学習交流発表会で、学習の成果を発表する。</p>		
○成果と課題	<p>○地域にある自然遺産について専門家の指導を通して学ぶことにより、ふるさとのよさを深く理解することができた。</p> <p>○ジオパークに関わる地域の人々と繰り返し交流することにより、物事に取り組む姿勢や気概を感じ取ることができた。</p> <p>○学校として継続して活動してきたところ、今年度、本校児童から「最年少・県内初」となる小学生ジオパークガイドが誕生した。</p> <p>●学習の内容に少々難しいところがあるので、事前にどのように児童に下ろすのか、検討する必要がある。教科等の学習内容と関連を図るとともに、事前準備・調査活動・事後学習を効率的に行う必要がある。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 湯 沢 西 小 学 校		
活動名	未来につなごう！湯沢の魅力 (6年 総合的な学習の時間・絵どうろう製作)	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ねらい 地域の伝統行事を学んだり，行事に関わる製作活動に取り組んだりして，地域の行事に参加することを通じて地域の人々の暮らしや伝統文化の特色を知り，そのよさを味わうことができる。</p> <p>2 絵どうろう製作 地域の「絵どうろう保存会」等より指導者を招き，6年生が畳一畳分ほどの大きさの「絵どうろう美人画」を描く。5年生はA2大サイズの「ミニ絵どうろう美人画」を制作する。 絵どうろう祭り実行委員会による「湯沢の七夕の歴史」や地域行事にかける思いについての講話を実施し，6年生が学習の成果をパンフレットにまとめた。</p> <p>3 七夕絵どうろう祭りへの出品と参加 児童の絵どうろう作品は，全て湯沢七夕絵どうろう祭り期間中，市内各地に展示され湯沢の夜を彩った。七夕絵どうろうコンクールでの受賞も多数あった。長く受け継がれてきた地域の祭りに参加するとともに，伝統文化を守り，伝える活動となっている。 また，祭り当日，6年生がまとめたパンフレットを，湯沢七夕絵どうろう祭りの会場で観光客に配布した。</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域指導者により，本物の材料を使用し，大人と同様の技法で製作に当たる本格的な指導で，児童の学習意欲を高め，地域の祭りに積極的に関わろうとする気持ちを育てることができた。</p> <p>○絵どうろう製作の技法，絵どうろう祭りの変遷など，地域が育んできた特徴ある歴史や伝統にふれさせることができた。地域を学ぶよい機会となった。</p> <p>●予算が年々乏しくなっており，講師謝礼の支払いや教材・教具の買い足し，買い換えに苦労している。絵どうろうの紙や顔料，筆などは専用のものであり，高価である。総合的な学習の時間に係る予算減で予算の確保に苦労しており，各事業を活用しながら取り組んでいる。継続的な支援を得られるように関係機関に働きかけていく必要がある。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 三 関 小 学 校		
活動名	見つけよう！伝えよう！広げよう！三関の花まる！！	活動内容	②
活動の概要	<p>1 題材について 3年生の総合的な学習の時間の活動である。 1学期…サクランボ「なぜ三関のサクランボがおいしいのか調べよう」 2学期…ささら舞「なぜ三関でささら舞が引き継がれているのか調べよう」 3学期…大綱引き「大綱引きの歴史とそれにかかわる人々の思いを調べよう」</p> <p>2 活動内容②に関わる活動について (1) サクランボ出発式参加 三関の上関地区にある，「JAこまちゆざわフルーツセンター」で行われたサクランボ出発式に参加した。 子どもたちは，本校に勤務した教諭が創作した「三関さくらんぼ音頭」を披露したほか，総合的な学習の時間に学んだ三関サクランボのおいしさの秘密をPRしたり，収穫や出荷で繁忙期を迎える関係者に「がんばれ，がんばれ，皆さん」などとエールを送ったりした。</p> <p>(2) 大綱引きの小綱作りと綱引き行事への参加 三関地区社会体育振興会と連携し，3・4年生が縄ないをし，引き綱として大綱につながる小綱を作った。大綱引きには地区の引き手として参加した。</p>		
○成果と ●課題	<p>○自分たちの学びや活動が，地域のためになることを実感し，子どもたちに大きな達成感があった。連携したJAや三関地区社会体育振興会も，子どもたちの参加により，活動が大きくPRされるなど，事業の活性化にもつながった。</p> <p>●サクランボは3年生の題材として毎年取り組んでいるが，学習に協力してくれる生産者への依頼や交渉等を学級担任が行っているため，負担が大きい。今後は，来年度設置予定の学校支援活動のコーディネーターが，生産者やJAとの窓口となって取り組んでいけるように計画していきたい。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 山 田 小 学 校		
活動名	「山田のいいな！」さがし探検隊（2年生活科）	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、2年生の生活科の地区探検を通して、地域の人々や様々な場所に親しみをもって関わり、地域のよさを発見しながら、ふるさとを大切に思う心を育てている。今年度は、6月と10月の2回にわたって、子どもたちが希望した18か所の「山田のいいな」の場所を探検させていただいた。探検場所としては、花やトマト、しめじなどを栽培している農家、商店、コンビニ、整備工場、酒造会社、大型スーパー、福祉施設等である。</p> <p>〈活動の実際〉</p> <p>1 期 日 ----- 6月20日～10月18日</p> <p>2 参加者 ----- 2年児童21名</p> <p>3 協力者 ----- 地域の農家、商店、会社、福祉施設等</p> <p>4 連携団体 ----- 学校支援地域本部ボランティア（引率等）</p> <p>5 内 容</p> <p>(1) 第1回フィールドワーク（6月20日） 農家や商店、会社等11か所に分かれて訪問し、自分たちで考えた質問をしながら、大変さや様々な工夫、喜びについて学習した。</p> <p>(2) 見学のまとめ・地域への発信（9月29日） 見学して分かったことを学習発表会で披露することにし、「山田のよさ」について意欲的に発信することができた。</p> <p>(3) 第2回フィールドワーク（10月18日） 1回目の見学を踏まえ、子どもたちは更に地域について知りたいという思いが強まり、特に学校周辺の大型スーパーや食堂、理容店等を見学した。</p> <p>(4) 学習のまとめ（10月下旬） 2回の見学を終え、地域について知ったことや驚いたこと、それぞれの工夫や苦労についてまとめ、お世話になった方々に心をこめてお礼の手紙を書いた。</p>		
○成果と課題	<p>○地域の方々との関わりや様々な場所を見学することにより、自分の住んでいる地域に進んで関わろうとする気持ちを育むことができた。また、目上の人や高齢者など、相手に応じた接し方を考えたり、積極的に挨拶したりすることができるようになった。</p> <p>●見学でお世話になった方々を学習発表会に招待し、学習の成果を見ていただきながら、更に交流を深めていけるようにしたい。また、見学時の引率職員やボランティアも確保していきたい。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 須 川 小 学 校		
活動名	地域のプロに学ぶ農業体験「米づくり」「ひろっこづくり」	活動内容	①
活動の概要	<p>5年生が、総合的な学習の時間「お米はかせになろう」と社会科の農業学習の一環として、地域の方から米づくりについての体験活動をさせていただいた。全校では、一年を通して「ひろっこ（野蒜の若芽）」の栽培体験をさせていただいている。どちらの活動の講師も、本地域で長く農業を営んできたプロの方であり、児童の活動を支えてくださる貴重な存在である。</p> <p>「米づくり」（5年）</p> <p>4月 種まきの見学・体験</p> <p>5月 手植えと機械植え体験</p> <p>7月 除草体験</p> <p>10月 手作業とコンバインによる稲刈り体験</p> <p>12月 収穫した米を使った調理</p> <p>「ひろっこづくり」（全校）</p> <p>5, 6月 種ほり・種取</p> <p>9月 植え付け</p> <p>2月 収穫</p> <p>学年担当等を決めて計画的に種を取り、冬の収穫までは農家の方の力をお借りして栽培する。収穫は厳寒の中での作業であるが、保護者や地域の方々の協力を得て、例年たくさんの収量を上げている。とれた「ひろっこ」は児童が家庭に持ち帰るほかに、お世話になっている地域の方にもお配りして、喜んでいただいている。</p>		
○成果と課題	<p>○地域の産業としての農業体験は、ふるさとのよさを感じたり勤労の大切さ・大変さを味わったりするのに有効である。さらに、その道のプロの方に教わることは、児童のキャリア発達にも大いに役立つと感じた。特に5年生の米づくり体験は、今は少なくなった手作業も体験させていただいたので、個々の児童が課題解決学習を十分に展開することができた。加えて、農業学習への理解も更に深まったものと思われる。</p> <p>●野外のため、天候に左右される活動である。学校行事や、忙しい講師の方の業務が錯綜する中での活動は、日程調整が難しい。年度当初の計画通りに進められなくても、柔軟に対応することが必要である。また、地域の産業に進んで参画していこうという意欲をもたせるためには、発信する活動の充実が課題と感じる。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 稲 庭 小 学 校		
活動名	「稲庭小の桜」講話 (①) 稲庭城祭りへの参加 (②)	活動内容	①・②
活動の概要	<p>1 はじめに 本校では、地域と密着した様々な学習活動を行っているが、その中から次の二つを紹介したい。</p> <p>2 学習の実際</p> <p>(1) 「稲庭小の桜」講話 対象；2・3年(複式学級) 学校敷地内には樹齢100年を超える桜の古木が多数存在し、開花の時期には児童の情操教育に貢献し、地域の人々の憩いの場となっている。そこで、「桜を守る会」会長の高橋喬司氏を講師に、主に桜の歴史について学習した。 ・学校火災があった当時の様子 ・火災の実際の様子 ・本やNHKの番組に取り上げられて知名度が上がった経緯 ・当時から存在し、火災にも負けなかった桜についての話 以上のような事柄についての知識を新たに獲得し、学校の桜についての理解が深まったようである。なお、他日の「桜を守る会」の追肥作業には、4・5・6年生も参加して保護活動の一端を担っている。</p> <p>(2) 第5回稲庭城祭りへの参加 対象；3・4年 観光イベントのオープニングアクトの一つとして、「稲庭子ども太鼓」を披露した。今年度で4回目の参加である。好天に恵まれ、練習してきた成果をしっかりと出し切り、大きな拍手をいただいた。ふるさとに古城があり、それを中心に人々が集い、秋の一日を過ごす心地よさを感じていたようである。</p>		
○成果と ●課題	<p>○どちらの活動も稲庭ならではのものである。地域の方々が、この地域に注ぐ思いを身近に感じられる絶好の機会であると捉えている。こうした活動を通して育まれるふるさとへの思いは、生涯忘れ得ないものとして残っていくはずである。</p> <p>●継続的に行ってきた活動であるため、目新しさや発展性という観点から考えると物足りなさを感じることもある。活動の形態・内容等についての検討が必要である。</p>		

学校名	湯 沢 市 立 三 梨 小 学 校		
活動名	収穫に感謝しよう	活動内容	①
活動の概要	<p>本校の総合的な学習の時間では、地域の方々の協力を得ながら、3年生は「りんごづくり」、5年生は「米づくり」をテーマとした学習を行っている。また、PTA行事の中に「収穫感謝集会」を設定し、各学年が学んだことを全校児童や保護者と共有している。</p> <p>1 3年生の活動「りんごづくりを調べよう」</p> <p>(1) オリエンテーション・・・・・・・・(8月下旬) 課題づくりをする。</p> <p>(2) りんごにシールを貼ろう・・・・・・・・(9月中旬) 地域のりんご園を訪問し、質問したり作業体験をしたりする。</p> <p>(3) 収穫体験をしよう・・・・・・・・(10月下旬) 収穫体験し、これまでの学習を新聞にまとめる。</p> <p>2 5年生の活動「お米づくりにチャレンジ」</p> <p>(1) 種まき体験・・・・・・・・(4月下旬) 「みつなしアグリ」の方々と、温度や水の管理について学ぶ。</p> <p>(2) 田植え体験・・・・・・・・(5月下旬) 地域の協力者を中心に、JAや土地改良区の方々と手植えや機械植えを体験する。</p> <p>(3) 稲刈り体験・・・・・・・・(9月下旬) 手刈りや機械刈りした米をはさ掛けする。</p> <p>(4) 脱穀体験・・・・・・・・(10月下旬) 天日干しした稲を脱穀機で脱穀する。</p> <p>3 全校の活動「収穫感謝集会」「餅つき会」(10月下旬) 発表会を通し、全校児童や保護者と学習を共有する。 5年生が収穫した米で餅つきをする。</p>		
○成果と ●課題	<p>○家族が携わっているにも関わらず、農業に対して関心の低い子どもたちも、一連の学習を通して、新たな発見や学びがあり、地域や家族の仕事について関心を高めることができた。</p> <p>○全校児童で学習を共有することで、他の学年も今後の学習の見通しをもったり、これまでの学習を振り返ったりする場となった。</p> <p>●連携機関や地域の人材との連絡をスムーズに取れるように、活動記録を共有していく。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 川 連 小 学 校					
活動名	ふれあう手と手，心と心 ～稲川支援学校との交流～	活動内容	②			
活動の概要	<p>本校では，本地域にある稲川支援学校との交流を継続して行っている。1学期は1～4・6年生が稲川支援学校を訪問し，2学期は4・6年生が稲川支援学校の児童を川連小へ招待して交流した。招待した際には児童が交流会の企画・運営を行い，ゲームや歌，ダンスをみんなで楽しんでいた。交流を通して，児童は主体的に地域との関わり，心のつながりについて考えることができた。今回は，4・6年生の交流の内容について紹介する。</p> <table border="1"> <tr> <td> <p>【4・6年生】 はじめましての会（7月11日） 1 グループ交流（自己紹介・メンバー表づくり） 2 みんなでゲーム（ボール運びリレー）※ベストペア賞の設定</p> </td> <td> <p>【6年生】 なかよし交流会①（9月21日） 1 アンパンマン積み木ゲーム 2 ボウリングゲーム 3 みんなで歌おう</p> <p>なかよし交流会②（11月13日） 1 だるまさんがころんだ 2 ダンス・歌 3 思い出写真コーナー</p> </td> <td> <p>【4年生】 ゲーム交流会①（9月27日） 1 歌と演奏の発表 2 アンパンマン積み木ゲーム 3 みんなでボウリング</p> <p>ゲーム交流会②（11月20日） 1 みんなで風船トスゲーム 2 作って飛ばそう紙飛行機 3 みんなで歌おう</p> </td> </tr> </table>  			<p>【4・6年生】 はじめましての会（7月11日） 1 グループ交流（自己紹介・メンバー表づくり） 2 みんなでゲーム（ボール運びリレー）※ベストペア賞の設定</p>	<p>【6年生】 なかよし交流会①（9月21日） 1 アンパンマン積み木ゲーム 2 ボウリングゲーム 3 みんなで歌おう</p> <p>なかよし交流会②（11月13日） 1 だるまさんがころんだ 2 ダンス・歌 3 思い出写真コーナー</p>	<p>【4年生】 ゲーム交流会①（9月27日） 1 歌と演奏の発表 2 アンパンマン積み木ゲーム 3 みんなでボウリング</p> <p>ゲーム交流会②（11月20日） 1 みんなで風船トスゲーム 2 作って飛ばそう紙飛行機 3 みんなで歌おう</p>
<p>【4・6年生】 はじめましての会（7月11日） 1 グループ交流（自己紹介・メンバー表づくり） 2 みんなでゲーム（ボール運びリレー）※ベストペア賞の設定</p>	<p>【6年生】 なかよし交流会①（9月21日） 1 アンパンマン積み木ゲーム 2 ボウリングゲーム 3 みんなで歌おう</p> <p>なかよし交流会②（11月13日） 1 だるまさんがころんだ 2 ダンス・歌 3 思い出写真コーナー</p>	<p>【4年生】 ゲーム交流会①（9月27日） 1 歌と演奏の発表 2 アンパンマン積み木ゲーム 3 みんなでボウリング</p> <p>ゲーム交流会②（11月20日） 1 みんなで風船トスゲーム 2 作って飛ばそう紙飛行機 3 みんなで歌おう</p>				
○成果と●課題	<p>○3回の交流を通して，友達に優しくしようとする心や，寄り添って一緒に考えようとする態度が養われた。「今後もこの交流を継続していきたい」と多くの児童が振り返り，稲川支援学校や地域と主体的に関わろうとする気持ちが高まった。</p> <p>○会話でのコミュニケーションだけでなく，表情や行動からも相手の思いを感じ取ることができていることを実感していた。表情から伝わる相手の気持ちを共有したり，気持ちに寄り添って行動を共にしたりする中で，相手を共感的に理解する力が高まった。</p> <p>●毎年行う「計画された」交流だけでなく，児童が更に交流したい人を見付けたり，その交流を実現させたりするなど，活動の幅を広げることが今後の課題である。児童の主体的な活動を支援し，地域と学校が連携・協働する仕組みを更に充実させたい。</p>					

学校名	湯 沢 市 立 駒 形 小 学 校		
活動名	地域の力を生かした農園活動	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では，「人，社会，自然と豊かに関わり，意欲をもって学び続ける子ども」を目指す子ども像として，地域の力を生かしながら農園活動を行っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 代掻き・田植え（5月 5年） ・田んぼの先生，美土里ネット，資源保全会の方々の協力を得て行った。田植えは昔ながらに「型」を押して印を付け，子どもたちが田んぼに素足で入り苗を植えた。 野菜の植え付け（5月 全学年） ・「若駒農園」で地域の方の指導の下，各学年で主に学習に関わる野菜の種蒔きや植え付けを行った。 稲刈り・脱穀（9・10月 5年） ・田んぼの先生や地域の方の指導の下，子どもたちが鎌で稲を刈り取り，それを束ねて天日で干し，脱穀作業を行った。 親子料理教室（11月 5年） ・学習田で収穫した米を使い，湯沢市健康対策課と駒形地区のヘルスメイトの指導の下，親子で花ずしや大学カボチャ，ジャガイモのガレットを作った。（カボチャやジャガイモも農園で収穫） なわない体験教室（1月 4・5・6年） ・学習田のわらを利用し，4年生以上が毎年行っている。縄をない，雪中田植えの儀式に利用する。 雪中田植え（2月 全学年） ・学習田の収穫に感謝するとともに，次年度の豊作を願い，雪中田植えを行っている。旧正月の行事として行っており，地域の方の御厚意で児童に温かい甘酒が振舞われる。 		
○成果と●課題	<p>○一人一人が一連の活動に積極的に関わることで，働くことの大切さや意義を感じるとともに，ふるさとの伝統行事を引き継いでいこうとする意欲を醸成するなど，キャリア教育としても有意義な活動となっている。</p> <p>●農園活動と各教科等との関連を図り，総合的に学ぶ活動に高めていきたい。また，地域の協力者が高齢化してきており，新たな人材の発掘が急がれる。</p>		

学校名	湯 沢 市 立 雄 勝 小 学 校		
活動名	地域のお年寄りとの交流活動	活動内容	②
活動の概要	<p>1 活動の目的 ○日頃お世話になっている祖父母の方々を招待し、交流会を通してふれあいを深める。</p> <p>2 活動の実際 (1) 「福祉のこころ」(4年) 社会福祉協議会の協力を得て、車椅子・高齢者疑似体験を行った。関節が思うように曲がらず、視野も狭いことから、おそるおそる歩いている様子が見られた。階段の上り下りや細かい指の動きなどが思うようにならないことを実感した。福祉施設を訪問し、音楽の時間に学習した歌とリコーダーの演奏を披露した。また、利用者と一緒に短冊に願い事を書いたり七夕飾りを作ったりして交流した。</p> <p>(2) 「祖父母交流会」(全校) 各学年の授業参観では、交流活動を行った。一緒に昔遊びをしたり、簡単なレクリエーションをしたりした。一緒におもちづくりをして遊んだ学年もあった。続く集会では、各学年のミニ発表会を行った。地域の史跡について学んだことをクイズにしたり、自分たちの祖父母自慢をランキング形式で発表したりした。また、児童から参加者に手紙を贈ることで、日頃の感謝の気持ちを表した。</p>		
○成果と ●課題	<p>○福祉施設の訪問に先立って、車椅子・高齢者疑似体験を行ったことが効果的であった。高齢者の立場に寄り添って発表したり、交流活動を行ったりすることができた。</p> <p>○祖父母交流会では、児童の祖父母だけでなく、地域の孫のいない高齢者も招待し、日頃のボランティア活動(地域見守り隊等)に対する感謝の気持ちを表した。多くの方々に喜んでいただけたことで、児童の自己有用感にもつながった。</p> <p>●4年生が行っている訪問活動について、交流内容を児童が主体的に考え、実施できるよう、計画的に行いたい。</p> <p>●祖父母交流会の参加者の中には、普段から地域支援ボランティアで協力していただいている方も多し。そうした方々との交流を日頃から密にしていきたい。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 皆 瀬 小 学 校		
活動名	カントリークラブによる「板戸番楽」	活動内容	①
活動の概要	<p>1 活動の趣旨 本校では、クラブ活動の時間に湯沢市指定無形民俗文化財である「板戸番楽」に取り組んでいる。「板戸番楽」は、皆瀬の板戸地区に伝わる伝統文化の一つであり、その起源はおよそ1,320年前に遡る由緒ある伝統の舞である。この伝統文化の継承を目的として、本校の児童が地域の方々に協力していただきながら、番楽の普及と伝承に取り組んできている。</p> <p>2 活動の実際 今年度は4年生以上の児童10名が活動に参加している。学校ではクラブ活動の時間に「カントリークラブ」として行っており、地域在住の番楽に詳しい教員が指導をしている。また、板戸番楽保存会の方々にも御来校いただき、細かな指導をしていただいている。保護者や地域の方々の協力体制も良好で、子どもたちは意欲的に活動に取り組んでいる。</p> <p>この活動の成果は、皆瀬地区敬老会や全県公民館大会等、様々な場面でたくさんの方々に見ていただいている。また、今年の学習発表会では、これまで板戸番楽を学んできた中学生も参加して地域の方々に披露することができた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○これまでの活動を通して、児童には郷土から学び、郷土を愛する気持ちが育まれ、自分が生れた地域を誇りに思うことにつながった。また、板戸番楽保存会の方々との交流を通して、地域の伝統文化のよさや継承に情熱を傾ける地域の方々の姿に目を向けることができた。</p> <p>●児童数の減少に伴い、カントリークラブに所属する児童数も減少傾向にある。また、クラブ活動という限られた時間だけしかないため、学校教育の中だけでは伝統芸能の魅力を十分に伝えることが難しくなりつつある。</p>		





(6) 羽後町

学校名	羽後町立西馬音内小学校		
活動名	西馬音内川クリーンアップ	活動内容	②
活動の概要	<p>1 活動のねらい 本地区では8月16日～18日の3日間、国の重要無形民俗文化財である西馬音内盆踊りが開催され、県内外から多くの観光客が訪れる。夏季休業が始まる最初の土曜日に、西馬音内町部振興会との共催により、西馬音内川クリーンアップの活動を毎年行っている。子どもたちが自主的な奉仕活動に参加することによって“盆踊り前にきれいな西馬音内川にして観光客を迎えよう”という意識を高めるとともに、ふるさと豊かな自然や伝統文化に誇りをもち、地域の一員として地域に貢献する意欲を育てることをねらって実施している。</p> <p>2 活動内容 早朝6時30分開始にもかかわらず、合計100人余りの児童や保護者、教職員、地域の方々が活動に参加してくれた。 作業内容は、堤防に作られた壁画の清掃である。主に下学年の児童は、壁画の脇から生えている草を取り除いた。上学年の児童は、ブラシやタワシを使って壁画の汚れを落とした。付近に水道がないため、児童が川の水を何度もバケツで汲み上げて汚れを流した。 また、堤防沿いの散策路の草むしりと落ち葉・枝拾いも同時に行った。児童と保護者や地域の方々が協力しながら作業している姿を多くの場所で見ることができた。動力草刈り機を持ってきた保護者・地域の方は、河原の草を刈る作業も行った。 1時間余りの作業で、4枚の壁画がきれいになり、遊歩道や河原もすっきりとして環境が整った。最後は終わりの会で数名の児童が感想を述べ、活動を終えた。</p>		
○成果と課題	<p>○任意参加のため、全校児童全員とはいかないが、多くの児童が自発的にボランティア活動に参加し、地域の一員として貢献する意欲を高めることができた。本校は今年で統合3年目であるが、西馬音内地区以外の児童・保護者の参加も増えてきている。</p> <p>●地元西馬音内地区の児童・保護者・地域の方々の参加の割合が低下してきている。地域の環境を向上させるために取り組んでいる活動だということを、もっとアピールする必要があると思う。共催する西馬音内町部振興会や行政機関とも連携を図っていきたい。</p>		



学校名	羽後町立三輪小学校		
活動名	米づくり体験活動～総合的な学習の時間～	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ねらい 米づくりの体験を通して、食や自分たちの住む地域について考える。 2 参加者 5年生21名 3 協力者 JAこまち青年部、地域農家、保護者 計15名 4 内容</p> <p>○田植え（6月5日） 学校から徒歩3分の場所にある田んぼ（地域の方の御厚意で無償でお借りしている）に移動し、協力者の方々の指導で、型付けや手植え作業を行った。初めての体験という児童が大部分で、おそろおそろ田んぼに入っていたが、しばらくすると泥だらけになって夢中で作業していた。</p> <p>○稲刈り・脱穀（9月28日） 鎌での手刈りやコンバインに同乗しての作業を体験した。今年は豊作だという協力者の話があり、一同大喜びしていた。</p> <p>○米の販売（10月6日） 学習発表会当日、会場入り口で米を販売した。5kg入り47袋、3kg入り12袋を完売した。</p> <p>○収穫祭（12月20日） 協力してくださった方々を招き、収穫祭を行った。保護者の協力を得て餅つきをし、みんなで田んぼの協力者への感謝と収穫の喜びとを味わいながら、楽しいひとときを過ごした。</p>		
○成果と課題	<p>○田植えや収穫作業、教室での調べ学習、収穫した米の販売や様々なことに感謝する収穫祭の計画と実施など、児童は、一連の活動の中で多くのことを学ぶことができた。自分から進んで周りの人に関わろうとする姿が見られたことも、大きな成果である。</p> <p>●今年5年生は、総合的な学習の時間で学区内の椎茸栽培農家を訪ねるなど、地元の農家と関わる学習も実践している。ふるさと教育、キャリア教育の視点からも、今後更に年間計画の見直しを図りながら、こうした学習を推進していきたい。</p>		



学校名	羽後町立羽後明成小学校		
活動名	「花と真心」「笑顔と感謝」の交流	活動内容	①
活動の概要	<p>地域に住む一人暮らしの方に、花を届けて十数年。本校が統合する前から続けてきた大切な行事があります。今年も6月に行いました。</p> <p>1 花の管理～前日まで 福祉協議会から届けていただいた花をプランターに植え替えます。花を届ける日まで2週間。その間、水やりや除草を行います。枯らさないように世話をすることで、相手に対する思いやりの気持ちを育てることもねらいとしています。</p> <p>2 前日～ラッピング セロファンやリボンでラッピングをします。結び目が多少いびつになつたりしますが、できるだけ子どもたちの力でやらせ、思いを込めさせます。メッセージカードを作成し、明日の出発を待ちます。</p> <p>3 当日～花を車に積んで各方面へ 地域の方に案内してもらい、徒歩や自家用車で各方面に向かいます。子どもたちが訪問すると、誰もが満面の笑顔で迎えてくれました。</p>		 
○成果と●課題	<p>○明治・新成，両地区の福祉協議会の協力を得て実施している行事です。地域の方々とのふれあいを深められること，地域に元気を与えられる内容であることは間違いありません。コミュニティ・スクールとして，学校・地域が協働していることを実感できる行事となりました。</p> <p>●子どもたちの中では，まだイベント的要素となっている気がします。総合的な学習の時間や特別活動の一環として教育課程の中にしっかり位置付け，子どもたちが自主的に取り組めるよう支援していければと感じています。また，これを機会に地域の方には，気軽に学校に足を運んでくれるようになってくれたらと思います。</p>		

学校名	羽後町立高瀬小学校		
活動名	高瀬っ子 夢キラッとプロジェクト	活動内容	①
活動の概要	<p>1 活動のねらい ふるさとの伝統芸能にふれ，体験し，発信する活動を通して，ふるさとのよさを知り，ふるさとの生きる誇りと喜びを感じるとともに，地域の人たちと関わりながら伝統を継承していこうとする意識と夢を育む。</p> <p>2 体験する 芸能活動</p>		  
	<p>田代太鼓</p> <p>仙道番楽</p> <p>西馬音内盆踊り</p>		
	<p>3 活動の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの芸能に分かれて1年間活動する。 ・3年生から5年生までは毎年種目を変えながらローテーションし，6年生は指導的リーダーとして自分を発揮できる種目を選択し，参加する。 <p>4 活動内容</p> <p>(1) 伝統芸能鑑賞会(指導団体の模範演技鑑賞) (2) 伝統芸能を体験する会(前期練習6,7月)</p> <p>(3) 中間発表会 (4) 伝統芸能を体験する会(後期練習9月)</p> <p>(5) 伝統芸能発表会(学習発表会) (6) 活動反省会</p>		
○成果と●課題	<p>○指導団体の方々の素晴らしい模範演技とていねいな指導，そして熱心に練習する児童の姿勢が相乗効果を生み，芸能を通して，児童と地域の方々が技術の伝達を超えた心の交流を図っている。また，中間発表会や本番発表での児童の演技は，指導団体の方々，家族，地域の方々に大好評で，児童も大きな達成感と成就感を得ている。</p> <p>●三つの芸能に対する興味・関心は個々の児童によって異なることから，ローテーションして体験していく際にどのようにして児童のモチベーションを高めていくか，また，キャリア教育の一環として，児童に本活動と児童の生き方をどのように関連させて捉えさせていくかということなどが課題と考えられる。</p>		

(7) 東成瀬村

<p>学校名</p>	<p>東成瀬村立東成瀬小学校</p>		
<p>活動名</p>	<p>感謝給食会～「ふるさと先生」に感謝の気持ちを伝えよう～</p>	<p>活動内容</p>	<p>①</p>
<p>活動の概要</p>	<p>1 活動の趣旨 本校の子どもたちは素直で明るく協調性も身に付けているが、社会の変化もあり、ふるさとのよさを実感できる体験が少なくなってきた。そこで、学校経営の重点に、豊かな心を育む教育活動の充実を設定し、豊かな体験活動を通して、人や社会と関わりながら、郷土を愛する心を育てることを取り上げている。その具体策の一つとして、感謝給食会を実施している。</p> <p>2 活動の実際 毎年、学校行事や各教科の学習でたくさんの方々に「ふるさと先生」としてお世話になっている。お世話になった「ふるさと先生」方をお招きして、楽しく会食しながら、感謝の気持ちを伝えることをねらいとしている。</p> <p>(1) 各学年でお世話になった地域の方々をリストアップする。 (2) 学校からの案内状と児童からの招待状を届ける。 (3) 給食委員会が感謝給食会の準備を進める。 ・司会、座席表、歓迎のメッセージカード等 (4) 感謝給食会のプログラム ・ふるさと先生入場 ・ふるさと先生の紹介 ・ふるさと先生との会食 ・ふるさと先生代表の方のお話 ・ふるさと先生退場、拍手で送る (5) 次年度へ向けての反省（給食委員会、職員）</p>		
<p>○成果と課題</p>	<p>○自分たちの学習が、地域の方々の協力で進められていることを改めて意識するとともに、これからも地域の方々との関わりを大切にしていこうとする気持ちが育ってきている。 ○地域の方々との関わり、交流が大事にされているので、信頼関係が生まれ、子どもたちは地域の方々に支えられているという感謝の気持ちや、ふるさとを大切にしようとする心が育ってきている。 ●体験学習や学校行事があるときだけの交流・ふれあいにならないように、普段から子どもたちが地域の方々と積極的にふれあうように、学校支援地域本部コーディネーターと相談しながら工夫していきたい。</p>		



2 中学校

(1) 大仙市

学校名	大仙市立大曲中学校		
活動名	特別養護老人ホーム「こもれびの杜」訪問	活動内容	②
活動の概要	<p>1 訪問のねらい (1) お年寄りと接することで、思いやりの心を育む。 (2) ホームで働く方々の姿から学び、福祉についての理解を深める。</p> <p>2 当日の活動 (1) 入所式 (施設長さんのお話, 生徒代表あいさつ, 贈り物の紹介と贈呈) (2) 活動A (図書委員による絵本の読み聞かせ, 合唱部による歌の披露) (3) 活動B (各部屋でのお年寄りとの交流) (4) 退所式 (感想発表とお礼の言葉, 施設長さんのお話)</p> <p>3 活動を振り返って この訪問は、訪問先の御理解と御協力のおかげで10年以上継続することができている。今回もJRC委員を中心に合唱部と図書委員も加わり、47名の生徒を受け入れていただいた。関係者の皆様に感謝申し上げたい。学校ではこの訪問に際し、事前の学習を行うとともに、全校アルミ缶回収や曲中祭バザーの収益金で施設が必要な物品を寄贈させていただいている。地域の福祉に貢献することの大切さを学ぶ貴重な機会となっている。生徒たちの歌等に感動し、涙しながら聞いてくださる入所者の方もたくさんおられた。また、直接ふれあうことで、自己有用感を高めたり福祉の仕事に対する理解を深める生徒も多かった。</p>		
○成果と ●課題	<p>○生徒は、「皆さんの訪問を楽しみに待っていた」という言葉を入所者からいただき、人の役に立つことの喜びや大切さを実感することができた。また、普段お年寄りと接する機会が少ない生徒も多く、交流を通してたくさんのお話を学ぶことができた。</p> <p>●このような直接ふれあう経験を多くの生徒にさせたいが、全校生徒が750名を超える本校では困難である。総合的な学習の時間等を工夫し、地域や福祉の実態を知り、それに積極的に関わり貢献しようとする生徒を育てていきたい。</p>		



入所式の様子



図書委員による読み聞かせ



合唱部による歌のプレゼント



入所者との交流



笑顔で交流できました

学校名	大仙市立大曲西中学校		
活動名	全校農園活動, 西中祭	活動内容	①
活動の概要	<p>1 全校農園活動 本校では域内の農家より畑をお借りし、全校農園活動を行っている。畑の耕起や肥料散布, 畝立てやマルチがけなど、技術を要する作業は地域の方に依頼し、事前に行っていただいている (図①)。その後、総合的な学習の時間に生徒がジャガイモ, サツマイモ, ねぎなどの苗を植え付けるのだが、その際には地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、指導していただいている (図②)。 収穫した作物は (図③)、本校の学校祭である西中祭で販売したり、食堂コーナーの食材として使ったりするなどして、地域の方々に感謝の気持ちを込めて還元している。</p>		
	<p>①畝立てとマルチがけ</p>	<p>②ジャガイモの苗植付</p>	<p>③ジャガイモの収穫作業</p>
	<p>2 西中祭 西中祭の食堂コーナーでは、地域の方が考案した「カレーうどん」を販売している。人気メニューであり、材料の一部は農園で収穫したものである。朝早くから地域の方が下ごしらえ (図④) をしてくださり、盛り付けは生徒が行っている (図⑤)。</p>	<p>④下ごしらえ</p>	<p>⑤生徒による盛り付け</p>
○成果と ●課題	<p>○全校で農園活動を行うことにより、汗して働くことの喜びや大切さを体得し、学年を超えて互いに協力することの大切さを実感的に学ぶことができた。</p> <p>○地域の方の協力により、限られた時間内でねらいに沿った活動を行うことができた。</p> <p>○地域の方との交流により、ふるさとのよさに気づき、ふるさとを大切にしようとする気持ちが醸成された。</p> <p>●天候に左右される活動のため、雨天時などの際に、地域の方と連絡・調整を行うのが難しい。</p>		

学校名	大 仙 市 立 大 曲 南 中 学 校		
活動名	地域との連携を大切にした避難所開設訓練	活動内容	①
活動の概要	<p>1 実施の概要 今年度本校では、「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」として、水害を想定し「自主防災組織との連携」「地域の実態に即した訓練」を重点的に行った。避難者を上の階へ誘導、体育館に避難所の開設、そして管理監からの講演という3部構成で実施した。地域の自主防災組織関係者や消防団員、福祉施設の入居者等、地域住民の方々約100名の協力を得て取り組んだ。</p> <p>2 具体的な活動 (1) 自主防災組織の方々や要配慮者には、避難者役としての受け入れや4階の避難所への誘導、また消防団員指導の下で、校舎内への浸水を防ぐための土嚢づくりと積み上げ作業を行った。 (2) 地域住民の受け入れと炊き出しによる食事の提供、避難者の受付、パーティションの設置、給水車による給水の支援、また消防署員からはAED、そして市防災課の方々からは仮設トイレ設置の実演や講習を行っていただいた。 (3) 市防災危機管理監からは、地域の方々と共に、水害の実態や水害への備え方、適切な避難の仕方等、防災に係わる研修と講話をしていただいた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○生徒は、避難所開設訓練に積極的に参加し活動を行うことで、防災の知識や地域一体となった自助・共助の防災意識が高まった。</p> <p>○生徒は、地域の方々や交流する機会が増え、様々な声をかけてもらう中で、自分たちも地域社会の一員であるという自覚や、地域に貢献できたという達成感や成就感が得られた。</p> <p>●今後、水害以外の地震や台風等の災害や、夜間・冬季の災害への対応も検討し、学校と地域が連絡を密にして、よりよい防災時の連携体制を構築していく必要がある。</p>		

学校名	大 仙 市 立 平 和 中 学 校		
活動名	防災教育	活動内容	①
活動の概要	<p>1 避難所開設訓練（7月） 初めて神岡小3年生の参加・体験を得ながら、6回目となる避難所開設訓練を開催した。避難者を想定して、地域の住民や保護者等に協力していただき、居住スペースの確保、避難者の受け入れ、健康観察、炊き出し、避難してからの余震に対するシェークアウト訓練等について、支所長・公民館長・自治会連合会長に避難所の運営を引き継いだ。また、大曲消防署西分署の職員の協力もいただき、参加者と一緒にAEDの使い方についても学んだ。</p> <p>2 全校鉄くず回収活動（8月） 被災地交流活動の際に行う夢花火大会の資金にするため、神岡地域の住民に鉄くずの提供を呼びかけた（チラシ全戸配布・広報車でPR）。地域内10か所に設けた集積所に鉄くずを持ち寄ってもらい、全校生徒と保護者が分担して回収活動を行った。</p> <p>3 被災地交流活動（9月）</p> <p>(1) 第5回復興支援交流夢花火大会 岩手県大槌町吉里吉里地区で、復興支援交流夢花火大会を行った。地元の花火業者2社をはじめとする神岡・吉里吉里両地域の諸団体の協力の下、約130発の大輪の花を吉里吉里湾に咲かせることができた。</p> <p>(2) 第7回大槌・神岡交流グラウンドゴルフ大会 吉里吉里学園グラウンドを会場にして実施した。晴天に恵まれ、参加した60数名の吉里吉里地区のお年寄りの方々に、たいへん喜んでいただいた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の方々や事業所からの協力と支援を得て、7回目の被災地交流活動を成功させることができた。生徒は交流を通して地元を見つめ直し、郷土に対する誇りや愛着を育むことができた。また、学校の枠を越えた活動を地域と連携しながら経験することで、社会における自らの生き方・働き方等についても考えることができた。</p> <p>●交流夢花火大会は、諸般の事情で5年目で幕を閉じた。生徒の達成感や充実感をより一層高めるため、グラウンドゴルフ大会等の企画・運営に工夫が必要である。</p>		

学校名	大仙市立西仙北中学校		
活動名	西仙北中学校地域活性化プロジェクト (西仙北支所を始めとする地域との協働事業)	活動内容	①・②
活動の概要	<p>1 生徒会を中心としたボランティア活動</p> <p>(1) 大綱案内人 平成28年度より「刈和野大綱引き」の当日に、HUBスペースを拠点にして観光客や地元の方々をもてなしている。「刈和野大綱引き」の歴史紹介、道案内、西仙北支所が行うイベントの手伝い等)</p> <p>(2) 「西仙秋の音」への参加 西仙北スポーツセンターで行われた音楽イベントに、ボランティアとして協力(道案内、物販の手伝い、アナウンス、オリジナル缶バッジの製作と販売等)。吹奏楽部は演奏を披露した。</p> <p>2 伝統継承者としての意識の醸成・高揚(ふるさと体験学習) 「刈和野大綱引き」での、大綱講演会(建元を招いての歴史等の学習)の実施。「綱よい」や大綱引き当日の「綱のぼし」にも、大綱保存会より贈られた揃いの中学生半纏を着用して参加。</p> <p>3 地域と連携した福祉活動 生徒会を中心としたボランティア活動のほかに、アルミ缶回収の収益金による福祉施設等への寄贈、吹奏楽部による地域内の福祉施設を訪問してのサマーボランティアコンサート、小・中学校、自治会合同のクリーンアップ活動を行っている。</p> <p>4 授業と地域・社会の結び付き</p> <p>(1) 創作和菓子 美術の授業でデザインした創作和菓子を、地元菓子店で商品化し販売(今年度で8作品)。ふるさとへの思いや四季の美しさを表現。学習意欲の喚起につながっている。</p> <p>(2) 地域人材の活用 家庭科の授業(行事食・郷土料理の調理実習)や総合的な学習の時間の授業(西仙北地域の歴史・自然・伝統についての調べ学習)を行うに当たり、その道に詳しい方々を西仙北支所や西仙北中央公民館等の御協力をいただいて実施。</p>		
○成果と課題	<p>○「地域と共に」を掲げ、地域の活性化をねらいとした中学生の取組により、今年度も大きな手応えを感じることができた。ボランティア活動の参加者も増え、「大仙ふるさと博士」認定者が多くなっている。周知や達成感の共有という点で、学年通信やブログ等での情報発信が功を奏している。</p> <p>●「地域の活性化を図る取組」の継続と「次へのつながり」「生徒の主体的な活動」を意識して、更に地域とのつながりを深めていくことが大切であると考えている。今後もふるさと・キャリア教育の充実を図り、地域行事への参加や総合的な学習の時間等を通して、生徒自身が更に地域の現状を理解し、課題をもち、解決していこうとする意識を高めていくことが必要である。</p>		



学校名	大仙市立中仙中学校		
活動名	学校と社会教育が連携して行う「俳句教室」	活動内容	①
活動の概要	<p>中仙地区は、明治後期より自由律俳句を主流とする作句活動が盛んな地域であり、現在も多くの方が俳句に親しんでいる。</p> <p>本校では、3年生の国語科で行う俳句の学習に合わせ、地域の俳句愛好家の方を講師とした「俳句教室」を昨年度より実施している。講師は中仙公民館に仲介していただき、今年度は、中仙地域生涯学習奨励員の方をはじめとする3名にお願いした。</p> <p>【俳句教室の概要】</p> <p>1 日時 平成30年12月12日(水) 3, 4校時</p> <p>2 対象 中仙中学校3年生(59名)</p> <p>3 内容</p> <p>(事前)・生徒の句稿をそれぞれ何句か講師に渡し、添削していただく。 ・生徒は添削された句稿を基に、当日までに短冊に書く句を考えておく。</p> <p>(当日)・講師から、事前提出された句稿の添削の要点について説明していただく。 ・生徒は、自分の俳句を短冊に清書・落款して掲示する。</p> <p>生徒は、自分の家族や友人、身の回りの風景など、それぞれの関心にしたがって作句したものを講師の方に添削していただくことで、よりよい作品になることを実感していた。当日の清書の段階でも、講師の方から指導をいただきながら推敲を重ねている生徒も見られた。</p> <p>落款については、小学校時に「表装教室」で制作した「消しゴム落款」を使うことにしていたが、持っていない生徒には講師の方が支援しながら仕上げることもできた。</p>		
○成果と課題	<p>○国語科の学習と連動させながら、実際に自分が作った俳句を評価・添削していただくことによって、より実感があり深まりのある学習になった。その場の指導だけでなく、事前にそれぞれの句稿を見ていただけたことにより、きめ細かな指導をいただくことができた。</p> <p>●講師の方は、たいへん丁寧に一人一人の句稿について解説して下さったが、時間配分の面では解説に多くの時間を割いたため、短冊への清書・落款・掲示の時間が不足してしまった。事前の打合せにおいて、時間配分についても十分な確認が必要であった。</p>		



学校名	大 仙 市 立 豊 成 中 学 校		
活動名	地域の教育力を活用した森林環境学習の推進	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ふるさと教育及び森林環境学習のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊かな心と郷土愛の育成 ・自ら学ぶ力の育成 ・感動する心の育成 <p>2 森林環境学習活動（平成28年度～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十六沢城址緑地公園を守る会（平成25年度発足）の協力のもとでの普及啓発活動 ・秋田県森林環境学習活動支援事業の補助 <p>これまで本校で行っていたふるさと教育に関わる取組を見直し、平成28年度から教育課程への森林環境学習の新たな位置付けを行い、活動を展開しています。</p> <p>3 活動内容紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十六沢城址緑地公園の整備活動 <p>右の写真は、地域の方々に教えていただきながら、生徒が間伐作業を行っている様子です。体験を通しながら、間伐のやり方や「何故、間伐を行うのか」を学びます。この活動を通して、森林を守ることは人間と山がよい関係を保つために必要であることを、生徒たちは実感することができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製材所の見学や工芸作品制作への挑戦 <p>伐採された木材が、どのように製材され活用されているのかを、地域の製材所を訪問し見学しています。また、「木育」の一環として、間伐材でコースターを作ったり、木彫栓抜きや木彫アルバムの制作に取り組んだりしています。</p>		
○成果と●課題	<p>○ふるさとを多面的に捉え、ふるさとのよさや美しさを再発見し、自然環境に対する意識が高まってきています。また、体験活動の充実により、主体的に考え協力して行動できる生徒がより多くなってきています。</p> <p>○森林学習を通じて、地域の方々とのふれあいの機会が増え、生徒のコミュニケーション能力が向上してきています。</p> <p>●グローバルな視点での情報発信や、地域の八乙女山を守る会など各種団体と連携の拡大を図っていきたいと考えています。また、発展的なものづくり（木育）における生徒の技能向上も図っていききたいと思えます。</p>		





間伐作業の様子

学校名	大 仙 市 立 協 和 中 学 校		
活動名	地域貢献ジャー活動	活動内容	②
活動の概要	<p>本校では、「ふるさとを愛し 貢献できる人材の育成」を目指して学習や諸活動に取り組んでいる。今年度は、新たに「地域に貢献するための心と体を育てる」ことを重点事項として、地域貢献ジャー活動に取り組んだ。学校と地域との双方向のつながりをつくることは大切なことである。地域貢献ジャー活動では、中学生として地域の様々なことに積極的に関わり、自分たちができることを率先して行った。この活動を始めるに当たり、5色のベストを準備し、地域の方々からも活動の様子を見てもらうことで、生徒が自己有用感を味わえるようにした。今年度行った主な活動は、次の通りである。</p> <p>①協和小学校器楽部への楽器講習（7月11日） ②修学旅行でのホテル周辺クリーンアップ（9月6日） ③羽後境駅駅舎の窓ふき・清掃（12月8日）</p> <p>③の羽後境駅駅舎の窓ふき・清掃活動では、生徒13名と地域の方18名が1時間ほど作業を行った。「思ったよりも汚れていたが、きれいになってよかった」や「この後も貢献ジャーの活動に参加したい」などの感想をもち、地域との関わりや地域のためになる活動を行うことに手応えを感じた生徒が多かった。</p>		
○成果と●課題	<p>○貢献ジャー活動を通して、これまでよりも地域をより身近なものと感じた生徒が多くいた。また、活動したことが地域との関わりを実感することにつながり、生徒が地域に関わろうとする意欲が高まった。</p> <p>●今年度、活動を新設したこともあり、いつ、どこで、どのような活動ができるのかを把握することに時間がかかってしまった。地域との情報交換などを通して、貢献ジャー活動の回数や参加生徒を増やし、多くの生徒が、いろいろな地域で活動に取り組み、地域とのつながりを実感できる活動にしていくようにしたい。</p>		



学校名	大 仙 市 立 南 外 中 学 校		
活動名	南外地域祭	活動内容	②
活動の概要	<p>10月28日（日）に南外地域祭が，南外公民館や南外コミュニティセンターなどを会場に開催された。この地域祭には，地域内の様々な団体が参加し，日頃の活動の様子などを地域の方々に紹介するために，様々なブースを設置したり，ステージ発表を行ったりする地域の一大イベントとなっている。この地域祭に，昨年までは2年生だけの参加であったが，今年から全校生徒が参加し運営等に協力した。</p>   <p>生徒は，南三陸町特産物販売コーナーやそば販売コーナー，健康相談コーナー等の様々なブースの手伝いのほかに，会場管理係として会場内を整理整頓するなどして運営に協力した。ステージ部門でも吹奏楽部が演奏を披露したり，2・3年生が南中ソーランを披露したりして，地域祭を盛り上げることができた。地域の方々とのふれあいを通して地域のよさを獲得しながら，地域の活性化に貢献できていることが実感できた1日となった。</p>		
○成果と ●課題	<p>○自主的・主体的に運営に関わることで，生徒の自己有用感が高まり，地域への愛着を一層深める機会となっている。</p> <p>○生徒の参加により，地域祭全体の参加者数も増えるなど，祭りの盛り上がりにも貢献することができた。</p> <p>●生徒と各団体との，打合せの時間確保等が課題である。</p>		

学校名	大 仙 市 立 仙 北 中 学 校		
活動名	国指定 名勝 旧池田氏庭園 案内人ボランティア	活動内容	②
活動の概要	<p>1 ねらい 平成16年に国の名勝に指定された旧池田氏庭園の公開に当たり，中学生によるボランティア活動を通して，地域の発展に寄与してきた先人の功績を顕彰し，郷土の文化遺産に対する知識と関心を高め，ふるさとを大切にし，伝承していこうとする態度を育成する。</p> <p>2 実施について 平成30年10月24日（水）。2年生全員が旧池田氏庭園に出かけ，実際に現地を見ながら，その歴史的価値について学んだ。帰校後，実際に案内ボランティアを行うことを目標に調べたことや教わったことをまとめ，準備を進めた。 平成30年11月3日（土）。休日を利用して庭園を訪れたお客様に対して，案内ボランティアを行った。お客様の質問に答えながら，園内を案内した。昔の野良着を着て，来園者にお米を配る手伝いも行った。</p>  		
○成果と ●課題	<p>○2年時に郷土の文化遺産についての知識を深め，これまでとは違う視点から地域の遺産の価値を学ぶことにより，ふるさとに誇りをもつことができた。</p> <p>●事後活動を充実させ，2年生全体で「喜んでいただいた」「やりがいがある」という実感を共有したり，他へ発信したりする場の設定のために，学習計画や時数の確保を綿密に行う必要がある。</p>		

学校名	大 仙 市 立 太 田 中 学 校		
活動名	地域と共につくる「花のまちおおた」に関わる活動	活動内容	①・②
活動の概要	<p>1 太田の各地区で造る集落花壇づくりへの参加 太田公民館から各集落花壇代表者の名簿が届く。各集落と本校の地区生徒会とをリンクさせ、地区長の生徒が各集落花壇代表と連絡を取り、植え付けの日時を確認し、自地区の生徒に連絡する。各地区とも植え付け日時は、6月中旬から7月上旬の土日の1日に設定される。当日は、地区の方々（主に高齢者）と花の植え付けを行う。夏休み中は、生徒たちが当番を決めて、水やりを行う。</p> <p>2 花壇フェアを公民館と共催する活動 8月下旬から9月上旬にかけて、本校前庭を会場に「太田花壇フェア」が開催される。本校生徒が手塩にかけて育てた前庭一体の学校花壇と、地域の花づくり愛好者たちが持ち寄ったプランター等に育てた花を、広い前庭いっぱいに表示する。県内外からの観覧者も多い。一般の方にも前庭を開放したり、全体を眺望したい来客には校舎内も開放している。必要に応じて、生徒が観覧者の誘導案内を行っている。また、休日は吹奏楽部員が屋外演奏を行い、花と曲とのコラボにより一層盛り上がりを見せる。</p> <p>3 大槌学園に「花（お米）を届ける」活動 8月下旬、生徒が手塩にかけて育てたプランター230余りのベゴニアを、花壇フェアとほぼ時を同じくして、今年も大槌学園に届けた。今年で8年目を迎えるが、プランターの運搬に関しては、今年も太田秋田ライオンズクラブの皆さんから御協力いただいた。トラック5台への積み込みと運転は、地域の方々の御協力があればこそこの活動である。また、花だけではなく秋には新米も届けるが、太田地域の全戸に呼びかけ、今年も650kgのお米が学校に届いた。この活動も地域の方々の御協力があってこそ成り立っている。</p>		
○成果と ●課題	<p>○「花のまちおおた」に関わる活動は、本校が開校して間もない頃からの活動で、地域も学校も活動の趣旨をよく理解し、特に、地域の方々がこの活動を通して、生徒に太田への愛着をもたせたり、地域の方々と関わったりする機会の大切さを教えてくれている。</p> <p>●生徒の減少に伴い、一人一人への活動の負担が大きくなっている。したがって、費用も係り増しになってきている。様々な団体や地域の企業から、多大なる援助をいただいて一連の活動が成り立っているが、市からの補助も削られていく昨今、活動費用（特に交通費）の捻出が最大の課題である。</p>		



(2) 仙北市

学校名	仙 北 市 立 角 館 中 学 校		
活動名	さくら案内人	活動内容	②
活動の概要	<p>本校の近くには桜の名勝である武家屋敷や桧木内川堤があり、毎年多くの観光客を迎え入れている。そこで春の桜の開花時期に合わせて町内へ3年生が出向き、角館の歴史や桜並木の素晴らしさを伝える活動をしている。観光客は日本人のみならず外国人も多く見られるため、英語を使い海外への情報発信を意識した案内も行っている。ふるさとを誇りに思う気持ちを醸成するとともに、さらに町を発展させるにはどんな工夫が必要か考え、ふるさとを支えていこうとする人材の育成をねらいとしている。</p> <p>1 活動日時 平成30年4月18日（木）、19日（金） 9時～15時のうち1人1時間程度</p> <p>2 活動内容 (1) 町内各地の桜の名所に赴き、観光客に対してこれまでの学習で身に付けたこと（角館の桜に関する歴史、規模、種類、維持管理等）を生かしたガイドを行う。 (2) 外国人観光客に対しては、英語でガイドすることに挑戦する。 (3) 各学級とも4～5人ずつの5班を構成し、そのうちの1班を英語ガイド班とする。 (4) 日本人観光客には名刺を渡し、感想等を学校へメールで送ってもらうようにする。 (5) 外国人観光客にはアンケートを行い、「何で角館の桜を知ったか」「どんなニーズがあるか」等、今後役に立てられるデータの収集をする。</p> <p>3 活動場所 それぞれの班は次の5か所に分かれてガイド活動を行う。 ・伝承館前 ・河原田家、岩橋家周辺 ・平福記念館前 ・山根～古城山方面 ・桜並木駐車場前通り</p>		
○成果と ●課題	<p>○観光客とのふれあいの中で、改めて角館の素晴らしさに気付かされる生徒が多い。もっと地域のために貢献したいという気持ちが生まれ、多くの生徒が他に何か自分たちでできることはないだろうかと考えている。</p> <p>●新年度が始まって間もない頃の活動なので、前年度から計画的に行っていないと、観光客が最も多く訪れる最適な時期を逃してしまう。</p>		



学校名	仙北市立生保内中学校		
活動名	地域の方々と共に「田沢湖白浜のクリーンアップ」	活動内容	②
活動の概要	<p>本校では、重点事項の一つに「地域の学校として、地域行事への参加、協力や地域の貢献活動に積極的に取り組む」ことを挙げている。</p> <p>田沢湖畔には、鳴砂で有名な白浜があったが、田沢湖畔の環境の変化や汚れ等で、現在は鳴らなくなってしまった。それを鳴砂に復活させるために、本校1年生が田沢湖白浜のクリーンアップを行っている。クリーンアップは、田沢湖地域の活性化を目指す地元有志「田沢湖ざっくばらんの会」の方々と生保内小学校、大曲支援学校せんぼく校の児童生徒と協力して行った。</p> <p>7月11日(水)。小雨だったがクリーンアップが始まった。時折雨脚が強くなり、参加したほとんどの人が濡れてしまったが、参加者は熱心にゴミ拾いをした。開始早々20分で配布された収集袋が満杯になるなど、生徒は、手際よく作業に取り組んでくれた。教室の中ではあまり見ることができないが、勤労をいとわないその姿が、とても頼もしく感じられた。</p> <p>生徒は、沢山の木くずやゴミが砂浜にあることに驚きながらも、拾い終わった後は「すっきりとした気持ちになりました」と話したり、「雨の中でのクリーンアップはとても大変でしたが、友だちと協力して白浜をきれいにすることができ、達成感を感じることができました」と、素直な感想を話したりしていた。</p> <p>今後も地域の方々と協力しながら、いろいろな場面でボランティア活動に積極的に取り組みたい。</p>		
○成果と●課題	<p>○活動の前に、白浜を清掃する意義について学習したことが、生徒一人一人の活動意欲につながっている。また、事後に振り返りを行ったことで、生徒がふるさとについて深く学ぶ機会となった。</p> <p>●鳴砂の復活には、継続した清掃活動が必要なため、すぐに成果が出るわけではない。生徒一人一人にどれだけ実感をもたせることができるかが、課題である。</p>		



学校名	仙北市立神代中学校		
活動名	実感！ふるさとの自然・感謝！ふるさとの人々 ～合同院内岳登山～	活動内容	①
活動の概要	<p>♪ 院内嶽よ 大空よ ♪ 神代中学校校歌 2 番の歌い出しである。豊かな自然と関わりの深い土地柄で、校歌の 1 番には「玉川」が詠まれている。ところで、校歌に登場する院内嶽(岳)には、辰子生誕の地とされる神代村から、辰子が北の泉を求め峰を越えたとされる「たっこ姫伝説」の足跡がある。</p> <p>1 同窓会・地域運営体との合同院内岳登山計画の始まり 平成30年2月、神代中同窓会懇親会の席上で、会員の方から「生徒を地域行事に参加させてほしい」との要望が出された。</p> <p>本校で以前行っていた「院内岳登山」も話題となったが、クマやハチにより中止したままになっていることを説明したところ、対策を施していただけることになった。さらに、安全対策を万全にするため一緒に登るという提案が自然に出され、参加者の賛同を得ることとなった。</p> <p>2 合同登山の実際 在校生や職員は、院内岳を登った経験が皆無だった。そのため、実施までに数々のトラブルや配慮事項も発覚したが、計画を変更しながらようやく実施にこぎ着けた。当日は小雨模様だったが、全員元気に踏破した。道中で見た田沢湖の美しさ、峠で3年生が歌った校歌。そして、同窓会員の方々が鳴らすクマ除けの爆竹による安心感。ハチの出現で昼休みが無くなり疲労感が増したが、その分、達成感でいっぱいであった。「中学生の時、登った思い出が蘇った。中学生の時の体験は貴重だと思う。」と同窓会員の一人が語った。</p>		
○成果と●課題	<p>○地域の方々と合同で登山したことにより、「ふるさとへの愛着」が高まるとともに、将来にわたってふるさとに貢献しようとする意欲が醸成された。</p> <p>○同窓会や地域運営体の方々から学校の要望に沿う形で御協力いただき、クマやハチ対策、登山道の整備等、多方面にわたって生徒の安全が確保された。</p> <p>●参加していただいた地域の方々の平均年齢は70歳を超えている。保護者の年代からも協力をもらうなど、持続可能な地域資源活用のための体制づくりが必要である。</p> <p>●この学習活動は「総合的な学習の時間」として計画したが、社会科や理科、保健体育科等の「ねらい」の視点をもって見直すなど、教科横断的にカリキュラム・マネジメントを行いたい。</p>		



【地域の方々と一緒に】



学校名	仙 北 市 立 西 明 寺 中 学 校		
活動名	地域に根ざした学校を目指して	活動内容	②
活動の概要	<p>本校は地域の学校として、地域で行われる行事に積極的に参加している。こうした活動を通して、「地域の方々と継続的に交流し、地域貢献活動に進んで取り組む心を育てる」「他を敬う気持ちや、自分を支えてくれる人たちへの感謝の気持ちを養う」「地域の一員として、自分にできることを考え、実践する力を高める」ことをねらいとしている。</p> <p>1 フラワーロード105一斉植栽 毎年5月、仙北市の「花いっぱい運動推進事業」の一環として実施されており、西木地区の国道105号線沿い4.6kmにわたり、地域の方々と一緒にマリーゴールドの苗を植えている。通称「フラワーロード」と呼ばれ、10月下旬まで通行する人々の目を楽しませてくれる。</p> <p>2 心のふれあい訪問 1回目は、7月に高齢者のお宅を訪問し、家の仕事を手伝うなどのボランティア活動に取り組んでいる。2回目は、2月に除雪ボランティアとして、高齢者のお宅の除雪を行っている。活動後は、学校の様子を伝えたり、高齢者の方々から以前の西明寺の様子を聞いたり、交流を行っている。</p> <p>3 空きビン・アルミ缶回収 8月の第3日曜日、地域の各家庭を訪問し、空きビン・アルミ缶の回収を行なっている。回収による収益は、学校祭での高齢者招待や、高齢者施設への車いすの寄贈に活用している。</p>		  
○成果と ●課題	<p>○地域行事への参加を通し、生徒は自己有用感が向上し、地域のために何ができるのかを考えることができるようになってきている。また、「心のふれあい訪問」で交流したお年寄りの方々が学校祭にも来てくださるようになった。そこで、多くの感謝の言葉をいただき、生徒の達成感や満足感につながっている。</p> <p>●高齢者の生活環境や体調等の変化により、心のふれあい訪問で交流できる高齢者が限られてきており、新たな交流先を確保するのが難しくなってきている。</p>		

学校名	仙 北 市 立 桧 木 内 中 学 校		
活動名	地域に「元気・感動・温もり」を届ける生徒会活動	活動内容	②
活動の概要	<p>1 「元気・感動・温もり」を地域へ 本校の学校教育目標は、『元気・感動・温もり』のある桧木内中生を育む～自律 躍進～』である。生徒会活動もこの目標達成に向けて、美しいふるさとを守るための活動や、日頃からお世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを表す活動を続けている。</p> <p>2 「元気・感動・温もり」を届ける今年度の新たな取組 (1)「多世代交流体験学習」～旧上檜木内中学校「山鳩館」を利用して～〔8月9日(木)・10日(金)〕 仙北市多世代交流施設「山鳩館」は、幼児保育事業、多世代交流事業などの業務を行う施設として地域の方々に利用されている。今年度は、地域のお年寄りと一緒に作業する中で交流を図り、地域を愛する心を育てたいというねらいの下、3年生が夏休み中の2日間取り組んだ。 体験活動では、ちまきやおこわなどの郷土料理作りや、籠編み作りを行った。手際よく作業をするお年寄りに作り方を教わりながら、昔の生活や20年前に統合された上檜木内中学校のことを聞くなどして、心に残る活動となった。一緒に活動してくれた地域の方々にも「孫のような子どもたちと、また一緒にやりたい」と喜んでいただけた活動となった。</p> <p>(2) 内陸線駅構内白線引きボランティア〔9月19日(水)〕 地域住民有志で構成される「内陸線を守る会」の方々と一緒に松葉駅と上桧木内駅の白線引きを行った。昨年までは、駅構内の掃除にとどまっていたが、更に活動を広げることができた。「きれいな駅に観光客がたくさん来てくれて、地域の活性化につながれば嬉しい」と感想発表があった。真っ白に引き直された白線を見ると、桧木内中の地域への貢献の足跡がまた増えた思いがした。</p>		 
○成果と ●課題	<p>○今年度は、地域の方々と一緒に活動する事業を増やすことができた。来年度以降も、地域と一緒に「地域に貢献できる活動」の実践を考えていきたい。</p> <p>●「地域の人と共に汗を流す」活動にし、地域とのつながりを強めていきたい。</p>		

(3) 美郷町

学校名	美郷町立美郷中学校		
活動名	美郷ちゃん夜市・清水祭りへの参加	活動内容	②
活動の概要	<p>地元の地域行事であるお祭り行事「美郷ちゃん夜市」と「清水祭り」にいろいろな形で参加し、地域の方との交流を通し、ふるさとへの愛着を深めるとともに、地域を支えていく自覚を高めている。</p> <p>1 「美郷ちゃん夜市」への参加</p> <p>(1) 生徒会執行部 お祭りのステージ発表に、生徒会執行部が企画したクイズコーナーの時間を入れてもらい、美郷町にまつわるクイズを出題したほか、学校祭についてのPRも行った。</p> <p>(2) 吹奏楽部 夕方のパレードに吹奏楽部がマーチングで参加し、パレードを盛り上げるとともに、部活動の一端を町民に披露した。</p> <p>(3) ボランティア ボランティアを自ら希望した生徒が当日のいろいろな仕事を担当し、お祭りの成功に一役買った。</p> <p>2 「清水祭り」への参加（主に3年） 毎年3年生有志が、中学生だけの御神輿を担ぎ、水をかけられながら町内を練り歩き、お祭りに参加している。御神輿には男子生徒だけでなく、女子生徒も多数参加している。</p>		
○成果と●課題	<p>○「美郷ちゃん夜市」には、昨年までも吹奏楽部とボランティアが、決まった役割を担当する形で参加していたが、今年度、中学校として、自ら企画と運営を考えた主体的な関わり方でお祭りに参加したことは、次年度につながる活動だったといえる。</p> <p>●まだ、全校生徒が地域と関わる活動とはなっておらず、より多くの生徒が地域と関わっていくことができるようにしたい。</p>		



(4) 横手市

学校名	横手市立横手南中学校		
活動名	横手南中学校区 小中合同ボランティア	活動内容	②
活動の概要	<p>1 活動のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通して、健全な勤労・奉仕の精神と公德心を育み、地域の一員としての自覚を養う。 ・中学生の主体性やリーダーシップを養い、小学生は中学生の姿を見て今後の生き方を考え、中学校生活に向けた心の準備をする。 <p>2 活動の概要</p> <p>(1) 主催 横手南中学校区小・中連携教育研究会生徒指導部会</p> <p>(2) 期日 平成30年7月20日（金）14:00～15:00</p> <p>(3) 参加者 横手南中全校生徒及び横手南小・旭小・栄小・山内小の横手南中学校区4小学校の5・6年生</p> <p>(4) 区割り 横手南小学校区13町内13グループ、旭小学校区4町内11グループ、栄小学校区2町内4グループ、山内小学校区3グループ</p> <p>3 活動の内容</p> <p>(1) 中学生の地区代表は地区の代表者（町内会長等）と連絡を取り、活動内容の調整をする。</p> <p>(2) 地区生徒会ごとに活動内容を決め、ポスターを作成し、各小学校へ掲示・連絡する。</p> <p>(3) 小・中学校で参加者名簿を作成し、安全確認をする。</p> <p>(4) 小中合同ボランティアを実施し、各校でボランティア活動の振り返りをする。</p>		
○成果と●課題	<p>○本活動は小中合同で行う3大行事の一つである。今年度、横手南中学校は山内中学校と統合したため実施のための調整が難しかったが、例年通り実施できたことが成果の一つと考えている。また、新入生に、「入学のために役立った行事は何か」と聞いてみると、一番にこの行事を挙げ、この活動を中学生と共にできたことで中学校生活についての意欲が高まり、不安を解消することができたという意見が多かった。中学生にとっても後輩のためがんばろうとする気持ちが見られ、自己有用感を高める活動になったと感じている。</p> <p>●地域の方にも参加していただいているが、連絡が徹底できなかったことが課題である。また、学校行事を考慮して活動日程を決めているが、クリーンアップをするにしても町内の清掃後でゴミがほとんど無かったり、猛暑のために十分な活動時間が確保できなかったり、時期的な課題があった。市役所や町内会との連携をとり、活動時期や活動内容を考慮して、活動する生徒にとってもやりがいを感じられる活動となるように計画して、今後も活動を続けていきたい。</p>		



学校名	横手市立横手北中学校		
活動名	修学旅行での横手の魅力PR活動	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、平成27年度から多くの関係機関の協力を受けて、3年生の修学旅行において東京都内の複数の商店街で「横手の魅力PR活動」を実施している。これは、総合的な学習の時間に「横手」という自分のふるさとに興味・関心をもち、課題を追究して互いの考えを学び合ったり、地域の人たちの思いや自分たちの思い・願いを伝えたりする活動を通して、社会の一員として主体的に関わっていこうとする態度や、地域への思いを深めようとする生徒の育成を目指し、3年間の系統的・計画的な活動により、その具現化を図る「まとめ」に位置付けられるものである。</p> <p>1 ねらい (1) 初対面の方々との交流を通して、コミュニケーションの難しさや喜びを感じる。 (2) 横手のPR活動を通して、ふるさと横手のよさを再発見し、誇りを感じる。</p> <p>2 人数 3年生全員(100名)</p> <p>3 期日 平成30年5月8日(火)午後1時30分～3時30分(修学旅行1日目)</p> <p>4 場所 ・板橋区大山商店街 ・墨田区きらきら橋商店街 ・豊島区巢鴨地藏通り商店街</p> <p>5 連携 ・横手市商工観光部横手の魅力営業課 ・横手市観光協会 ・JA秋田ふるさと ・農家の皆さん</p> <p>6 活動 ふくだちやアスパラ、わらびなどの旬な野菜と山菜、りんごやぶどうのジュース、いぶりがっこなどの横手の特産品の販売をしたり、観光情報を盛り込んだ自作のチラシを、説明を加えながら配布したりした。</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の方々に関わることで、横手の特産物などへの理解を深めたり、地元で生活する方々の思いを知ったりしながら、横手の魅力について仲間と共に考える機会となった。</p> <p>●野菜は天候に左右されるので、事前学習以外の作物も販売することになった。そのため、的確な説明ができないこともあった。地元の作物に普段から目を向けさせることが必要である。</p> <p>●事前に販売や配布の練習はしたが、東京で初対面の人と話すことはハードルが高かった。</p>		

学校名	横手市立横手北中学校		
活動名	かまくらボランティア活動	活動内容	②
活動の概要	<p>平成25年4月の開校以来、旧鳳中学校が参加していた伝統行事「かまくら」を、本校が全校生徒を対象としたボランティア活動として引き継いでいる。当日は、全校生徒が時間帯をずらしてスクールバスで蛇の崎橋に向かい、その川原に2,000個程度のミニかまくらを製作した。各学年ごとに場所を決め、プラスチックのバケツに雪を詰めて固め、それを適度な間隔で設置し、ろうそくを入れる穴を掘る作業までが全工程であり、2～3人がグループになって協力しながら作業を進めた。その後、100名程度の有志がかまくら館に移動し、かまくら接待として観光客のおもてなしをした。</p> <p>1 ねらい (1) 横手市の伝統行事を継承する。 (2) 横手のPR活動を通して、ふるさと横手のよさを再発見し、誇りを感じる。</p> <p>2 人数 ミニかまくら製作…全校生徒(324名)、かまくら接待…有志生徒(100名)</p> <p>3 期日 平成30年2月15・16日</p> <p>4 場所 ・蛇の崎橋川原 ・横手市役所本庁舎前道路公園会場</p> <p>5 連携 ・横手市商工観光部観光おもてなし課 ・横手市観光協会 ・かまくら委員会</p> <p>6 活動 ・ミニかまくら製作 ・かまくら接待のおもてなし(どんぶくを着て甘酒や餅を提供したり、かまくらの説明をしたり、お話をしたりする。)</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の一員として横手市の伝統行事を継承し、横手市内外の観光客の方々とふれあい、お話をすることで、ふるさと横手のよさを再発見することができた。</p> <p>●かまくら接待において、積極的に初対面の人と話すことができる生徒と、そうでない生徒がおり、趣旨の徹底が必要である。また、横手市のことやかまくらについて聞かれることもあり、事前に最低限の学習も必要である。</p>		

学校名	横手市立増田中学校		
活動名	「あきたスマートカレッジ『あきたふるさと講座』」講師ボランティア活動（3年）、除雪ボランティア活動（1，2年）	活動内容	②
活動の概要	<p>1 「あきたスマートカレッジ『あきたふるさと講座』」講師ボランティア活動 秋田県生涯学習センターより、「平成30年度あきたスマートカレッジ『あきたふるさと講座』」の講師の依頼を受け、3年生の代表生徒10名が、昨年度まで総合的な学習の時間で取り組んできた「増田『蔵史めぐり』中学生ボランティア活動」の経験を生かし、参加者の方々に対し増田の蔵の歴史や特徴について説明を行った。</p> <p>(1) 日 時 平成30年9月22日(土) 13:00～15:00 (2) 活動内容 2～4人のグループに分かれ、担当している蔵の前で参加者に蔵の歴史や特徴について説明した。 (3) 事後活動 振り返りシートに感想等を記入した。また、参加者のアンケート結果について共有する時間を設けた。</p> <p>2 除雪ボランティア活動 (1) 事前学習 増田町の高齢化の現状やボランティアの必要性等について、オリエンテーションを行った。 (2) 日 時 平成31年1月19日(土)、26日(土) 2月9日(土)、16日(土) (3) 活動内容 部活動単位で活動し、一人一回ずつ一人暮らしの高齢者宅の除雪ボランティア活動を行った。 (4) 事後活動 ボランティア活動を通して感じたことや考えたことなどを、振り返りシートに記入した。</p>		
○成果と課題	<p>○「あきたスマートカレッジ『あきたふるさと講座』」に参加した生徒は、「改めて増田の町のよさを知った」などの感想を残しており、ふるさとのよさを再確認するよい機会となった。</p> <p>●来年度は、再び『蔵史めぐり』ボランティアを行うなど、全校生徒が蔵の歴史や文化について学習し、その成果を発揮する機会をつくっていきたい。</p> <p>○「除雪ボランティア」では、事前学習でオリエンテーションを行ったことで、ボランティア活動に参加する意欲を高めることができた。</p> <p>●冬の除雪ボランティアに限らず、地域と関わり合いながら、ふるさとのために自分たちにできることを考え、地域貢献できる機会を増やしていきたい。</p>		



学校名	横手市立平鹿中学校		
活動名	地域に根ざしたボランティア活動 ～地域に中学生の姿を～	活動内容	②
活動の概要	<p>本校には、地域の保育園や福祉施設、観光協会等からボランティアの要請が多数ある。そのことを本校の教育資源と受け止め、生徒に地域で活躍する有用感を味わわせるとともに、生徒の頑張る姿を見てもらえることで地域の学校理解が深まることを期待して、積極的なボランティア活動を推進している。今年度ものべ200名以上の生徒が参加した。</p> <p>1 あやめまつり 浅舞公園を主会場に毎年行われる、初夏の平鹿地区一大イベントである。地元の商工会や地域局等の主催・共催で行われているが、本校生徒には、あやめ花株の販売やゲームイベントの手伝い、公園内の環境整備や美化といった、多種多様なボランティアの要請がある。生徒にとって、観光客や地域住民との有意義な関わり合いが期待できる願ってもない機会である。参加した生徒は、地域の役に立つという実感を伴いながら、意欲的に活動することができた。</p> <p>2 槻の木光のファンタジー点灯式 平鹿地区のシンボル「槻の木」が巨大クリスマスツリーに装いを変える「槻の木光のファンタジー」の点灯式に参加した生徒は、サンタクロースの衣装に身を包んで、子どもたちにお菓子を配るなどの楽しい活動を行った。地域の方々との交流も十分で、美術部が描いた壁画も会場に飾られ、会場の雰囲気は大いに盛り上げた。</p>		
○成果と課題	<p>○ボランティア活動の主体となり、多くの生徒に参加を呼びかけた本校JRC委員会が、これまでの実績と積み重ねが認められ、秋田県及び公益社団法人青少年育成秋田県民会議から、「秋田県社会貢献青少年表彰」を受けた。このニュースは、本校生徒にとっても家庭や地域にとっても大きな自信となり、本校ボランティア活動の存在意義を揺るぎないものとした。</p> <p>○地域住民には、生徒の活躍する姿を通して学校に親しみを感じていただくことができた。活動に参加した生徒にとっての自己有用感も十分に保障された。</p> <p>●外部からの要請によるボランティアがほとんどなので、総合的な学習の時間等に関連させた本校独自のボランティア活動も計画し、地域へのより積極的な情報発信をしていきたい。</p>		



学校名	横手市立横手明峰中学校		
活動名	「職場体験学習」(2年 総合的な学習の時間)	活動内容	①
活動の概要	<p>1 活動のねらい 本校では、2年生が、夏休み後半の3日間、職場体験学習を行っている。今年度は、8月22日～24日を実施日とし、そのための計画や準備を「総合的な学習の時間」や「学級活動」を用いて行った。 職場体験で生徒が直接働く人と接することにより、学ぶこと・働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感すること、職場体験を通して、生徒が主体的に進路を取捨選択する態度や意志を培い、望ましい勤労観や職業観を養うことをねらいとし、地域に根ざしたキャリア教育の一端を担っている。</p> <p>2 生徒の活動 (1) 5月～6月に体験可能な職場と連絡を取り、また、生徒には職場体験の趣旨・目的や状況、希望などについて説明を行う。生徒の体験先が決定後、生徒が直接体験先と電話で連絡・確認を取る。その後訪問先へ依頼状・計画書・履歴書などを送付する。 (2) 夏休み中の8月22日～26日に、それぞれの決めた職場で体験活動を行う。今年度は、横手市内47事業所への職場体験となった。比較的近い職場へは自転車で、それ以外の職場へはスクールバスでの送迎を行った。(飲食宿泊・建設・情報通信・サービス・公的施設・卸売小売・医療・児童老人福祉など計47事業所を訪問) (3) 体験して学んだことや感想を個人レポートの形でまとめ、10月の学校祭で展示する。また、各訪問先へ評価レポートを依頼し、生徒の活動の様子や企業側からの要望などをとりまとめ、職場体験活動の振り返りを行う。</p>		
○成果と課題	<p>○お手伝いやボランティアとは違った「職場で働くこと」の体験を通して仕事への関心を高め、働くことの厳しさや喜び、やりがいなどを学ぶことができた。 ○地元で働く人たちとの作業やふれあいを通して、故郷のよさや温かさなどを感じることができた。 ○体験したことをベースに、自分の進路について主体的に深く考えるきっかけとなり、内容のある個人レポートを作成することができた。 ●総合的な学習の時間は、6月から全校での芸能・調査活動が始まり、職場体験学習の計画や準備の時間があまり取れず、早めの準備や時間確保が必要である。 ●訪問先への移動としてスクールバスを利用しているが、生徒の待ち時間が長く(約30分)大変そうだと職場からの連絡があった。</p>		





大森病院での職場体験




学校名	横手市立十文字中学校		
活動名	P T C A小・中合同ボランティア	活動内容	②
活動の概要	<p>1 活動のねらい 十文字中学校区の小・中学生が、民生児童委員や地域住民、保護者の協力を得ながら、ボランティア活動や地域貢献活動等の地域に根ざした活動を行うことにより、地域との深い関わりを感じながら、互いの自尊感情を高める。</p> <p>2 実施に向けての事前活動 小学校ごとに、どのような活動を行うのか、児童会を中心に話し合い、決定する。学校と地区の民生児童委員の方々と、活動の進め方について打ち合わせを行う。小学校職員と中学校職員が連絡を取り合い、当日の活動について確認する。</p> <p>3 活動の実際 各小学校区に分かれて、各校の児童会が考えたボランティア活動を行った。活動の内容は、十文字第一小学校区はゴミ拾い清掃活動、十文字第二小学校区は資源回収活動、植田小学校区はカーブミラーの清掃活動、睦合小学校区は小学校校舎内の清掃活動を行った。 活動に当たっては、P T A生活指導部の方々や地区の民生児童委員の方々からの協力を得ながら進めた。また、中学生は小学生をリードしながら、積極的に活動する姿が見られた。</p>		
○成果と課題	<p>○ボランティア活動は、各地区や各小学校の実態にあった活動が計画され、充実感を感じる活動がなされた。各小学校の児童会が活動内容を企画したことで、地域にあった活動になった。 ○ボランティア活動を通して、同じ地域に住む小学生・中学生・地域の方々との絆を深めることができ、地域の一員としての自覚を深めることができた。 ●今後、継続して取り組んでいく際に、テーマや活動内容を工夫しながら、ねらいを明確にして活動を進めていく必要がある。 ●日常的な活動の中にも、小・中連携を意識した取組を入れながら、十文字地区の児童生徒が一体感をもって、学校生活を送ることができるようにしていきたい。</p>		



(5) 県立学校

学校名	秋 田 県 立 横 手 清 陵 学 院 中 学 校		
活動名	農業体験学習（総合的な学習の時間「創造学～ものづくり・まちづくり・ゆめづくり～」の一環として）	活動内容	①
活動の概要	<p>1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業体験を通して、働くことの喜びと厳しさを感じ、望ましい勤労観・職業観をもつことができる。 ・秋田県の重要産業である農業について学び、理解しようとすることができる。 <p>2 期 日 平成30年9月19日（水）</p> <p>3 体験先及び体験内容</p> <p>(1) 体験先 横手，増田，平鹿，十文字，雄物川，大森，大雄地区の16農家</p> <p>(2) 体験内容 稲刈り，りんごの葉摘み・収穫，作物の管理等</p> <p>4 体験後の生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごちそうになったトマトやカリフラワーが，とてもおいしかった。農業体験は疲れたし大変ではあったが，農家の方の努力や手間がかかった分だけおいしい野菜ができることを実感した。 ・今回の農業体験では働くことの大切さや大変さを学んだ。人の役に立つように働くことは当たり前で，「ありがとう」や「よかったよ」など，感謝の言葉が返ってくるように働くことだと思った。今回の経験を学校生活や私生活に生かしたい。 ・農作業は思った以上に大変だった。同じ作業を毎日繰り返すことで，よいものができることが分かった。 		 
○成果と●課題	<p>○ J A 秋田ふるさと営農企画課の協力により，毎年農家の方に生徒の実態や体験の目的等について事前に理解いただいた上で，体験学習を行うことができている。農作物の生産のことだけでなく，食育に関するお話や農業の未来についてのお話もしていただき，総合的な学習の時間のテーマに沿った活動にすることができた。</p> <p>● 本校の農業体験学習は，J A の広報誌や新聞等で紹介されたが，体験を通して学んだことを校内では共有しているものの，広く地域等に発信することはできていない。農業の喜びや横手市産の農作物の魅力を多くの方々に知っていただけるような取組についても検討したい。</p>		

(6) 湯沢市

学校名	湯 沢 市 立 湯 沢 北 中 学 校		
活動名	北中より想いを込めて ～犬っこまつりへの参加を通して～	活動内容	②
活動の概要	<p>本校では，毎年2月に開催される湯沢市の伝統行事「犬っこまつり」に参加している。</p> <p>ふるさとの伝統を受け継ぎ，地域を更に活気あるものにしようという願いの下，秋田犬とお堂（神社）を模した雪像づくりに全校生徒を上げて取り組んできた。また，お堂づくりに加え，美術部や家庭部の生徒を中心に，心を込めて絵馬を制作している。その絵馬には「幸せでありますように」などの温かいメッセージや願いが書かれてある。お祭り当日は，会場でその絵馬を配りながら募金活動も行ってきた。東日本大震災が発生した年以來，継続して行っており，今年の2月9日で7回目になる。</p> <p>全校生徒を代表して生徒会総務部員が，来場客のみなさんと交流している。その場でお互いに交わされる言葉や笑顔には，心が温まる思いを感じた。活動後は，生徒の地域への感謝の思いを形に表すために，社会福祉協議会と連携をとり，集まった募金をもとに車椅子を購入し，同協議会に寄贈する活動を行っている。</p> <p>「北中より想いを込めて」というテーマの下，ふるさとへの生徒の温かい思いが，今後もお堂づくりや絵馬配り，募金活動という形で受け継がれ，湯沢市が更に思いやりにあふれる町として愛されていくことを願っている。</p>		  
○成果と●課題	<p>○ 地域の伝統行事について学習し，実際に参加することで，ふるさとに生きる一員として郷土への愛情を醸成し，郷土愛を深めることができた。</p> <p>○ 生徒が主体となって目標やねらいを明確にして，充実感をもって活動を終えることができた。</p> <p>○ 小中一体型校舎の利点を生かし，湯沢東小学校と連携しながら活動できた。</p> <p>● お堂づくりや絵馬づくりなどの時間の確保や生徒の割り振りなど，授業時数の確保や他の活動を考えると調整が難しく，さらに生徒や職員の多忙化につながっている。</p>		

学校名	湯 沢 市 立 山 田 中 学 校		
活動名	YAMACHUコーポレーション（起業教育）	活動内容	①
活動の概要	<p>1 ねらい 地域の食材を生かした商品の開発、販売等を通し、ふるさと山田のよさを発信し、ふるさとに誇りをもつことができるようにする。</p> <p>2 概要 全校生徒51人による会社「YAMACHUコーポレーション」を立ち上げ、学年縦割り「商品開発部」「営業部」「記録部」「広報部」に分かれ、それぞれ活動を行った。</p> <p>活動の始めに、本校OBの飲食店経営者に来校していただき、講演会を行った。講演では生徒の発想を生かした商品の大切さを助言していただいた。</p> <p>商品開発部は、地域の農産物や特産物等の特色を知ることから始め、生徒からアイデアを集め、試作品を作るなどの活動を行った。営業部は地域の農家に出向き、食材の調達交渉や、販路の開拓、試作品の売り込みや契約を担当した。記録部は社内報やブログを制作し、広報部は会社のロゴや商品の広告の制作等を担当した。</p> <p>実際にできた商品はビビンバ丼、パスタ、饅頭（いずれも山田産の野菜や味噌を使用）であるが、学校周辺の食堂でも、生徒考案のラーメンを期間限定で提供していただいた。商品は市内の飲食店やホテルで販売してもらったり、学校祭でも販売したりした。また、青年会議所主催の地域のイベント等に招待され、部活動単位で販売活動も行った。総売上は約9万円であった。</p>		
○成果と課題	<p>○生徒の発想やアイデアを生かした活動になったことにより、ふるさとへの興味や関心が高まり、意欲的に活動ができた。また、地域を見直す機会にもなり、ふるさとのよさに気づき、誇りをもって、ふるさとに貢献しようという意欲が高まった。</p> <p>○活動の中に地域の方々や社会人との交流やふれあいが多く、仕事に携わっている方々の思いや考えにもふれることになり、キャリア教育の視点からも有効であった。</p> <p>○各部の活動や学習が社会科（身近な地域、価格や利潤）や、技術・家庭科（試作品の調理、プレゼンテーション用スライドや広告の制作等）の学習とも重なり、教科横断的なカリキュラム・マネジメントを実践できた。</p> <p>●部によって活動内容に差があり、食材の調達ができず、休日等も活動しなければならないなど、生徒や職員の負担になった部分もあった。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 湯 沢 南 中 学 校		
活動名	地域貢献活動の推進、地域行事への参加	活動内容	②
活動の概要	<p>地域の一員としての意識を高め、主体的に地域と関わろうとする態度を育むため、生徒会主体の地域貢献活動を推進している。今年度取り組んだ活動を紹介する。</p> <p>1 湯沢犬っこまつり（2/10） 十数年前から、一般町内や一般企業の不参加によってお堂の数が極端に減少しており、中学生のお堂の存在が目立ってきている。おもてなしの心をもちながら参加している。</p> <p>2 雄物川クリーンアップ（7/16） 雄物川クリーンアップ協議会が主催する事業に、生徒会で全校生徒を対象に参加希望を募り143名の生徒が参加した。他校生徒や地域の方と共に活動することができた。</p> <p>3 高松地区敬老会慰問演奏（9/2） 吹奏楽部と合唱部が隔年で高松地区敬老会に出向き、毎年慰問演奏を行っている。参加者の中には、涙を流しながら聴いてくれる方も多くいた。</p> <p>4 湯沢大名行列（9/23） 運動部活動部員を中心に行列に参加している。少子化の影響で、本来の地域在住の方々の参加型では人手不足のため、お祭りの存続が危惧されており、生徒の参加が行列存続に一役買っている。</p> <p>5 「南中太鼓」湯沢ミュージックストリート（9/29）、湯沢市文化祭（10/20）、民俗芸能発表会（2/10）への出演 郷土芸能クラブが、湯沢南家佐竹太鼓の指導のもとで練習した「南中太鼓」を地域行事で演奏し、聴衆から好評を得ている。</p>		
○成果と課題	<p>○ふるさとのよさを見付け、そこにに関わり、地域のために役に立てたという「達成感」と「自己有用感」をもてたことが一番の成果である。生徒が「地域のために何ができるか」を話し合い、主体的に行動を起こしたことで、地域の一員であるという意識を強くもち、積極的に地域に貢献しようとする意欲を高めることができた。生徒は、長い歴史のある伝統行事を受け継いでいるという自己有用感を感じている。将来的にも、ふるさと教育によって醸成された気持ちが生きて働くものと思われる。</p> <p>●地域行事等がほとんど週休日に催されるため、引率教員の時間外勤務が多くなる。準備期間及び当日の部活動との関わりで、希望があっても参加できない生徒が多数いる。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 稲 川 中 学 校		
活動名	地域に支えられ応援されていることを実感する伝統行事	活動内容	①
活動の概要	<p>本校では、毎年1月になり高校受験シーズンが近付くと、地域から受験生を応援する様々な名産品が贈呈されています。3年生は、毎年、この贈呈式を一つの区切りとして義務教育9年間のまとめの時期へと入っていきます。これらの行事は、広く新聞（写真は、うどん・箸贈呈式翌日の秋田魁新報）やテレビのニュースとして報道されています。今年度は、次のような日程と内容で行われました。</p> <p>◎1月9日（水） 稲庭うどん協同組合から「するする入る合格うどん」、漆器箸職人の阿部敬さんから「すべらない合格箸」の贈呈がありました。その後、移動うどんカーで作った熱々の稲庭うどんをごちそうになりました。</p> <p>◎1月15日（火） JAこまち果樹部会駒形支部から「落ちないりんご」をはじめ、「御神符」「絵馬」「お守り」「啓翁桜」「答えデール機（シャープペン）」、地域のやまりん商店からは「合格祈願応援紅白おにぎり」が贈呈されました。どの贈呈も長年行われてきたもので、「合格うどん」が13年間、「落ちないりんご」が27年間、「合格箸」がこれまで1,628人に、「おにぎり」は3年前から贈呈されています。 地域の方々に支えられながら恵まれた環境の中で育っている稲川中学校の生徒たちが、これからの受験期に向けて体調を整えて、全力で向かう姿で恩返しすることができればと考えているところです。</p>		
○成果と ●課題	<p>○生徒代表のお礼の挨拶にもあったのですが、地域の期待と応援を力に変えて、受験に向かっていく気持ち、将来社会人になっても、地域の応援があったことを心に刻んでがんばろうとする気持ちが醸成できていることが実感できる行事となっています。</p> <p>●長年行われてきた行事を、生徒は当たり前のことと感じており、他地域では体験できないありがたみを、どう引き出していけばいいのか考えなければなりません。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 雄 勝 中 学 校		
活動名	3年総合的な学習の時間「ふるさと雄勝の未来を考える」～ボランティア活動を通して考える 地域との関わり～	活動内容	②
活動の概要	<p>1 ねらい 地域に暮らす人々とのふれあいを通して、郷土に誇りをもち、郷土の発展に貢献しようとする態度を育てる。</p> <p>2 活動の実際 (1) 地域の発展のために取り組む人の話を聞き、ふるさとについての理解を深める。 平成30年6月28日（金）桐市場見学 上院内桐材加工場（雄勝広域森林組合） (2) ボランティア活動についての理解を深め、発表会を通して実践意欲を高める。 ① 講演会 平成30年7月19日（木）「ボランティアに関する講演会」 講師：渡部光哉さん ② ボランティア活動 体験先 ○おしら様の枝垂れ桜周辺 ○寺沢公園 ○横堀交流センター ○横堀駅 ○雄勝図書館 ○平成園 ○ふくろう、ひまり、しゃくやく（デイサービス） 活動日程 9月11日（火）・13日（木）・18日（火） ③ 発表会 12月10日（月） 学年発表会 12月12日（水） 全校発表会</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の各所でのボランティア活動を通して、ボランティアの本質とは何かということを実体験をもとに深く追求し、考えることができた。また、発表会のなかで「一回の活動だけで満足せず、継続して地域のために貢献していきたい」という発言もあり、地域のために少しでも力になろうとする生徒の自主的で意欲ある姿が見られた活動となった。</p> <p>●活動内容の充実を図りながら、生徒一人一人の地域に貢献する姿勢を更に育てたい。</p>		



学校名	湯 沢 市 立 皆 瀬 中 学 校		
活動名	ふるさとの伝統芸能を発信しよう（学校行事：学校祭）	活動内容	①
活動の概要	<p>ふるさとの伝統芸能を知り、そのよさを発信するための活動として、小・中連携教育や地域の人材活用という観点から、小・中学校合同での交流発表を行った。</p> <p>1 皆瀬地区板戸番楽保存会との連携 その趣旨を説明の上で保存会の協力を得て、通常の活動に加えて発表会の練習を小・中学生（15名）合同で実施した。また、生徒により活動状況に違いがあるため、練習の場を増やして技能指導をしていただいた。</p> <p>2 出演者の保護者との連携 番楽の着付けについては、専門的な知識・技能がなければならぬことから、保護者の全面的な協力をいただいた。</p> <p>3 学習発表会（小）と学校祭（中）での交流発表 小・中学校双方の学芸的行事で、児童生徒や保護者、地域の方々の前で二つの舞の交流発表を行った。それぞれの発表では、演技の位置や役割等を配慮しながら実演した。</p>		
○成果と課題	<p>○地域の身近な学校という場において、地域に伝わる伝統芸能を実際に演示することを通して児童生徒や保護者、地域の方々にそのよさや素晴らしさを発信することができたこと、以前からの保存会や保護者の要望に応えることができたこと、小・中学校で連携しての取組はたいへん意義のあることを実感できた。</p> <p>○日頃の活動の成果を発信することによって生徒の活躍の場を広げるとともに、地域に伝わる伝統芸能の後継者育成ということからも効果的な取組にすることができた。</p> <p>●今後はコミュニティ・スクールの導入とともに、伝統文化に限らず、他の分野からのアプローチを、地域の人材・資源の活用という視点から可能な取組を模索していきたい。</p> <p>●このような取組を行う際の費用の捻出が課題とされる。市からのキャリア教育に係わる支援等を活用しながら検討していきたい。</p>		

(7) 羽後町

学校名	羽 後 町 立 羽 後 中 学 校		
活動名	雅楽の生演奏を聴く	活動内容	①
活動の概要	<p>1 趣旨 (1) 雅楽の鑑賞を通して、日本の伝統的な音楽への興味・関心を高める。 (2) 日本の伝統的な音楽の特徴から音楽の多様性を理解する。</p> <p>2 内容 3年生の音楽では、日本の伝統芸能の一つである「雅楽」の学習单元がある。しかし、雅楽は生徒にとってあまり馴染みのないものであり、楽器の音色や役割、曲想のよさを理解することは難しい。そこで音楽科では「生の演奏を聴かせたい」と考え、昨年度から地域住民の方に学校に来ていただき、雅楽を演奏していただいている。 今年度は11月26日（月）、体育館で、三輪神社の宮司さんをはじめとする5名の方々による雅楽の演奏と舞を鑑賞することができた。今回演奏した曲は「君が代」「越天楽」など6曲。そのうちの2曲では、女性の舞（歌入り）も演舞された。また、演奏後、生徒は実際に楽器を手にするなど、体験することもできた。 生徒の感想は、「CDで聴く雅楽より、生演奏の方がずっとよかった」「雅楽で聴いた『君が代』は心に響いてきた」「雅楽は神々しい感じがして、日本の文化だなと思った」「演奏を体験して、やってみたいと思った」など、「生演奏はよかった」というコメントが多かった。</p>		
○成果と課題	<p>○生徒は雅楽の生演奏に触れることにより、日本の伝統的な音楽への興味・関心を高め、そのよさを味わうことができた。また、生演奏を聴いたり楽器を体験したりすることで、各楽器の音色や役割などを理解することができた。</p> <p>●各楽器の音を拾うため、ステージ上に2本のマイクを用意した。しかし、演奏者は5人だったため、バランスよく音を拾うことができず、響きのある音を聴かせることができなかつた。来年度は演奏者分のマイクを用意したい。</p>		

(8) 東成瀬村

<p>学校名</p>	<p>東成瀬村立東成瀬中学校</p>								
<p>活動名</p>	<p>キバナコスモス植栽活動</p>	<p>活動内容</p>	<p>①</p>						
<p>活動の概要</p>	<p>本校で毎年実施している「キバナコスモス植栽活動」は、今年度「第28回全国花のまちづくりコンクール」で、花のまちづくり奨励賞、審査委員会賞をいただいた。この活動は東成瀬村小・中連携事業の一環として行われており、小・中学校周辺と村道、国道沿いにキバナコスモスを植栽する活動である。内容は「植栽活動」だけでなく、夏場の雑草除去や秋の種採取活動まで、春から秋にかけて小・中学生で行っている活動で、地域からの協力もいただき、この活動を通して様々な人たちと交流する中で、「協力する心」「優しい心」「奉仕の心」を育むことを目的としている。</p> <p>【活動のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キバナコスモスの生長に関わることで、自然の恩恵に感謝するとともに、自然に親しみ、生命を愛おしむ心を育てる。 ・生徒が植栽活動を通じて、「協力する心」を支える深い思いやりの心を育む。自分たちが育てたキバナコスモスの種を地域の人たちにプレゼントすることで、感謝の気持ちを表す。 ・種まきや除草活動、種の収穫等の活動を通して、地域に貢献しようとする意欲を高める。 <table border="1" data-bbox="390 795 1934 1264"> <thead> <tr> <th data-bbox="390 795 898 839">【1学期】</th> <th data-bbox="898 795 1325 839">【2学期】</th> <th data-bbox="1325 795 1934 839">【3学期】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="390 839 898 1264"> <p>5月上旬 ・建設業協会有志による土作り</p> <p>5月中旬 ・植栽場所の除草 ・種の袋詰め作業 ・小・中合同植栽活動</p> <p>5月下旬 ・大槌町でのキバナコスモス植栽交流</p> <p>7月下旬 ・PTA事業としてコスモス通り親子除草活動</p> </td> <td data-bbox="898 839 1325 1264"> <p>8月 ・除草、間引き作業</p> <p>9月 ・種摘み、乾燥</p> <p>10月 ・学校祭来校者一人一人に生徒から種をプレゼント</p> <p>11月 ・建設業協会有志による抜根、撤去作業</p> </td> <td data-bbox="1325 839 1934 1264"> <p>3月 ・小・中連携事業「徳育部」による今年度の活動のまとめと、次年度に向けての計画作成</p> </td> </tr> </tbody> </table>  			【1学期】	【2学期】	【3学期】	<p>5月上旬 ・建設業協会有志による土作り</p> <p>5月中旬 ・植栽場所の除草 ・種の袋詰め作業 ・小・中合同植栽活動</p> <p>5月下旬 ・大槌町でのキバナコスモス植栽交流</p> <p>7月下旬 ・PTA事業としてコスモス通り親子除草活動</p>	<p>8月 ・除草、間引き作業</p> <p>9月 ・種摘み、乾燥</p> <p>10月 ・学校祭来校者一人一人に生徒から種をプレゼント</p> <p>11月 ・建設業協会有志による抜根、撤去作業</p>	<p>3月 ・小・中連携事業「徳育部」による今年度の活動のまとめと、次年度に向けての計画作成</p>
【1学期】	【2学期】	【3学期】							
<p>5月上旬 ・建設業協会有志による土作り</p> <p>5月中旬 ・植栽場所の除草 ・種の袋詰め作業 ・小・中合同植栽活動</p> <p>5月下旬 ・大槌町でのキバナコスモス植栽交流</p> <p>7月下旬 ・PTA事業としてコスモス通り親子除草活動</p>	<p>8月 ・除草、間引き作業</p> <p>9月 ・種摘み、乾燥</p> <p>10月 ・学校祭来校者一人一人に生徒から種をプレゼント</p> <p>11月 ・建設業協会有志による抜根、撤去作業</p>	<p>3月 ・小・中連携事業「徳育部」による今年度の活動のまとめと、次年度に向けての計画作成</p>							
<p>○成果 ●課題</p>	<p>○中学校を卒業する生徒が、9年間この活動が続けてきたことを振り返り、「東成瀬村のよさ、東成瀬小・中学校の児童生徒のよさの一つとなったキバナコスモスの活動を、是非これからも続けていってほしい」と、後輩たちに語っていく姿を見て、この活動を継続していきたいという思いを強くしている。また、地域の方々に小・中学生が活動している場面を多く見ていただく機会となり、活動に対してお褒めの言葉をいただくことも増え、児童生徒の自尊感情を高める効果にもつながった。さらに、このキバナコスモス植栽活動が学校周辺だけでなく、村内の広範囲に広がっていったことで「キバナコスモスの村」が定着しつつある。</p> <p>●この活動を始めて12年となった。活動は定着したが、児童生徒数が減少し、これまでの規模をどう維持していくかなど、計画や手立ての見直しも必要である。</p>								



3 特別支援学校

学校名	大曲支援学校		
活動名	地域貢献活動「クリーンアップ」	活動内容	②
活動の概要	<p>本校高等部の教育課程に「作業学習」があります。「作業学習」では生徒が六つの班に分かれ、将来必要となる「働く力」を身に付けるために、日々実践的な学習を続けています。その中の「ビルクリーニング班」では、「私たちは学校と地域にきれいだと元気を届けます」を合い言葉に清掃の技術向上を目指し、校内にとどまらず校外でのクリーンアップ活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大曲駅のポストと、大曲郵便局のポストと建物の清掃を行いました。これは、昨年度に引き続き、大曲郵便局からの依頼があったものです。毎年4月20日は明治4年に国営郵便事業が開業したことを記念して、「郵政記念日」としており、その1週間を「ポスト愛護週間」としています。その活動の一環として、本校は清掃でお手伝いさせていただいています。 ・大曲駅長からポスト清掃の様子を見ていただき、高い評価を得て、後日、大曲駅前にある花火玉モニュメントの清掃の依頼をいただきました。清掃の当日はGW直前ということで、大曲駅のシンボルである花火玉をぴかぴかに磨き、多くのお客様をお迎えするお手伝いをさせていただきました。 <p>生徒には「仕事の報酬は、また次の仕事」と伝えています。初めは郵便局、その後大曲駅と、生徒のがんばりが次の仕事、そのまた次の仕事へとつながります。この後も実践を積み、腕を磨いて、地域の方々に喜んでいただけるように支援していきます。</p>		
○成果と課題	<p>○地域の方々に感謝される活動を繰り返しできたことで、将来働く上で必要となる「勤労観」「職業観」の基礎的能力を育むことができました。また、地域の方々に本校生徒の「がんばり」や「働く姿」を見てもらえる機会が増え、学校のPRだけではなく、障害者理解の促進にもつながりました。</p> <p>●活動場所を広げていくために、どの様な清掃箇所においても対応できるような、臨機応変に作業ができる清掃技術の習得が求められます。</p>		



学校名	大曲支援学校せんぼく校		
活動名	中学部作業学習	活動内容	①
活動の概要	<p>中学部では、作業学習の中で、仙北市西木町鎌足地区に古くから伝わる「鎌足和紙」を学校で漉いて製品作りをしている。「鎌足和紙」は江戸時代の中頃に同地区に伝わり、虫食いの無い丈夫な和紙として知られていた。明治時代後期に途絶えたが、今から約10年ほど前に、地元の方々の努力で復活した。</p> <p>中学部では、紙すきで使う楮のパルプ液を作ることから行っており、漉く段階を整えるまで手間暇がかかる。楮の皮は固いため、皮を煮てたたく作業が必要で、上質な和紙を作るために「たたき」の工程が重要だということが分かった。昨年までは、生徒と教師で行っていたが、力強くたたき続けるには、生徒の力では限界があったことから、今年度は男性2名のボランティアの方にこの工程を手伝っていただくことにし、7月、11月、1月に合計4回来校していただいた。</p> <p>力強く丁寧にたたいた皮はとても柔らかく、きめが細やかで、滑らかなパルプ液ができた。生徒も「たたいてもらった楮で紙を漉くと、漉きやすい」と楮の柔らかさを実感できた。また、漉くときの失敗が少なくなったことから作業意欲も向上し、「よい紙でお客様に製品を届けたい」と製品作りにも一生懸命取り組むようになった。</p> <p>2名のボランティアの方は、今回作業学習を手伝っていただくことになって初めてせんぼく校の存在を知り、生徒の学習の取組に深く関心をもっていただいた。これからも、作業学習でのよい関係が続いていくことはもちろんのこと、他の学習活動の中でもよい関係を築くことはできないか可能性を探っていきたい。</p>		
○成果と課題	<p>○「たたき」の工程をボランティアの方にやっていただいたことで、紙漉きの失敗が減り、生徒の作業意欲の向上につながった。</p> <p>○ボランティアの方に、せんぼく校をはじめ、児童生徒の活動を知っていただき、関心をもっていただくことができた。</p> <p>●ボランティアの方が紙漉きに興味をもっていただいていることから、生徒が作業学習でやっていることを伝えながら、ボランティアの方に紙漉き作業を体験してもらう機会を設定し、関わりの場を広げていきたい。</p>		



ボランティアの方



作業学習の様子

学校名	横手支援学校		
活動名	サンソンプロジェクト 山菜植え付け体験会への参加	活動内容	②
活動の概要	<p>1 期日・場所 平成30年5月22日（火） 横手市山内三又地区</p> <p>2 ねらい ・地域の特産物である山菜の栽培方法を学び、今後の学習に取り入れていく。 ・地域の方々や同年代の高校生との交流を通して、社会経験を広げる。</p> <p>3 参加者 ・横手支援学校高等部 ・山内南共助連合会 ・増田高等学校農業科学科 ・秋田県南NPOセンター ・横手高等学校定時制 計34名</p> <p>4 活動の概要 横手市山内地域で、耕作放棄地を活用して各種山菜を栽培・販売する事業の一つである、山菜の植え付け作業に参加した。始めに山菜の株の植え方について説明を受けた後、連合会の皆さんと一緒にウドやシドケなどの株を定植した。定植後は、各山菜が根付くように、じょうろやバケツに水を汲んできて、定植後の株周辺に散水した。水場までの往復に5分程度必要とし、それを分担して何度も行った。植え付け終了後は、昼食を食べながら、地域の方々や同年代の高校生との交流を図ることができた。 午後からは、県南NPOセンターの方に学校に来ていただき、本校敷地にワラビの株を一緒に定植した。</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の方々や同年代の高校生との交流を通して、自分たちも地域に貢献することができることを実感できた活動だった。</p> <p>○学校敷地内に山菜の株を定植したことで、山菜の生長の様子を観察し、栽培する技術を学ぶことができた。</p> <p>○10月には、ワークショップにも参加し、地域の現状や課題について同年代の人と一緒に考える機会をもつことができた。</p> <p>●次年度は、植え付けだけでなく、収穫や販売までの過程にも関わり、地域との連携・協働を深めていきたい。</p>		



学校名	稲川支援学校		
活動名	「全国まるごとうどんエキスポ2018 in 秋田・湯沢」への参加	活動内容	②
活動の概要	<p>9月29日～30日に行われた「全国まるごとうどんエキスポ2018 in 秋田・湯沢」に関連して次の活動に取り組んだ。</p> <p>1 全校クリーンアップデー 9月26日に、小学部は商店街の犬っこの石像と市役所周辺の清掃活動、中学部は商店街の歩道のクリーンアップ、高等部は湯沢市役所駐車場、商店街の道路やシャッターの清掃活動を行った。</p> <p>2 イベント期間中の活動 高等部生徒は「まるごと湯沢ミュージックストリート」という音楽イベントに参加したり、太鼓やダンスをして、稲川支援学校のPR活動をしたり、ごみの回収等のボランティア活動を行ったりした。 中学部と高等部の作業学習製品販売会を開催し、中学部生徒と高等部生徒は販売活動やちらし配りに取り組んだ。 小学部の児童は中学部・高等部の生徒たちの活動やイベントの様子を見学したり、うどんを味わったりと、学級ごとの活動を楽しんだ。</p>		
○成果と ●課題	<p>○全校クリーンアップデーでは、商店街の方々から直接「ありがとう」「どこの学校ですか」などと言葉を掛けていただき、自分たちの活動が地域に役立っていることを実感する機会となった。</p> <p>○作業学習製品販売会では、実際に製品を購入していただいたり、製品の感想を聞いたりしたことで、達成感を味わうことができた。また、製品を通して多くの方々に本校の学習活動について知っていただくよい機会となった。</p> <p>○地域のイベントに参加し、様々な方々と直接ふれあいながら活動したことで、児童生徒はよりいっそう湯沢雄勝地域について知ったり、自分たちの活動への達成感や有用感を味わったりすることができた。</p>		





4 市町村


(1) 大仙市

市町村名	大 仙 市	所属名	仙 北 公 民 館	
活動名	子ども夏まつり DX ^{デラックス} (サタデーキッズパーク)		活動内容	④
活動の概要	<p>1 目 的 地域の子どもたちが集まり、様々な創作体験や科学体験を行うことで、暑い夏を楽しむとともに、子どもや地域の人との交流を深める。</p> <p>2 会 場 仙北ふれあい文化センター</p> <p>3 開催日時 平成30年7月28日(土) 9:00~11:30</p> <p>4 参加費/申込 無料/不要</p> <p>5 周知方法 大仙市仙北地域の小学校・認定こども園と近隣の小学校へ、チラシの配布を依頼</p> <p>6 講 師 コーディネーター・教育活動サポーター・地域ボランティア・公民館職員</p> <p>7 内 容 創作体験・科学体験・屋台体験等、様々なメニューに自らチャレンジし、シールを集めていくシールラリー式のお祭り</p>			
○成果と●課題	<p>○ゲーム機では体験できない、手や体を使った体験や人とのふれあい・交流を楽しめるお祭りです、夏休み期間中ということもあり、毎年たくさんの子どもと保護者が一緒に参加してくれる。今年度の参加者は、子どもと保護者併せて約164名であった。様々な体験にチャレンジしていくことで、参加者自身の素養の滋養が図られている。</p> <p>●対象が子どもであり、一つ一つの体験を教えるのにたくさんの人手がかかる。子どもにとって貴重な体験ができるよう、人材確保は常に課題となっている。今後は、大人だけでなく中学生や高校生のボランティアの協力も依頼して事業を進めていきたい。</p>			

(2) 仙北市

市町村名	仙 北 市	所属名	生 涯 学 習 課	
活動名	子ども演劇体験講座		活動内容	③
活動の概要	<p>1 目 的 演劇を通して、子どもたちの豊かな表現力やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、仲間と共に劇を創り上げることによる達成感を体験させることを目的とする。</p> <p>2 期 日 平成30年7月25日(水)、7月31日(火)、8月2日(木)、8月4日(土)</p> <p>3 会 場 仙北市民会館</p> <p>4 講 師 わらび座劇団員 3名</p> <p>5 対 象 市内小学5・6年生</p> <p>6 内 容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日目 シアターゲーム *お互いを知り合う。心を解放する。大きな声を出す。 ・2日目 演 技 指 導 *セリフに気持ちを込めて語る。 ・3日目 演 技 指 導 *物語に沿って、動きながら演技する。 ・4日目 演 劇 発 表 *練習の成果を、保護者や学校関係者等に見てもらう。 			
○成果と●課題	<p>○新たな試みの事業であったが、子どもたちは、回を重ねるたびに相手に気持ちを伝える術を学び、自己表現や譲り合いの心などが成長していく姿が見受けられた。子どもたちは、達成感に満ちあふれ、何か大きなものを得ることができた。</p> <p>●夏休みを利用した開催だったが、参加者が少なかった。</p>			

市町村名	仙 北 市	所属名	角 館 公 民 館
活動名	大曲支援学校せんぼく校交流事業 (仙北市民大陶芸学科)	活動内容	③
活動の概要	<p>1 期 日 平成30年7月9日(月), 11月12日(月)</p> <p>2 会 場 大曲支援学校せんぼく校</p> <p>3 講 師 仙北市民大陶芸学科 3人</p> <p>4 対 象 大曲支援学校せんぼく校中等部 1～3年生</p> <p>5 参加人数 生徒9人, 先生6人</p> <p>6 制 作 物 1回目 平皿 2回目 マグカップ</p> <p>7 内 容 仙北市民大陶芸学科の皆さんが, 大曲支援学校せんぼく校へゲストティーチャーとして出向き, 陶芸の基本的な技術について教える。</p>		
○成果と ●課題	<p>○地域の方々と, 生徒及び先生との交流ができた。</p> <p>○作品を学園祭に出品している。</p>		

市町村名	仙 北 市	所属名	田 沢 湖 公 民 館
活動名	昔語りを聞く会	活動内容	③・④
活動の概要	<p>1 期 日 平成30年7月4日(水), 10月18日(木)</p> <p>2 会 場 思い出の潟分校</p> <p>3 講 師 田沢湖かたりの会</p> <p>4 対 象 生保内小学校3年生(6人), 4年生(30人)</p> <p>5 内 容 ・田沢湖潟地区で活動する方々のお話を聞く学習カリキュラムを支援する事業。 ・田沢湖公民館を中心に活動し, 地域の昔話や伝説などをお話しするボランティア団体に, 講師を依頼する。</p>		
○成果と ●課題	<p>○今年度から当公民館で初めて実施した地域学校協働活動である。参加した児童・担当教員・保護者, さらには「田沢湖かたりの会」の皆様にもたいへん好評であり, 順調な滑り出しとなった。</p> <p>●公民館には, 学校現場のニーズを把握し, 様々な要望に対して応えられる体制づくりが求められている。生保内小学校での活動を様々な面から支援する各種団体(PTA, 地域運営体ほか)の集合体である「生小応援団」との連携を深めながら, 地域で学校を支える体制をつくっていききたい。</p>		

市町村名	仙 北 市	所属名	西 木 公 民 館
活動名	地域学校支援講座	活動内容	③
活動の概要	<p>地域の小・中学校を対象に、地域・学校・市が連携した事業を行った。</p> <p>1 西明寺中学校・桧木内中学校 (1) 期日：平成30年7月13日（金）、18日（水） (2) 会場：各中学校 (3) 講師：西明寺婦人会・桧木内婦人会 (4) 対象：全学年 (5) 内容：地元のお祭り「戸沢氏祭」に向けて、伝統的な踊りの練習をする。</p> <p>2 西明寺小学校 (1) 期日：平成30年10月16日（火） (2) 会場：西明寺小学校 (3) 講師：学校関係カメラマン (4) 対象：5・6年生 (5) 内容：デジタルカメラの使い方やきれいに撮る方法等を学ぶ。 撮影した写真は、後日、西木地区各所へ展示される。</p> <p>3 桧木内小学校 (1) 期日：平成30年11月9日（金） (2) 会場：桧木内小学校 (3) 講師：地元料理活動家 (4) 対象：4・5年生 (5) 内容：完成形を想像しながら、のり巻きの作り方を学ぶ。</p>		
○成果と ●課題	○地域の伝統的な踊りを継承する一助となった。 ○地元の人と交流するきっかけとなった。 ●学校の意向を踏まえながら、来年度は各校2回ずつ実施したい。		



(3) 美郷町

市町村名	美 郷 町	所属名	生 涯 学 習 課
活動名	自衛隊コンサート	活動内容	④
活動の概要	<p>1 事業の目的 住民に優れた音楽にふれる機会を提供し、心豊かに健やかに生き生きとした町づくりに寄与することを目的とする。</p> <p>2 事業の内容 ・自衛隊コンサートの開催 ・自衛隊音楽隊による中学校吹奏楽部への演奏指導</p> <p>3 平成30年度の活動 ・自衛隊コンサート前日に、音楽隊による中学校吹奏楽部への演奏指導を依頼し、実施した。</p> <p>・自衛隊コンサート当日は、中学生による運営補助（受付、会場案内）と合同演奏を実施した。</p>		
○成果と ●課題	○プロの演奏家から御指導をいただき、中学生の演奏技術向上と自信をもつことに寄与した。 ○音楽隊との交流で、中学校生活での心構え、進路等を考えるきっかけになった。 ○運営に携わることで、来場者とふれあい、自ら考えて行動する機会ができた（来場者からは、気持ちよく演奏を聴くことができたという好評をいただいた）。		



市町村名	美 郷 町	所属名	生 涯 学 習 課
活動名	わくわくサマースクール・わくわくウインタースクール		活動内容 ④
活動の概要	<p>1 事業の目的 子どもたちに様々な体験や学習の場を提供して、長期休業期間中の居場所をつくり、自ら考え行動する「生きる力」を育む。また、異年齢や地域間交流を通じて互いの理解を深め、豊かな社会性を身に付けることを目的とする。</p> <p>2 事業の内容 町内の小学生（1～6年）を対象に、長期休業期間中に子どもたちの体験活動と居場所づくりを兼ねて、「わくわくスクール」を開催している。地元で活躍されている方や各種有資格者を講師に招き、地域学校協働本部と家庭教育支援チーム（町生涯学習奨励員協議会）の協力を得て、ものづくり、自然体験活動、科学実験などを実施している。</p> <p>3 特記事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度から家庭教育支援チームに参画いただいた。 事業内容によって親子（保護者）参加を可能とした。 <p>4 平成30年度の活動</p> <p>(1) 夏季</p> <p>7月25日 整備士さんから学ぼう！航空教室（秋田空港） ※ J A L の協力 15名参加（小学生限定）</p> <p>7月31日 コズミックカレッジ～水ロケットを作って飛ばそう ※ J A X A の協力 33名参加（小学生30名，保護者3名）</p> <p>8月2日 清水川で生物観察しよう 38名参加（小学生34名，保護者4名）</p> <p>8月1～3日 特別授業 J A L 特別協力「空と飛行機の世界」展鑑賞 140名参加（児童クラブ在籍者，児童124名，引率16名）</p> <p>8月8日 プロジェクトアドベンチャー&ハイキング（県立保呂羽山少年自然の家） 29名参加（小学生限定）</p>      <p>(2) 秋季</p> <p>10月7日 コズミックカレッジ～熱気球&フィルムケースロケットを作って飛ばそう ※ J A X A の協力 ※台風接近の恐れがあり中止</p> <p>(3) 冬季</p> <p>12月26日 そば打ち体験&実食 ※みさぽーとの協力 23名参加（小学生19名，保護者4名）</p> <p>1月5日 新春こども将棋大会 ※美郷町囲碁将棋クラブの協力 9名参加（小学生9名，保護者参観3名）</p> <p>1月8日 コズミックカレッジ～熱気球&フィルムケースロケットを作って飛ばそう ※ J A X A の協力 30名参加（小学生28名，保護者2名）</p> <p>1月11日 オセロを自作して対戦しよう 20名参加（小学生19名，保護者1名）</p>   		
○成果と課題	<p>○体験活動や学習を通じて、子どもたちの自主性や創造性，協調性が育まれた。</p> <p>○地域間交流が図られ，友だちづくりや仲間づくりに寄与した。</p> <p>○保護者間のつながりを構築することに寄与した。</p> <p>○保護者も参加することで，家庭での話題づくりなどに寄与した。</p> <p>○地域学校協働本部や家庭教育支援チームの協力があり，スタッフ数が豊富になった。</p> <p>●小学校高学年はスポ少などで多忙のため，参加率が低い（参加したくても参加できない）。</p>		

(4) 横手市

市町村名	横手市	所属名	生涯学習課
活動名	学校支援ボランティア活動推進事業	活動内容	③
活動の概要	<p>横手市では、学校の教育活動にボランティアとして参加して下さる方を募集し「学校支援ボランティア」として登録している。平成18年度から行われており、現在の登録者数は約200名。学校は、必要な人材を登録者の中から探し、協力を依頼することができる。</p> <p>この事業の目的は大きく二つある。一つは教育活動の多様化・活性化を地域で支えること、もう一つは地域人材の活用の推進である。小学校の多くでボランティアによる読み聞かせを実施しているほか、学校田の活動指導、調理実習や裁縫、ミシンを使った授業の指導補助、国際理解学習の講師、部活動の指導など、多彩な活動を地域住民が支援している。</p> <p>平成28年度には、学校と地域住民との連絡調整を行うコーディネーターを、新設校1校（横手北小）に試験的に配置した。その後配置箇所を増やし、現在は5地区（雄物川小、十文字西地区館、大森公民館、増田公民館）6人のコーディネーターが、授業や学校行事に多くの住民を携わらせ、一層学校に愛着をもってもらえるように心がけながら業務を行っている。また、統合前の地域の枠を越え、できるだけ多くの住民の手で子どもを育てる環境づくりを目指すとともに、地域の活動に学校側も関わり、双方向型の活動へと展開することを目指している。</p>	 <p>山内いものこ植え付け指導</p>	
○成果と ●課題	<ul style="list-style-type: none"> ○コーディネーターの配置により、新たな地域人材を発掘し、教育活動を支援できた。 ●コーディネーターの育成とともに、公民館等と連携して、より多くの地域人材を発掘する。 ●学校への支援だけでなく、学校側も地域の活動に関わることによって、双方向型の活動を推進する。 		

市町村名	横手市	所属名	生涯学習課
活動名	横手市わくわく子ども教室	活動内容	③・④
活動の概要	<p>横手市では、夏休みや冬休み等の長期休業期間中に「わくわく子ども教室」を開催している。公民館等の身近な施設を会場とし、子どもたちは勉強や文化活動、スポーツなど様々な体験活動を行う。開催日数は夏休み10日間、冬休み5日間の計15日間。平成19年度のスタート時は1か所のみの教室であったが、その後は地域の要望等に沿って年々教室数を増やし、現在は市内8地域16教室を開設している。</p> <p>子ども教室の活動は午前9時～正午まで。活動内容は、前半が朝読書と自主学習、後半が体験活動としている。体験活動は理科実験や工作、茶道、昔語り体験、ヒップホップダンスなど、地域住民を講師とし各教室で毎回異なった内容を展開している。そのほかALTによる英語体験や、スポーツ推進員によるニュースポーツ体験、関東の学生との交流なども実施しており、子ども教室は児童があらゆる年代や立場の人とふれあえる場になっている。</p> <p>本事業は地域住民約80名の協力によって運営できており、各教室には3～5名の指導者を配置している。元教員や保育士、生涯学習奨励員、読み聞かせボランティア、放課後児童クラブ指導員など、教育活動に携わる方も多い。実施に当たっては各教室で打合せを重ねるほか、担当課と対象小学校での情報共有を図り、それぞれ連携をとりながら期間中の指導に当たっている。</p>	 <p>地域住民による「正月飾りづくり」の指導</p>	
○成果と ●課題	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民の参画を得ながら様々な体験活動の機会を提供している本事業へは、夏休みに352名、冬休みに355名の参加があった。 ○公民館主催事業とも連携して実施できた。 ●体験プログラムがマンネリ化したり、学びに関連した体験や地域の特色を生かした体験活動が不足したりする。 ●小学校1～6年生と幅広く募集していることに加え、サポートが必要な児童なども参加している。体験活動の内容によっては指導者だけでは目が届きにくいこともある。事故やけが等なく活動できるよう、指導者の資質向上とボランティアの確保、運営体制を引き続き改善していく。 		

(5) 湯沢市

市町村名	湯 沢 市	所属名	山 田 地 区 セ ン タ ー	
活動名	縄ない教室		活動内容	②
活動の概要	1 日 時	平成30年11月8日(木) 午前10時35分～正午		
	2 場 所	山田地区センター 講堂		
	3 参加者	山田小5年生児童40人		
	4 講 師	山田老人クラブ連合会		
	<p>講師から、わらが昔はどの様な用途で使われ、また、どの様な用具が作られていたかなどの説明があった後、実際に縄ないに挑戦した。</p> <p>最初は縄をなうのが難しく、なかなか進まなかったが、講師に教えてもらって長くなうことができるようになり、児童からは、「長い縄ができてくると楽しい」などの声が聞かれた。</p> <p>また、講師として来てくださった方からは、「子どもたちがだんだん上手になっていったので、楽しく教えられた」などの声が聞かれた。</p> <p>ときおり、「自分の集落の子どもと久しぶりに話した」などの声があり、高齢者と児童との世代間交流が図られたよい機会となった。</p> <p>子どもたちは、昔の生活では欠かせない縄ないを通じ、古きよき文化を体験していた。</p>			
○成果と ●課題	○高齢者と児童との世代間交流が図られたよい機会となり、講師として来てくださった方からは、参加した子どもたちが昔の文化にとっても興味をもって聞いてくれたので、「教えていて楽しかった」「小さいころから見ている児童の成長を肌で感じる事ができた」といった喜びの声が聞かれた。			



市町村名	湯 沢 市	所属名	三 関 地 区 セ ン タ ー	
活動名	陶芸体験教室		活動内容	③
活動の概要	1 日 時	1回目 平成30年10月17日(水) 午前9時30分～11時40分 2回目 平成30年11月19日(月) 午前9時30分～11時40分		
	2 場 所	1回目 三関陶芸同好会工房(三関地区センター敷地) 2回目 三関地区センター多目的ホール		
	3 参加者	三関小5年児童10名・三関陶芸同好会会員8名		
	<p>1回目は成形作業。今回は、コーヒーカップと葉っぱを型取った皿を製作しました。児童は初めて目にする道具や土の感触に悪戦苦闘しながらも、芸術の秋にふさわしい作品づくりに楽しく取り組みました。最初、コーヒーカップを製作しましたが、取っ手を付けるところに少し難儀したようです。無事コーヒーカップが出来上がると、次の皿の製作はスムーズにいき、手際よく作品を作ることができました。成形後は、講師である三関陶芸同好会会員により補修と素焼きが行われ、11月19日実施の色付け作業に備えていただきました。</p> <p>2回目は色付け作業。講師によりきれいに素焼きされた作品に、思い思いの色を付けました。用意された釉薬は10色。焼き上がると全く別の色に仕上がるため、出来上がりを想像しながらの作業となり、2色、3色の色の組み合わせ方や付け方を指導してもらいました。色付け後は三関陶芸同好会工房にある窯で本焼きされ、完成となります。</p>			
○成果と ●課題	○自らの手で物が形になっていく過程を体験してもらう中で、自分の作品に対する思いが生まれ、児童一人一人の創造性の豊かさを見ることができました。また、三関陶芸同好会会員が日頃活動していることを、地元小学生に体験してもらうよい機会になりました。完成した作品は、3月に行われる三関地区冬のつどいで地域の方々にお披露目する予定になっており、終了後児童に手渡されることになっています。			





市町村名	湯 沢 市	所属名	須 川 地 区 セ ン タ ー
活動名	絵どうろう教室	活動内容	③
活動の概要	<p>1 日 時 1日目 平成30年7月24日(火) 9時00分～17時00分 2日目 平成30年7月25日(水) 9時00分～12時00分</p> <p>2 場 所 須川地区センター 1階 講堂</p> <p>3 参加者 須川小5年生3名</p> <p>4 講 師 指導者3名 七夕絵どうろう独特の「美人画」の技法を教えもらいながら描くことで、作品に対する作者の思い入れを味わうことができ、お祭り自体も今までとは違った目線で楽しむことができたと思う。 2枚の絵のうち1枚の下絵を講師の先生にお願いしたこと、参加児童が片付けを率先して手伝ってくれたことにより、予定通りに作業工程を終えることができた。</p> <p>【作業工程】: 1日目 絵描き 2日目 習字・絵貼り 七夕絵どうろうまつり独特の「美人画」の技法を学びながら、講師から直接指導をしていただく機会を通し、湯沢の伝統の祭りの継承を学んだ。</p> <p>【審査結果】: 金星3 出来上がった作品は、お祭り期間の8月5日(日)・6日(月)・7日(火)、大町～田町商店街に飾られた。 湯沢市観光物産協会より、児童3名へ参加賞をいただいた。</p>		
○成果と ●課題	<p>○伝統行事にふれ、自ら参加する楽しさを体験することで、伝統行事の偉大さを実感するとともに、故郷を愛する心が育まれる。湯沢で行われる夏の伝統行事の一つである七夕絵どうろうを、子どもたち自らの手で作ることで、夏の日の素敵な思い出づくりと故郷への愛着心を育む機会となった。</p> <p>○2日間で、着色を含めた2枚の絵を仕上げるため、半面の下絵を講師の先生にお願いし、一つの絵どうろうを自分で作り上げた。子どもたちは、作品を通し作者の思い入れにふれながら、作品を完成させることができ、その笑顔がとても満足そうだった。</p>		

市町村名	湯 沢 市	所属名	雄 勝 生 涯 学 習 セ ン タ ー
活動名	湯沢市・平内町交流事業「山の子・海の子 森の教室」	活動内容	③
活動の概要	<p>青森県東津軽郡平内町は、陸奥湾での養殖ホタテの生産量日本一を誇り、ホタテの町として知られている。 ホタテ養殖の研究者、故・山本護太郎博士(湯沢市院内出身)は、その第一人者であり、世界で初めてホタテの人口産卵に成功した、陸奥湾ホタテ養殖の祖とされる人物である。このような縁から、森豊かな郷土(湯沢市)に住む子どもと、水豊かな郷土(平内町)に住む子どもが大自然の中で共に生活をし、海の子には、山や農村への関心と理解を深めてもらい、山の子には、生まれ育った故郷の山や郷土への誇りと愛着心を育てるとともに、山村と漁村のより親密な交流を図ることを目的として、平成27年度より子ども交流事業を開始した。 平成30年度は、平内町の児童21名を湯沢市に迎え入れ、プロジェクトアドベンチャーや野外炊飯、蒔絵教室などを共に体験し、交流を深めた。</p> <p>開 催 日 平成30年7月26日(木)・27日(金)</p> <p>会 場 湯沢市 とことん山キャンプ場</p> <p>参加希望者 雄勝小5・6年生(17名)・平内町5・6年生(21名)</p>		
○成果と ●課題	<p>○1泊2日の限られた時間であったが、学年や男女に関係なく楽しく交流することができた。</p> <p>●湯沢市で迎え入れるときに、双方の参加児童とスタッフ(合計約70名弱)を、安価で宿泊収容できる施設が雄勝地域に無い。</p>		

(6) 羽後町

市町村名	羽 後 町	所属名	教 育 委 員 会
活動名	わくわく教室（放課後子ども教室）	活動内容	③
活動の概要	<p>1 事業の目的 放課後等に、希望する全ての子どもたちを対象に安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動等の取組を実施し、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを図る。</p> <p>2 事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設場所 2小学校（羽後明成小学校・高瀬小学校） ・実施期間 平成30年4月5日～平成31年3月21日 ・開設時間：平日放課後 午後3時～午後6時 ：長期休業期間 午前8時～午後6時 ・主な活動 平 日：自主学習・読書・図画・盤ゲーム・ボール遊び等 長期休業：工作・読み聞かせ・自主学習等 	 	
○成果と●課題	<p>○地域の方々の協力を得ながら、絵本の読み聞かせや工作等の体験活動を通じて、異学年児童の交流が図られた。高学年が低学年の面倒を見る習慣ができてきた。</p> <p>●多彩なプログラムを実施するための人材確保が難しい。また、低学年児童の参加率が高いため、児童の安全管理が負担となる場面がある。指導員の資質向上や人材確保、放課後児童クラブとの連携も含め、運営体制の改善が課題となっている。</p>		

(7) 東成瀬村

市町村名	東 成 瀬 村	所属名	教 育 委 員 会
活動名	放課後子ども教室 仙人郷「虎の穴」	活動内容	③
活動の概要	<p>東成瀬村では、なるせ児童館において、放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体型で開催し、放課後の子どもたちへの学習指導や安心・安全の場の提供を行っている。</p> <p>今年度からは、地域おこし協力隊に協力していただき、定期的に「放課後スポーツ教室」を開催している。また、その他の活動では、地域に出向き、老人クラブや学校、各地域団体との連携を密にし、多くの人と関わりをもつ事業を実施している。</p> <p>1 放課後スポーツ教室 地域おこし協力隊を講師に迎え、様々な運動・スポーツの体験教室を実施している。平成30年12月から定期的に開催しており、習熟度別に様々なメニューを行っている。</p> <p>2 子どもスキー教室 平成31年1月10日・11日にジュネス栗駒スキー場で開催した。地元スキークラブの方々に指導していただき、スキーを通して幅広い年代の交流が図られた。</p>	 	
○成果と●課題	<p>○今年度から、新規に放課後スポーツ教室を開催し、運動・スポーツに関する興味・関心を高め、子どもたちの健康づくりに寄与できた。</p> <p>●地域指導者の高齢化に伴い、講師数の減少や知識・技術の伝達が課題となっており、新たな人材の発掘・育成が必要となっている。</p>		